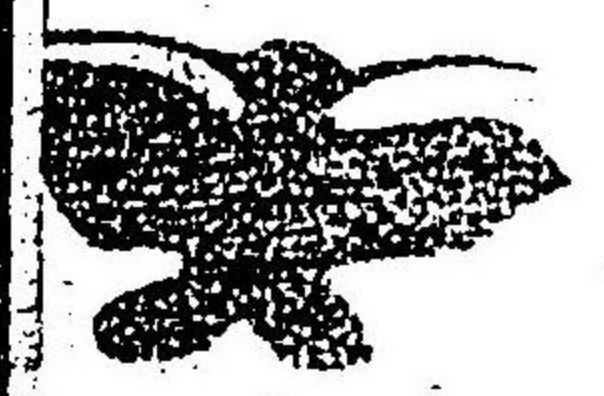
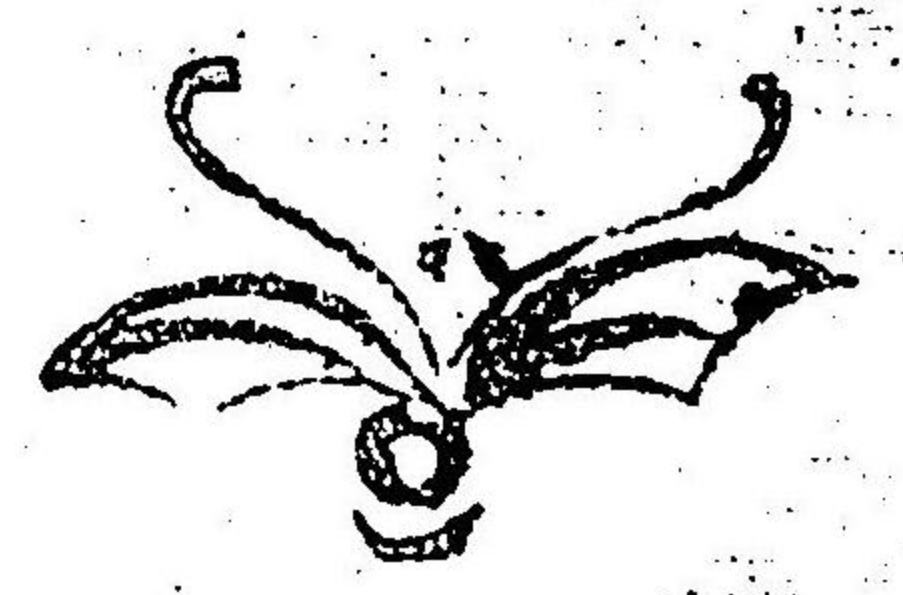


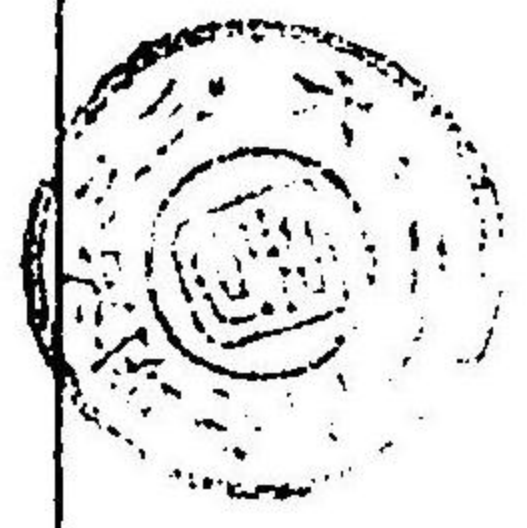
192
55

故實御代始抄
叢書有職袖中抄

全



御代始抄
有職袖中抄



一條兼良は左大臣従一位關白藤原經嗣の第二子なり兄經輔病を以て薙髮するに及び兼良代りて父の後を繼ぎ累進して左大臣従一位に至り文安三年太政大臣に拜せられ四年六月關白氏長者となりぬ享徳二年に至りて兼良職を辭せしかば詔して三宮に准せられ食邑三千戸隨身兵仗および年官年爵を賜ひき長祿二年これを辭し應仁元年復關白に補せられぬ二年八月亂を避けて九條に寓居したりしが應仁の亂戰鬪の盛なるにおよびて又九條を去りて南都に到り僧房に寓居して時勢の靜寧に至るを待ちぬ文明二年關白を辭し四年美濃に遊びて藤河記を作り五年六月髮を削りて法名を覺惠と稱し十三年四月年八十にして薨せり諡して後成恩寺といへり兼良博學多識にして最も朝典に熟し和歌をよくし又神道に通じ佛書に涉りしかば當時推して才學絶倫と稱せられき其の著す所公事根源文明一統記桃華葉樵樵談治要歌林良材連珠合璧雲井春等の書あり兼良はじめ桃華坊に居りてみづから桃華老人或は桃華野人と稱し又三關老人といへりつねに自らいはくわれ菅丞相に勝れるもの三ふり攝家たり太政大臣たり延喜以後の事を諳せりと人ありかつて兼良を招きて床頭に菅公の像をかき兼良悦ばずして曰はく彼れをして我が席上に置くは何ぞやと以て其の氣魄を想望するに足らん

此の書は一名を御即位假名鈔といひ又三知鈔ともいへり御讓位の事踐祚の事御即位の事御禊行幸の事大嘗會の事五節の事等を載せたり一讀して其の式を目的のあたり見る心地せらるゝは博覽の識を以て流暢の筆にうつしたればなるべし

奥書に依ニ僧宗祇所望ニ馳レ筆了文明十年二月日後成恩寺禪閣とあり又此一冊識書第一秘中之秘也努々不可出ニ函底ニ矣寛正第二正月吉辰大外記とあり胡胸に附したるは寛永八年正月なりといふ

此の書はかくの如き小冊子なれば今はつぎの有職袖中鈔と合綴したり

有職袖中鈔は何人の筆たるか詳かならざれども貞享元祿の頃の著たるは疑ひなきものゝ如しをもく我が國體の一系連綿として他邦に卓絶せるより筆を起し歴代の帝都を探り故實に關する漢語の出處を説き又内裏の門號宮殿の稱呼より諸司百官の職掌管絃蹴鞠の家系等に至るまですべて有職に關することは其の要を摘みてこれを録せり折に觸れて筆を執れるものには順序の整はざるが如き痕跡は免れざれども初學の人には最も便益なるものなるべし

此の書は東京帝國大學史料編纂係の藏本を以て謄寫したり其の際山田安榮氏は謄寫せしむる斡旋の勞をとられたるのみならずみづから一讀して誤脱の注意をも與へられ校訂上益を得たること鈔からずこゝに記して其の芳情を謝す

校訂者 謹

御代始鈔

御讓位の事

一條兼良著

父子にあらすして受禪の時は皇太子參上して椅子につきて上表の禮あり天慶九年村上天皇の御兄朱雀院の御讓をうけ給ふ時上表揖讓の義あり其の後安和二年に圓融院の冷泉院の御ゆづりを受け寛弘八年に三條院の一條院の御讓を受けて位につき給ふ時皆この禮ありし也幼主の時は揖讓の禮なし長和五年後一條院の三條院の御ゆづりを受け給ふ時は後一條院九歳なり幼主たるにより此の禮なし抑承元四年順德院の土御門院の御ゆづりを受け踐祚ありし時順德院十四歳にてましくしかば上表の儀式あるべきに上皇后鳥羽院の仰によりてその義なかりしをば世以て難し侍らし事なり

父子讓國の時は子たる道より父の命をそむくべきことわりなきによりて義讓の事なし幼主成人によりざる也しかるに寛德二年に後冷泉院の受禪は父帝後朱雀院よりつたへ給ひしかば揖讓の義あるべからざるに上表の義ありし是又しかるべからざるよし其の沙汰ありけり御讓位の時は誓固固關節會宣制勅璽渡御新主の御所の儀式等あり是は毎度の事也御國ゆづりは天下の重事世の替りめたるによりて非常をいましめんために誓固固關といふ事をまづ最前に行はるゝ也誓固といふは或は兼日或は當日に上卿陣に着きて六府の將佐をゆめて司々かためまもりまつれど仰すれば將佐稱唯してしりぞく是を誓固となづくる也誓固は讓位にかざらず毎年の賀茂祭以下とある時行はるゝ事也固關といふは關々をかたむる事なりむかしは奥州の蝦夷やゝもすれば都に亂入せんとせ

し事のありしによりてその用心のため東山東海の關をかためしむるなり今は伊勢の鈴鹿の關近江の逢坂の關美濃の不破の關を専らまもらしむるなり其の儀は大臣陣につき内記をゆめて勅符をつくるべきよし仰す又辨をゆめて官符をつくるべきよしをおぼす勅符といふは三ヶ國の國司のかたへ關々をかたむべきよし仰せ下さるゝ文なり御査ある例もあり又なき例もあるなり御査とは内記が月日の間に闕字をしたる所に宸筆にて日づけをわそばし入らるゝ事なり官符といふは是も三ヶ國の國司の方へつかはさるゝそへ文なり勅符にも官符にもおのゝ請印の事ありこれに又木契とて内記におほせて木にて割符をつくりて上卿その國に給ふといふ四字を書きて内記に給へば内記刀と石とを隨身して二つにわりて取合せて上卿に奉るなり上卿さらに奏聞し請印等の事終りて勅符をば少納言主給に仰せて木の函に入れて糸を以てゆひからめ松脂にて堅く封するなり木契をば内記紙にてつゝみておのゝその國の名をしるす也内記又宮の銘を書きて革の襪に入れて某國にたまふ勅符のよし短冊をつくるなり木契の左の方をば國司の方へつかはす右の方をば少納言にたまひて鈴の唐櫃にをさめしむ是は固關の時に使にたまひて其のうたがひをやめんため也固關の使には五位の人を用ふ則左右の馬寮に仰せて御馬をたまふ上卿其の使をゆめて勅符木契を給ひてその國にまかりてその關を守るべきよしを仰す是に又内舍人一人をおのゝそへて官符と驛の鈴二口とを給ふなり其の後節會の儀式あり大臣陣の座にして内記をゆめて宣命の草をたてまつらしむ内覽奏聞あり返し給ひて清書しても又内覽奏聞あり定れる事也宣命使には中納言或は參議を用ふ則その人にて是を仰す天皇南殿に出御この日は御熊をかけてあらはにはおはしませず近衛次將も縫殿の袍に壺胡鉢を負ひて陣をひく常の節會には替る事なり大臣陣をたちて軒廊にすゝみたつ内侍階にのぞみて召のよしを告ぐ内辨宣命を笏にとりそへて昇殿して兀子に着くすなはち開門を仰すれば關司座につく内辨二音舍人をめせば

少納言かはりて版位につく此の時内辨刀禰を召せと仰す刀禰は六位已上の人をいふ也其後諸卿參上列立す異位重行(二位一位三位一位四位一位)これを異位といふ三四位等かさなり立を重行といふ也(衛府の公卿は弓箭を帶して列する也次に内辨宣命使をゆめさるゝ人列をはなれて階より昇りて内辨のうしろにたつ内辨宣命を授く是を給はりて殿をくだりて軒廊の北の方にたつ次に内辨下殿して公卿の列にたちくはる次に宣命使列の前をへて版位につきて宣命をよむ二たびによりて宣制二段といふなり諸卿是をうけたまはりて一段ごとに再拜をいたす或は後段には舞踏する例ありこれは天位を太子に譲りたまふよし宣命の文にのせられたるを百官うけたまはりてかこまり申す由也宣命使本列にくはる其の後内辨以下退出す勅授帶劔の人は中門を出づる時劔を撤する也勅授とは帶劔すまじき職にてゆるされをかうふりて劔を帶することその一代にかざるにより代かはれば先帶劔をやむる事也とよりの衛府官は職につきたるによりて帶劔かはる事なし宣制二段の時拜舞の事先例不同也たゞし保元以來多くは拜舞也次に劔璽渡御の事あり舊主の御所より三種の神器を新帝へ渡さるゝ義なり掃部寮路の間に筵道をしきて近衛次將兩人劔璽を持ちて筵道のうへをわゆむ關白以下皆扈從す行幸のごとし近衛の次將階をのぼりて内侍に是を授く内侍二人おのゝ劔璽をとりて夜御殿に安置すそのち新主晝御座に出御あれば關白御前の圓座に候す先藏人一人を定め仰す藏人すなはち庭にすゝみて舞踏す其の後その藏人をもちて牛車轡車昇殿勅授等もとのごとくたるべきよしを仰す藏人陣に出で、第一の公卿に仰す上卿すなはち外記をゆめて仰す次に公卿以下この仰をうけたまはるによりて庭中にすゝみて拜舞す次にまたさきの藏人をもちて藏人の頭二人五位藏人三人六位の藏人殿上人の昇殿等の事を仰す藏人殿上口にして出納に仰す次に新補の貫首以下慶を奏して殿上に候す其の後太政官方藏人方の吉書を進覽す内侍所渡御の時は六府ならびに職事一人

供奉す主上は庭上にくたり立たしめ給ふ殿上の雜具どもをわたされて次第の事共しるしつくるにいとまわらず殿上の名對面近衛の夜行等の事あり近代はそのよしばかりなり
踐祚といふ名は位をふむといふ心なり祚の字もとは祚の字なれども多分祚の字を用ひ來れりこの二字はひとへに新帝に懸りたる名目也受禪と讓位とは新舊の兩主にわたれる名なり脱屣といふはくつをぬぐといふ心也昔虞舜といふ聖人の天位をひさばる心のましまさざるに依りて位をさる事をば蔽れたる履をぬぐが如く思ひ給へりやふれたるくつをぬぎすつる事露ばかり惜しき心なきにたどるなりこれは舊主につきたる詞也踐祚といふ事は別して非常の時に立王の事或は上皇の詔命などを以て行ふ事なり嘉承二年堀川天皇崩御の時鳥羽院の踐祚ありしは祖帝白河の院の詔命をもて行はれしが如し又久壽二年後白河院の踐祚壽永二年後鳥羽院の踐祚等又これに同じ其の後元弘建武等劔聖なくして踐祚あり皆壽永の例を用ふ承久三年後堀川院の踐祚は天下擾亂によりて關東の沙汰として立王法皇の尊號の事ありし珍らかりし例也觀應三年後光嚴院の御時は節會の儀なく劔聖なく上皇の詔命もなし毎事新儀をもて行はれし事ども也末代にはさのみあるべき事にこそ覺ゆ侍れ壽永には左大臣經宗公次第を作り奉れり宣命の詞には太上法皇の詔旨のよしをのすたらし宣制の義におよばず大臣陣にして大外記をめして中務につたへ給ふべきよしを仰するなり

御即位の事

即位といふは天子受禪の後まじしく南面の位につかせ給ひてはじめて百司萬民に龍顏を見えさせ給ふよし也その月はさだまれる月なし其の所はむかしより大極殿の高御座につかせ給うてこの事をおこなはるしかるに冷泉

院は紫宸殿に出御ありて即位の儀ありこの御門は御邪氣をいたはらせ給ひしによりて大極殿までは行幸なかりしにや又後三條院治暦四年の御即位は大極殿焼失の後いまだ造作なきによりて太政官廳に行れ侍り其の後安徳天皇治承四年の御即位も紫宸殿にして行はるこれも大極殿焼失せしが故なり後鳥羽院元暦元年は又太政官廳にして即位の事ありそれより後は一向に官の廳にて行はるゝ事となれるなり

御即位の日時は上卿着陣して辨に仰せて是を勘へ申さしむ又擬侍従の事は上卿例文硯等をめして參議をして是をかゝしむ侍従といふは天子の左右に侍りて拾遺補闕をつかさどるの職也もとよりその職ありといへども即位の時はその日一日しかるべき人をえらびてその代とするによりて擬侍従とは名付くるなり左右におのゝ二人あり一人は三位一人は四位の人を用ふ或は親王をもて三位の侍従に用ふる事もありしなり又左右の少納言各一人宣命の使一人中納言を用ふ典儀一人少納言を用ふこれらは皆擬侍従のさだめ文にのする物なり又禮服の公卿の人数は職事一紙にしるして大臣にくだす大臣外記に仰せてその人々につけめぐらさしむ此の外大將代（大將は元來これありといへども即位の日ばかりに餘人をその代とするを大將代と云ふ）褰帳の女王（褰帳は御張の南面の帷をかゝぐる女王也是王氏の女也神祇伯の女定れる事なり）典侍威儀の命婦などいふ事ども兼ねてより定め仰せらるゝ也由の奉幣といふは御即位あるべき由を伊勢太神宮に申されんため神祇官に行幸ありて奉幣使をたてらるゝ事なり本儀は大内より建禮門へ行幸ありて行はるゝ事也しかれども後三條院治暦四年即位の時建禮門なきによりて神祇官にして是をたてらるしかりしよりこのかた流例となれり諒開の時はこの事なし幼主の時は攝政神祇官に參向して幣使をたつる也建武文和の即位の時は勢州敵陣になりしによりて幣使に及ばざりしなり行幸の儀式は常のごとし但御輿は蕙花を用ひらる蕙花とはさの花の形を金にて打ちて御輿のうへにすゑらる

これは御神事の時の行幸に召さる、御輿なり又鈴の奏警蹕御綱を張れと仰する事などもなし是また神事の行幸の例なり御輿は神祇官の北門より入りて北廳にて下御あり今日の御服には帛の御裝束をゆるさるしろき袍なり無文巡方の玉の帯をさし給ふ御幘となづけて白き絹をもて御冠の巾子をゆはせ給ふ是も御神事の時の儀式なり次に主上御拜の座にうつりつかせ給ひて兩段再拜し給ふこれは神宮へたてまつらるゝ御幣を拜したまふよしなり次に舍人を二聲めされて少納言すなはち版位につく時中臣忌部をゆせと仰せらる内外宮の御幣をば忌部これを取りて退出す中臣參進すれば能く申して奉進れと勅言を以て仰せらるすべて伊勢の幣には四姓の使を發遣せらる四姓とは王氏中臣忌部卜都是なり使王には必ず馬寮の御馬を給ふ恒例臨時いつれもさだまれる事也御即位の叙位の事恒例の叙位に替る事なし但院宮の御給に當年の字をのせよ伴佐伯和氣百濟の四姓に爵を給ふ事常の叙位にかはれり禮服御覽の事は當日に天皇の着御し給ふべき衰冕十二章の御服を天覽ある事なり幼主の時は攝政の直廬にして叙位以下の事をも取り行ふなり衰といふは衰龍の文なり冕といふは御冠の名なり十二章といふは日月星辰山龍華蟲宗彝藻火粉米黼黻已上十二の文を織れる衣裳也但赤衣に日と月と星と龍とを大袖の繡にせられて十二をことく文とせざるにや龍の首のまがれるに依りて衰龍といふ衰は巻きたる心なり白綬と玉佩と二琉あり（白綬は糸にて組みたり平緒の如し玉佩は玉をくさりて垂れたり杵のはなに當りて鳴るが如く拵へたり）童體の御時は日形の天冠（天冠に日の形を金にて打ちて付くるなり）を著し給ふ昔は毎年正月朔日の朝賀御即位の日に替る事なし公卿禮服等位階によりて差異あり冠は玉の飾の冠禮服には大袖小袖裳等あり三位以上は玉佩を著し綬といふ物を乳の下より結び垂る平緒の類也天子は佩を二琉たれ給ふ臣下は一琉なり即位の日は大極殿の高御座をよとひ傍り太政官の廳にて行はるゝ時は高御座をうつさるゝなり南階をさる事十

一丈に銅雀の幘をたつその東に日像の幘朱雀青龍の旗等をたつ西には月像の幘白虎玄武の旗等をたつ東廳の西に内辨の幘あり其の内に兀子をたつ中階の南七丈をさりて火爐二つあり典儀（典儀とは御即位の儀式をつかさどる少納言をいふなり）贊者（贊はたすくる心なり典儀の人にしたがふ人をいふ）の版左右近次將の胡床つねのごとしすべて文武の百司おのゝ威儀の物をとりて庭中の東西に列立す外辨の公卿は民部省の廳代の幘に着す其の時に主上冕服を着し給うて後房より出御ありて高御座に着せ給ふ内侍二人命婦四人おのゝ禮服を着して前後に候す御座定まりて後十八人の女嬪をとりて左右よりわかれすゝむ嬪といふは圓座の様な物に柄をつけてたかくさしおほふ也これは天子の龍顏を左右なく人にみせざらんための儲なり次に褰帳の女王二人左右よりすゝみて高御座の南のかたの帳をかゝる此の時にいたりて二九の女嬪を伏すれば宸儀はじめて見え給ふ群臣おのゝ面伏す（うつぶして面を地につくる事なり）主殿圖書寮のつかさ火爐のもとにつきて香を焼くこの香は天子位につかせ給ふよしを天に告ぐる焼香なり宣命使の人版位につきて制旨をのぶ群臣再拜舞踏す武官旗を振りて萬歳を稱す事終らんとする時に左の侍從座をたちて御前に進むその進退傍行あり膝行あり逡巡して御前にあたりて笏を引きて禮畢を奏すその音高長なるべし北山抄に見えたりこれは今日の大禮事終りぬるよしを天子にしらせ奉る義なり二九の女嬪をたてまつる事さきの如し褰帳二人すゝみよりて御帳を垂るそのち天皇後房へ歸り入らせ給ふ兵庫のつかさ鉦をうち鼓をならして百司の出入を告ぐる事くはしく式文にのせたり今日禮服をさる人は左右の擬侍從四人少納言二人同典儀の少納言内辨外辨の公卿宣命使等なり女官は褰帳威儀の命婦等近衛の次將は金銀珠玉をもて飾れる甲を着す外衛の督佐は武禮冠に補襦（補襦とは袖もなきうちかけをいふ）を着すくはしく是をしるさばその筆も及びがたし九牛の一毛をしるすばかり也

御禊の行幸の事

大嘗會行はれんとての十月に此の事あり豊のみそぎと是をいふ世俗には河原の御はらへといふ解除をば河にのぞみて修する事なれば二條三條の川原に行幸してこれを行はる大祀は一月深齋中祀は三日小祀は一日なり大嘗會は大祀たるに依りて十月より御神事あり川原の御はらへは御神事をはじめらるゝ由なり大嘗會延引あればさらに又御禊の事ありまづ九月中旬に大臣陣に着きて裝束司次第司の除目を申しおこなひ陰陽寮に仰せて御禊の日時を勘へ申さしむ裝束司といふは御禊につきて兼日の義點地等の事を奉行す長官一人中納言を用ふ次官一人中辨をさだむ判官二人主典二人あり又次第司といふは行幸につきて諸司百官悉く供奉するによりて御前の長官次官判官主典御後の長官次官判官主典の職をさだむ御前の長官一人は納言參議の中を用ふ御後の長官には參議の人を用ふこれは御輿の前陣後陣の行列を奉行するによりて次第司とは名くるなり次官たる人兼日に行列の圖を奏すこれをは齒簿の圖といふ也十月上旬に陪從の五位以上八十二人御前三十六人の歴名留守の參議ならびに辨各一人を定めて裝束司にくだすなり裝束司吉日をえらびて官の東廳に着きて次第の事どもを行ふ術の少將を勅使とさだめてその所職のともがら河原に行きむかふ長官次官以下おのゝ幄の座につきて事を行ふ川原の地を點じて南北四十五丈東西四十丈に大綱をひき札をたつる事ありこれより國司檢非違使等に仰せて汚穢不淨をいましめ牛馬の閑入をどめしむ其の後幄處分といふ事あり諸司の着くべき輕幄等をうたるゝなり御禊の地上古は定まれる事なし平城天皇は葛野河にして御禊あり嵯峨帝は松か崎に行幸あり文德天皇は鴨川にして御禊あり其の後二條三條等の末を用ひらる近代は大略三條の末を點せらる陰陽寮吉方を勘へ申す者也

當日は大内より川原へ行幸なる大内燒けて後は兼日太政官の廳へ行幸なりてこれより出御し給ふなり時刻に王卿仗座に參着す次第司の次官已下かりに帶劔すべきよし宣下せらる幼主の時は攝政左近の陣の内に行列すべきよし仰せらる節下の大内といふ事あり節といふは旗の名なり世俗には大かしらと名付くその旗の下に供奉するによりて節下の大内といふなり供奉の行粧は唐鞍といふ鞍を置きたる馬にのる銀面尾袋等あり馬副の瀧口十人褐冠なり隨身八人櫛繪の袍といふ物をきる左は獅子の丸右は熊の文の袍なり手振十二人紫の布の褌を着す瀧口の調度懸十人狩衣袴なり舍人居各一人籠(馬の口をとるとねり也)の舍人二人この外雜色その數定まらず攝政は或は騎馬或は乗車なり車は必らず唐庇を用ふ上臈の隨身番長はこれも櫛繪の袍を着す地下の前駈定まれる數なし雜色又その數をしらず幼主の時は中宮同輿あり(同車といふ時は上清下濁也)又女御代供奉の例ありおの々々女房の車衣のつまを出すとりく物の見なりおよそ此の行幸に供奉の百官裝束馬鞍以下よのつねの行幸にかはれり鞍にも香葉といふ物を付くるなり兵庫寮その時刻にいたりて列陣の鼓進鼓行鼓などを打たしむ前後の行列をみだらざらむ爲なり御輿は風笠なり河原頓宮にいたりてはまづ御膳の幄に御輿をよせて下御ならせ給ふこれより腰輿にめされて御禊の幄にうつらせ給ふ主上は百子帳の内の大床子に着御し給ふ百子帳といふは檜榔を以て頂をおはひて四方に帷をかけて前後をひらきて出入するやうに筋りたり其の中に毯代をしきて大床子を立てたりこの床子につかせ給ふなり百子の名其の説いまだつまびらかならず一には百子は多きをいふ此の帳をつくる支度のおほき心をいふべし主上御手水の事あり主水司これ供奉其の後大床子のまへの平敷の御座にうつらせ給ふ神祇官御贖物を供す宮主解除の詞を奏すこれすなはち御禊の義なり公卿以下おのゝ被つ物を前に置く神祇官大麻をひく次に腰輿に駕して御膳の幄に歸らしめ給ふ時の御膳腋の御膳などを供すそのうち山城の國

司獻物三十捧をとりて庭中に列立す大臣物名を問ひて後かしはでに給へと仰す又今日の見參を奏する事あり神祇官幣帛を近遊の諸神にあかち奉る事あり其の後還幸ありささの如し大臣外記に仰せて解陣の鉦を打たしむ諸卿以下退出す

大嘗會の事

大嘗會は一代一度の大神事なり令書にはおほひべと訓せり毎年に行はるゝをば是を新嘗會といふ新嘗の二字日本紀にはにぬめとよめり嘗はなむるなり新穀をなめんとしてまづ神祇にこれを供するを嘗の祭といふ和漢の義その心ねなほ大嘗も新嘗も共に十一月中の卯の日也さだまれる例なり大嘗會には悠紀主基の國郡の定めあり悠紀は齋忌といふ心なり神齋の事也主基は次といふ文字をすきとよめり次の神齋といふ心なり次といへばとて天地懸隔の心にはあらずたとへば左右前後などいふ程の事なり大嘗會神膳の儀兩度あるに依りて後の度のをばすきといふなり悠紀主基の字和訓なり神事潔齋の心のみ也國郡卜定は二月より九月にいたる迄八ヶ月の中は毎月其の例あり皆即位以後の事なり但後白河院は久壽二年九月十三日國郡卜定十月廿六日即位の事あり後伏見院永仁六年八月廿五日卜定十月十五日即位の事有り此の兩度は即位以前まづ國郡卜定あり尋常ならずといへども共に以て佳例たり多分は四月中行はるゝ事也國は上古は定まれる事なし延喜以後近江をもて悠紀とし丹波備中をもてかはるゝ主基とす但後冷泉院は播磨をもて主基とす郡は卜定に依る也其の儀大臣陣に著きて國郡の名を書きて神祇官に給はりて卜定せしむ執筆の參議これを清書して奏聞ののち辨に給ひて官に下知せしむる也大嘗會は悠紀主基の國司その事を行ふに依りて國司の除目ならびに彼位の事あり又檢校行事の辨を定めらる檢

校は三人大納言中納言參議行事の辨は悠紀主基に各一人中少辨なり其の外史八省の丞等あり卜定の行事所は大内の諸司の中に卜食の所を用ふ所々の領主典代給所木の道の工等諸道の置その事にしたがはずといふ事なし一々しるすにいとまあらず荒見河のはらへとて紙屋河にて上卿以下參向して祓の事あり其の後悠紀主基の齋塲所偉察門をさりて北八十二丈を點じてその所とす菰の使は九月に神祇官人兩國に下向して齋郡の稻の初穂を抜きて神膳に備へむとすおのゝ和歌を作りてこれをうたひて穂を抜く也標山といふは大嘗宮のまへに兩國の國司列立すべき所のしるしの木に大なる山をつくりささづの作物を飭りて是を引き立つる事あり此の作物は本文の心を用ふ又挿頭の臺御屏風以下の本文をば大學頭文章博士などかながへ申すことなり風俗の和歌十首この中に稻春の歌あり又四尺の御屏風六帖和歌十八首哥仙ならびに儒林の人これを詠進す或は兼作の例あり日野一流には非成業の人不詠といへり哥仙の例は顯輔清輔俊成有家等也齋塲所の額御屏風の色紙形は行成大納言の子孫相傳して書き進す

大嘗宮は悠紀主基各別なり大極殿の龍尾道の前にこれを造立すこれはまさしく神膳を供せらるゝ所なり又その北三丈許をさりて廻立殿をたつこれは御湯をめさるゝ所なり悠紀の神事はて、後この殿へ行幸なりて又御行水あり故に廻立殿といふ名ある也小忌といふは神事の衣服なりしろき布をはりて山藍といふ草にてかた木を摺れる物なり大方狩衣の如し赤紐といひて紗をたゝみてあふみむすびをして泥繪など書きて右の肩に二筋とち付くる事也又日影の鬘といふは白き糸をわけまきにして左右八すぢ或は十二筋など冠の左右の角にまといひて垂るゝ事あり是は蘿といふ草をばひかけぐさといふ神代に此の草を鬘にしたる事日本紀に見えたりさがりこけといふ物也草木などは清淨なるに依りて神事の傍に用ふる心也これにまた心葉といひて梅の枝の四寸ばかりなるを

糸にてむすびて日影の鬘につくる事あり半臂下襲などつねの如し小忌の平緒は白地に緋したるをいふこの小忌は私に用意して着するなり國司をかねたる次將衛府の佐などこれを用ふその外は諸司の小忌出納の小忌といひてかたの如く布に青摺したる物也それをばたゝ袍の上に打ちかけて着する也いづれも山藍にて摺れる物なれど臨時祭の舞人の着するをば青摺となづけ大嘗會の時は小忌といふ也小忌青摺大かたはおなじことなれど裁縫のやうかはれるなり

五節といふ事は毎年十一月にある事なり大嘗會の年にはかぎりずその起りを尋ねればむかし清見原の天皇の吉野の瀧の宮にましくける時日の暮がたに琴を弾じて御心をすまさせ給ひけるにむかひの山の岫よりあやしき雲立のぼりけるを御覽じければその雲の下に神女の姿あらはれて御琴のしらべにあはせてかなでけるを御門は見給ひしかども御前にさふらふ人は終に知らざりけるその神女袖をひるがへすこと五度に及びければこれによて五節とは名づけ侍るなりその時御門御哥を讀み給へり

乙女子がをどめさびすもから玉をたもとにまさてをどめさびすも本朝月令といふ書に載せ侍りそれよりして後の世までも五節となづけて五人の舞姫を御覽じたまふ事になれり

中の丑の日は舞姫参入帳臺の試といふ事あり昔は常寧殿にして此の事あり官廳にて行はるゝ時は西廳七箇間をもて北二間をば大師の局と名付くこれを帳臺ともいふ大師とは舞姫に舞を教ふる女をいふ也むかしは舞姫参入の儀式などことしくありけりいまの世には曉参といひてひそかに参するよし也舞姫毎年は四人にすぎず大嘗會には五人あり二人をば受領分と名付けて國司の女を奉る三人をば公卿分といひて公卿おのゝむすめをしたてゝまゐらせられけるなるべし帳臺の試といふは主上みづから大師の局へ出御なりて舞姫を御覽する事なり

この時は主上御直衣に御指貫を着御ありこれは殿上人に立ちまされさせおはします由なり舞姫一人ごとに火取の童齒のわらは下仕などてかやしやくの女房そひて参上する也后町の廊の亂舞などいふ事あり殿上人共袖をかへす風情あり御前の試は寅の日の事也是は五人の舞姫を御殿の庇へめされて御覽するなり官廳にては後房のひさしに大宋の御屏風(唐人の打毬のかたちを繪に書きたる御屏風をいふ)をたてゝそのうちに座をまうけらるる也露臺の亂舞といふ事あり渡廊に殿上人立ちならびて藏人頭つき戸の内にて袖をかへす事などあり御前のめしに今様物まねなどいひておかしき事もある也所との推参は院の御所をはじめて野曲の殿上人などまゐりて朗詠今様亂舞などあり思の律といふ事をうたひて殿上より御前に参上する事あり童女御覽といふ事は卯日のことなり舞妓の介錯のわらは下づかへを朝所の廣庇に召されて天覽ある事也主上は簾中に出御あり殿上人これを扶持す仰によりておのゝかざしたる扇をおかしむしかるべきをば召しおかれん爲なるべし卯日は神膳を供せらる其の義となる重事たるによりて委しく記すに及ばずさりながら名目ばかりをばおろく申し侍るべしまづ廻立殿に行幸なりて御湯を奉る天の羽衣といふは主上の御湯の舟におりさせ給ふ時召さるゝ御帷子の名なりわかとはいふは明衣とかく御湯帷子をいふ浪ぎぬといふは御湯舟におはふきぬ也海老鱗槽といふは御手水の具也たしらかといふは御手水の時ははんだうの代なりかしは殿といふは神膳を調ふる所なり菅殿といふは板敷をしかす庭をしく神膳を供する所なり神座の儲には八重疊打ち拂ひの布坂枕などいふ物あり参河の國より奉る神服をは和妙といふ阿波の國より奉るを荒妙といふ神食を供する時神のすこも御食ごもといふ物ありもと柏は神酒を供する時用ふくぼでひらでは神食をもる物なり此の時に供奉する人に十姫十男御巫子猿女石上榎井車持子部語部歌女などいふものども事にしたがふ也神膳の事は陪膳の采女もつはらこれをつかさどる重事たるに依りて

御代始鈔終

有職袖中鈔

著者不詳

夫日本ハ神國ナリ神代スギテ人皇ノ最初神武帝ハ地神五代彦波瀲武鸕鷁草葺不合尊ノ第四ノ御子ナリ代々ノ天皇是則天照太神ノ御繼體トシテ今百王ノ御スエマデモ連綿シテ斷絶シ玉フ事ナシ天子ト申シ奉ル事宜ナルカナ
 彼ノ天竺震旦ノ國界ヒロシトイヘドモ王子ノ氏族マチノニシテ正統相混ジタル是吾ガ朝ニ及バザル處ナリ我ガ君ノ無止事彌タカキ御ヒカリニ至リテハ不可思議ニシテ言語道タエタリ抑今ノ京ノ人皇五十代桓武天皇ノ御宇山城ノ國長岡ヨリ遷サレ玉ヒテ万代不易四神相應ノ境地ナリトカヤ四神トハ左青龍右白虎前朱雀後玄武也賀茂八幡ヲ王城ノ鎮主トシテ大小ノ神祇イラカヲナラベ光ヲ塵ニ和ラゲ玄妙ノ佛閣堂々トシテ化ヲ群生ニオホヒ利益ヲ施シ玉フモノナリ且又堅横ノ大路ハ佛子ノ袈裟ニ表シテ一條ヨリ九條ニ別テ玉フトカヤ有難キ靈地ナリ一伏シテ帝土ノ所々ニカハル事ヲ按ズルニ往昔神武帝ハ神代十二代ノアトヲウケ玉ヒテ人代百王ノ鼻祖ナリ時ハ辛酉ノ歲日向國宮崎ノ郡ニテ寶祚ヲ繼ギ五十九年己未ノ歲十月ニ東征シ玉ヒテ豐原中津國ニ止リ玉ヒ大和國畝傍ノ山ヲ點シテ帝都ヲタテ玉ヘリ宮ヲ橿原ノ宮ト號セリ是帝都ノハジメナリコ、ニ居シ玉フ事七十六年ナリソレヨリ己來代々ノ天子所々ニウツシ玉フ事アマタ、ビ也神武帝ヨリ景行帝マデ十二代ハ大和國ノ郡々ニ都ヲタテ玉フ第二綏靖帝ハ葛城高丘宮ニウツリ玉ヘリ治三十四年內一年ハ第三安寧帝ナリ又同帝片鹽ノ浮孔ノ宮ニ遷シ玉ヒテ三十八年內一年ハ第四ノ懿德帝ナリ同帝又輕地曲峽宮ニ遷シ玉ヒテ百三十三年第五孝昭帝拔上池心宮ニウツシ玉ヒテ八十三年內一年ハ第六孝安帝也同帝又室地秋津島宮ニ遷シ玉ヒテ百年第七孝

有職袖中鈔

靈帝黑田廬戶宮ニ遷シ玉ヒテ八十三年丙三年ハ第八孝元帝ナリ四年有リテ又輕地境原宮ニ遷シテ五十七年第九開化帝春日之地率川宮ニ遷シ玉ヒテ六十二年丙二年ハ第十崇神帝也同帝又磯城瑞籬宮ニウツシ玉ヒテ六十六年丙一年ハ第十一垂仁帝也帝又繼向珠城宮ニウツシ玉ヒテ百五十五年丙五十七年ハ第十二景行帝ナリ以上大和國也同帝五十八年戊辰ニ近江國志賀郡高穴穗宮ニ遷シ玉ヒテ三年十三代成務帝十四代仲哀帝ニ至リテ志賀ニ有リ合セテ六十五年也仲哀二年ニ長門國豐浦郡ニ遷シ玉フ穴門豐浦宮ト號ス此處ニシテ帝崩シ玉フ后神功皇后帝位ヲツギ玉ヒテ女帝トシテ三韓ヲ退治シ玉ヒテ其ノ後又大和國ニウツリ玉フ宮ヲ磐余稚櫻宮ト號ス六十九年第十六應神帝同國輕島豐明宮ニ遷シ玉ヒテ四十三年第十七仁德帝攝州難波ニ遷シ玉フ宮ヲ高津宮ト號ス八十七年第十八履仲帝又大和國磐余稚櫻宮ニ遷シ玉ヒテ六年第十九反正帝河内ノ國丹比柴垣宮ニ遷シ玉ヒテ六年第二十允恭帝大和國飛鳥宮ニ遷シ玉テ四十一年同帝又同國石上穴穗宮ニ遷シ玉ヒテ一年第廿一安廉帝二年アリテ同帝同國泊瀨朝倉宮ニ遷シ玉フ第廿二雄略帝ニ至リ合セテ二十四年第廿三清寧同磐余魏栗宮ニ遷シ玉ヒテ五年廿四顯宗同近飛鳥八鈞宮ニ遷シ玉ヒテ三年第廿五仁賢同石上廣高宮ニ遷シ玉ヒテ十年同帝又同泊瀨列城宮ニ遷シ玉ヒテ第廿六武烈第廿七繼體ニ至リテ合セテ三十三年繼體又山城國筒城宮ニ遷シ玉ヒテ十一年同帝又同弟國ニ遷シ玉ヒテ八年同帝又大和國磐余玉穗宮ニ遷シ玉ヒテ廿七年第廿八安閑同勾金橋宮ニ遷シ玉ヒテ二年第廿九宣化同檜隈廬入野宮ニ遷シ玉ヒテ四年第三十欽明同磯城島金刺宮ニ遷シ玉ヒテ三十五年内三年ハ第卅一敏達ナリ同帝又同譯語田幸玉宮ニ遷シ玉ヒテ十二年同帝又同磐余池邊雙槻宮ニ遷シ玉ヒテ二年後ノ一年ハ卅二用明帝ナリ同帝又同倉梯宮ニ遷シ玉ヒテ五年後ノ四年ハ第卅三崇峻也同帝又小墾田豐浦宮ニ遷シ玉ヒテ第卅四推古帝舒明帝ニ至リテ合セテ三十八年前一年ハ崇峻後ノ二年ハ舒明也同帝又同飛鳥岡本宮

ニ遷シ玉ヒテ十五年後ノ三年ハ第卅六皇極帝ナリ第卅七孝德帝大化元年乙巳十二月攝州難波長柄ノ豐崎宮ニ遷シ玉ヒテ十年第卅八齊明天和國飛鳥板蓋宮ニ遷シ玉ヒテ六年同七年土佐國ニ遷シ玉フ宮ヲ朝倉木丸殿ト號ス同年秋七月ニ帝崩ズ第卅九天智帝大和國飛鳥宮ニ遷シ玉ヒテ五年同年又江州志賀大津宮ニ遷シ玉ヒテ四年第四十天武帝大和國飛鳥淨見原宮ニウツシ玉ヒテ第四十一持統帝ニ至リテ合セテ二十二年後ノ七年ハ持統帝也同帝又藤原京ニ遷シ玉ヒテ第四十二文武第四十三元明ニ至リテ合セテ十六年前ノ一年ハ持統後ノ二年ハ元明也第四十三元明同平城ニ遷シ玉ヒテ第四十四元正帝四十五聖武帝ニ至リテ合セテ三十年前ノ一年ハ元正後ノ一年ハ聖武帝也同帝又山州相樂恭仁京ニ遷シ玉ヒテ三年同帝又攝州難波京ニ遷シ玉ヒテ二年同帝又大和國平城京ニ遷シ玉ヒテ第四十六孝謙四十七廢帝天皇ニ至リテ合テ十六年前ノ一年ハ聖武後ノ一年ハ廢帝也同帝又江州保良京ニ遷シ玉ヒテ一年又大和國奈良京ニ遷シ玉ヒテ四十八稱徳帝第四十九光仁第五十桓武帝ニ至リテ合セテ二十二年前ノ一年ハ廢帝後ノ二年ハ桓武天皇也桓武又山城國長岡京ニ遷シ玉ヒテ九年同帝延暦十年癸酉正月ニ大納言藤原小黒丸參議左大辨紀古佐美大僧都玄慶等ヲツカハシテ山城國葛野郡宇多村ノ地ヲ見セ玉フニ此ノ地四神相應ノ地也尤帝都ヲ定ムルニ足レリト奏シケレバ是ニ依リテ藤原葛野丸ヲシテ新都百官ノ宅地ヲ配分セシメ同十三年十一月二十一日長岡ヨリウツリ玉フ今ノ平安城是也桓武ハ平家ノ鼻祖ニマシマス故ニ平安城ト云フ義ニテカクハ名付ケ玉フ其ノ後八十代高倉天皇治承四年平相國清盛幼主安德帝ヲ奉ジテ都ヲ攝州兵庫ノ福原ニ遷シ玉ヒシカトモホドナク同年十一月二十三日又此ノ京ニ還幸アリテ今ニ至リテ長久セリ其ノ外後醍醐帝ノ南朝吉野ノ宮後村上天皇ノ長慶院後龜山院安德帝ノ讚岐八島ノ都等ノ事具ニハ遷都記ニ見エタリ

○都 異名

平安城 帝都 京 皇都 帝城 帝京 帝居 洛陽 華洛

禁中

王城 帝城 鳳闕 紫禁 九禁 北闕 鳳凰城 雲霄 芸閣 栢凝 龍闕 紫闕

雲居 鳳禁 紫庭 大内 内裡 禁裏 皇居 帝基 九重

又

九重 九重 雲上 雲井 百敷 御垣 紫庭 内 玉階 大内

以上和訓和歌ニ詠シ和語ニモテアソブ也禁中トハ非常凡下ノ者ヲ禁ジ入レザルノ儀也

禁門 禁中ノ門也蔡邕曰禁門天子所居門閣有禁非侍御之臣不得妄入云云○殿所

玉座 天子ノゴザヲ云フナリ

御階 南階 御殿ハ段階アル故也殿ノ惣名ヲモ云フ

南面 紫宸殿也南ムキナルイヒ也此ノ殿ニシテ節會等トリ行ハセ玉フ故ニ最上ノ殿トス天子ヲ南面ノ至トモ申

シ奉ル也朕南面ノ徳ヲ治メテ天下ノ士ヲ朝セシメメンナド後醍醐帝ノ勅アリシ事太平記ニ見エタリ禮記云君之

南嚮答陽之義也臣之北面答君之義也

高御座 天子ノ御座紫宸殿ニ有リ節會等ノ式ノ御座ナリ

賢聖障子 紫宸殿ノ奥北ノナゲシノ上ニ南向ニアリ唐土ノ聖賢ノ像ヲエガケル也

殿上 殿ノ惣名ニハアラズ清涼殿ノ西ニナランデアリ清涼殿ハ天子出御ノ殿也此ノ殿上ニ至ルヲ殿上人ト云フ

也

陣座 今紫宸殿ノカタハラ月花門ニ双ビテアリ節會ノ時當官ノ公卿着座ノ所也

馬形障子 清涼殿ニアリ

鬼間 同殿ノ東南ノスミニアル由禁秘抄ニ見エタリ

查御座 ヒノオマシト和訓ス帝ノ御座也コ、ニ御劍アリヒノゴザノ御劍ト云フ

夜御殿 ヨントハネテヨム天子ノ御寢所也モトハ清涼殿ノ中ニアリ近來別殿也四方ニ妻戸アリ南ハ大妻戸一間

也東枕ノ御座ナリトカヤ

二間 爰ニ天子ノ御本尊ヲ安置シ玉フ也御加持等ニハ天台ノ座主三井寺ノ長吏眞言ノ長者マキラル、也是ヲ夜

居僧ト云フ也御本尊ハ觀音大士トカヤ二間御本尊ト云フ是也或鈔ニ曰二間敷ニ疊於此間一向妻戸二敷阿闍

梨座半疊於南間者如御講之時懸本尊寄障子也云々

内侍所 賢所トモ云フ三種ノ神器第一ノ御殿也御正體八咫ノ鏡也古事記ニ曰此鏡ハモツハラ爲吾御魂而如

拜吾前云云村上帝ノ紀云天德年中大内回祿之時内侍所神鏡在灰爐之中其徑八寸許云云○内侍所ニアカ

タメヲ置キ玉フ事ハ七十二代白川院ノ御時神鏡トシテ天ニ登ラントシ玉フヲ宮女ノ袖ヲモテト、メ奉リシヨ

リ女官守護シテ内侍所ト申シ奉ル也

三種神器 帝ノ御寶也(神璽寶劍)内侍所以上三器禁秘抄云爲天子累代之寶器君備三德而爲天下之標準一行

萬機之政故以鏡象智分別是非底之道理也以神璽象仁温和慈愛底之道理也以劍象勇斷制裁底之道理也云々

玉屋 文選第三ノ註ニ曰屏風樹ニ之座後也又四十卷ノ註ニ屏風也天子所居後有屏風ニ云々

萩戸 常ノ御所ナリ

黒戸 瀧口ノ西ニアリ戸ノ黒キユエノ名也小松御門ノ無正事セサセ玉ヒタル御薪ニスヒタル也トツレトク艸ニ書ケリ

瀧口 此ノ口ニ番ノ者二十人アリ武官也瀧口ノ侍ト云フ也院ニハ武者所ト云フ

曹司 局ノ別名也伊勢物語ニコノ御曹司トイヘリ

皇居 天子ノ居シ玉ヲ所ヲ云フ文選ノ註ニ皇居謂天子省閣也カリソメニモ居シ玉ヲ處ヲ云フ也

朝餉間 帝御膳ヲメス處ナリ禁秘抄曰南平敷二枚東北(相屏風)夜御殿方有副障子御屏風内外案御調度

臺盤所 源氏繪合ノ卷ニ女房ノサブラヒトイヘルハコノ臺盤トコロノ事也女房タチコノ處ニ候スルナリ膳部ヲ設クル所也實方朝臣勅勒ヲ得テアハレフタ、セ臺盤所ノイヒヲクハ、ヤトナゲキケルニ本意ナラズシテ死

ニケルニ其ノ魂ス、メトナリテツネニ臺盤所ニアリ實方雀トイヘルトカヤ

御匣殿 拾芥鈔ニ云貞觀殿ノ中ニアリ以ニ上膳女房ニ爲ニ別當有ニ女藏人

○所々抜書ヨミクセ

内舍人所 内寮所 御厨子所 大歌所 作物所

藥殿 醫侍藥生等此所ニ候ス

納殿 天子ノ御藏ナリ

門 號 右ニ同シ

陽明門 都芳門 朱雀門 漢壁門 殷富門 左掖門 右掖門 内衛門 敷政門 無名門

中和門 吉徳門

殿 右ニ同シ

仁壽殿 承香殿 春興殿 大極殿 校書殿 後涼殿 豐樂殿(御殿ト云フトキハ清涼殿ノ事ナ

リ中殿モツチノ御殿トモ云フナリ)

○舍 上膳女官ノ居スル處ナリ

昭陽舍(梨壺ト云フナリ)淑景舍(梧壺ト云フ)飛香舍(藤ッポ)凝花舍(梅ッポ)龍芳舍(雷鳴ノッポ)御園生(天子ノソノ也)

○帝位

御門 天子 皇帝 主上 天皇 至尊 聖皇 聖上 今上皇帝 金輪聖王 一人 九

五尊 南面至 國家 聖代 聖化 明時 陛下 (以上五ヲバ天子ノ上ノミニアラズ御治世ヲ

サシテモ云フ也)又關廷○朝○朝廷○朝ニ仕ヘ奉ルナンド云フナリ和歌ハ朝廷ノモテアソブ處ト太平記三卷爲明詠歌ノ所ニアリ此ノ時ハ公卿ノウヘヲサスカ

万乘 天子ノ事ナリ孟子曰万乘國註ニ萬乘謂天子也云云和訓ニハ○天皇○帝○人王○王○天皇○八咫知君○

吾ガ君ナド申ス也君コレヲ大王ト云フナリ天子ノ御ウヘナラデモ戀ノ贈答ニモツガキミトイヘリ是ハ思フ人ヲシタシミ貴ブノ心ナルベシ此ノ時ハ戀ノ君ト云フ也

實祚 御位ヲ云フ

踐祚 踐ハフム祚ハサイハヒナリ天子ノ位ヲフム通號也

重祚 再祚 ニツル天子ニタビ位ニソナハリ玉フヲ云フ

即位 位ニツキ玉フ御世ノ始ナリ

繼體君 天子位ヲウケツキ玉フヲ云フ漢書師古ガ註ニ云繼體謂嗣君也

朕 天子自ラノ玉フ御詞也古ハ上下凡ニイヒケル詞ナリシヲ秦始皇二十六年始メテ天子ノ自稱トス

勅 天子ノ御言葉ナリ勅言、勅定、繪言、繪旨、禮記曰王言如糸其出如綸○詔、明詔皆同ジ

勅問 帝ノ臣下ニモノヲタツキ玉フヲ云フ

勅答 此ノ詞臣ニモ天子ニモ通ジワタル也君勅定アルヲ臣下答ヘ申シ上グルニモ云フ勅ノコタヘト云フ義ナ

ルベシ又古今著聞集ニイソギ御前ヘ參リテ御劍匣ノ箱ハイカナラント尋チマキラセケレバ自ラ持タルゾト勅

答ナリト云云是ハ天子ノ御返答ヲ云フ也

勅書 天子ノ御書ナリ

震筆 震翰、勅筆、イヅレモ天子御自筆ヲ申シ奉ルナリ

勅額 震筆ノガクヲ云フ勅願寺ナドヘ下サル、也勅願寺ハ天子御草創ノ寺ヲ云フ其處ニ依リテ堅横ノ高下アリ

堅額ヲ以テ規模トスル事也

勅許 帝ノ御ユルシナリ○勅任 帝ノ仰セニテ官職ニ任ゼラル、也○勅撰 帝ノ御エラビノ物ヲ云フ○勅方

帝御作ノ藥薰物等ノ方也○勅印 帝ノ御判ナリ御正印トモ申ス○勅使 帝ノ御使ヒナリ○勅旨 勅ノムネナ

リ○勅宣 勅命繪命詔命イヅレモ仰ラ云フ○繪旨 宣命口宣宣旨勅書詔書イヅレモ帝ノ命ヲ承ケテカキタル

ヲ云フ凡ソ天子命アル時ハ藏人ヲ召シテ宣フ也藏人帝ノ命ヲウケテ是ヲ上卿ニ達スル也此ノ時藏人其ノ旨ヲ

カキテ上卿ニ達スル也是ヲ口宣ト云フ也上卿其ノ口宣ヲ外記ニ達セラル、也外記是ヲウケテ書スルヲ是ヲ宣

旨ト云フ也口宣ノ與ニハ藏人ノ名アリ宣旨ノ與ニハ外記ノ名ヲ書ク也

勅書 詔書宣命ハ大内記是ヲ草進スルナリ年號月日アリ其ノ月ヲ天子ノ御筆ニテ遊バスナリ是ヲ御書ト云フ也

宣命ハノ玉フト和訓シテ天子ノ御意也繪命ヲノブルノ義也諸神ノ奉幣ニモオクリ號等ニモ有ル事也伊勢ノ遷

ナドニ勅使ノ持參セラル、ニミドリノ宣命白紙ノ宣命ト云フ事アリ梧壺ノ更衣ミマカリ玉ヒシ時三位ヲ授ケ

玉フ事アリ其ノ宣命ヲ勅使ノ來テヨムガアハレナリシトカヤ(源氏ニ見ユ)

御製 天子ノ御詩作和歌等ヲ云フ○叙慮 天子ノ御心ヲ云フ○叙威 天子ノ御威アル事ナリ○叙聞 天子ノ御

キ、アル事ナリ○叙覽 天子ノ御ランアル事ナリ○叙襟 震襟 襟ハモノオモヒトヨムシンケンヲナヤマシ

玉フナド云フ也天子御心ヲツクシ玉フ事也震ノ字廣韻ニ天子ノ居ナリト云ハリ賈逵ハ後人指ニ帝居ニ曰レ震ト

註ス天子ノ事ヲ直ニサシテハ申サズ故ニ居所ヲヨンデ申シ奉ル也

逆鱗 帝ノ御イカリヲ云フ龍ノ喉ノ下ニウロコアリ怒ル時ハ立ツ也天子ヲ龍ニ比スル故カク云フ漢書曰高祖母

媪息ニ大澤之陂夢與神遇是時雷電晦冥父太公從見之則視於交龍而有娠遂產高祖隆準而龍顏也

龍顏 帝ノ御容貌ヲ申ス右ニ同ジク高祖ヨリ始マル咫ニ尺龍顏ト云フ事天子ニ近ヅキ奉ルヲ云フ史記韓信傳正

義ニ曰咫尺八寸也謂至近之義也

奏聞 天子ヘ臣下ノ申シ奉ル事ヲ云フ○奏覽 天子ヘ物ヲ御目ニカクル也○進奏 天子ヘ物ヲサ、グル事也○

玉牒 天子ノ御身ヲ申ス○天氣 天子ノ御氣色御心ヲ云フ○天恩 天子ノ御恩ヲ云フ○天杯 天子ノ御サカ

ツキ也天盃ノ法臣下ニタマフ時ハ別ノ土器ニトリカヘテ滴ヲウツシテ御杯ヲバ懷中シテ退出スル也ソレヲサシカヘントイフ也

御劍 帝ノ御太刀也○御硯箱 ギヨノスリバコトヨム也○御衣 天子ノ御キモノナリ○出御 天子ノ御出ヲ云フ○入御 天子イラセ玉フヲ云フ

行幸(ミユキル) 帝ノ御アリキヲ云フ行幸トハ神代ヨリアル事也或ハ遠國ノ行幸アリ近國ノ行幸アリ是皆時ノ非常ヲ戒シメ玉ハンタメノ神慮トカヤ又君王權威ヲフルフ臣下ノ家ヘ行幸アルハ其ノ家内ノ貧富ヲ考鑒有リテ或ハ制シ或ハス、メンガ爲也是ヲ以テ遠國ノ民モ天德ヲタツトビ行幸ノ道路ニアル國郡ハ九年ノタクハヘテ求メテタノシミヲナス若シ惡人邪臣有ル時ハ爵ヲ行ハル、也抑々幸ノ字ヲ天子ノ行ニカク心ハサイハヒヲ行フノ義也一天ノ主タル其ノ言行モツトモ難シトス行ク處言フ處ニミナ幸ヲナシ樂ミヲナスガ故也惡主ノ時ハ御遊ノ爲ニ行幸ヲナシ玉ヘバ民ヲ苦シメ臣下ニ費ヲナス事限リナシ幸ノ字ノ心ニタカヘルトカヤ

還幸 遷幸潛行イヅレモ行幸ヲ云フサレドモ常ニ用ヒズ多クハ禁裏ヲ離レ玉ヒサキヨリ先ヘ遷リ行キ玉フ事ニ云ヒ習ハセリ太平記等ニアマタル詞也

行宮 天子居住シ玉フ處也行在トモ云フ文選五吳都賦註云天子行幸所止處也云云

還幸 帝ノ御カヘリヲ云フ
朝覲行幸 天子院ヘ御參リヲ云フ春秋ニ必アル事也
供御 帝ノ御飯也天子ノ御事ニハミナ御ノ字ヲ用フ食事ノ時ハ食○器物ノトキハ器物ニシテミナツケ字也禮記御ニ食於君ニ文選第七勺藥之和具而後御之註御食也云云

朝餉供御 同アシタノクゴナリ

大床子御膳 同常ノ御膳ヲ云フ禁中ニ大床子所トテ有リ机ヲ二ツ立テ御膳ヲスウル也ト源氏桐壺ニ見ユ

朝政 天子毎朝天神祇ヲ念ジ玉フナリ

公事 御門ニトリ行ハセ玉フ御事節會等ヲ公事ト云フナリ公事和訓禁裡ヲサシテ公ト云フナリ順德院ノ詔ニ公ノ奉リ物ハヲロンカナルヲ以テヨシトスト

御調物 天子ヘ諸國ヨリサ、グル物也御知行等ナリ神樂ノウタヒモノニ催馬樂ト云フモノハ昔御調物ヲハコブ馬オヒノウタヒケル唱歌ナルトカヤ

叙位 除目、懸召、イヅレモ臣下ニ位官ヲ下サル、儀也叙位ハクラキニス、ミノボルノ儀也年臘ニ依リテ家々ノ進ムベキ位ヲマチキル輩ヲ正月五日ニ位ニノボセ玉フ也唐土ニテハ漢ノ代ニ始マレリ本朝ニハ三十四代推古

帝ノ十二年ニ官位ヲ定メ玉ヒ三十九代天智帝ノ十四年正月ニ諸臣ニ位官ヲタマヘリ是ヲ事ノハジメトス六十二代村上帝ノ御時ヨリ正月五日ニ行ハル、也○除目はモ同シ心ナリ官アルモノヲ官ヲ進メ玉フ也今マデニ任ジタル官ヲノゾキテ當官ニ任ゼラル、也目ハ名ト云フ心也今迄ノ名ヲステ、新名ニス、ム心也○懸召 京官ノ除目アガタメシノチモクト云フ事有リ京官ハ京ニキル官人等也是ヲ召スナリ是司召ト云フ也縣ハキナカ也田舎ニキル官人ヲ召ス也正月十一日也京官ノ除目昔ハ三月三日前ニ行ハレシヲ近代ハ秋行ハル、也凡叙位除目ノ次第ハ面々望ム處ノ位官ヲ小折紙ニ書キ上ルナリソレヲ箋ト云ヒテ木ヲ一尺餘ホドニホソクサキヲ頭巾ナリニシテ札ニ面々ノ官位ニ名ヲ書キテ箋ニユヒ付クルナリソレヲ見テ卷物ニウツシテ天子ニサ、ゲ奉ル也ソレノ、ノ口宣書イヅル時ハ内際印論ヲ請ケトリテ口宣ニ立チナガラ印ヲオス事アリ任官ノ人ハ紫宸殿ノ庭

上ニテ拜賀アリサマノノ義アリ官奏叙位除目四ツノ次第ハ有職ノ家ニ秘セラル、也

公宴 天子御歌ノ會等ヲ云フ也○宴飲 天子御酒宴等也○御遊 同管絃等ノ御遊也○空頂黑幘、最花、イヅ

レモ天子ノ御冠ヲ云フ○黃檳染 天子ノ御裝束袍也○麴麩袍 右ニ同シ青色モ云フ俗ニ山鳩イロト云フ是也

紵線綾表袴 二藍御下重、櫻下襲、イヅレモ帝ノ御裝束ナリ此ノ外サマノノ御裝束有リトカヤ

官幣使 諸社ニ幣帛ヲ獻ジ玉フ勅使也

官軍 天子ノ軍勢ヲ云フ也通鑑集覽卅二ニ曰官者猶稱天子仍云不敢斥言天子故稱曰官(以下畧之)

離宮 集覺一ニ曰天子出遊之宮也山城國竹田ノ里ノ城南寺ハ鳥羽院ノ離宮也

豐明節會 是セテエノ總名ナリ別ニトヨノアカリト云フ事アリト思フハ非也或書ニ曰九條殿下内大臣ノ家ニ人

々百首ヨミケル時元日宴ト云フ題ニテ顯昭法師ガ歌ニ「正月タツケフノマトキヤ百敷ノ豊ノアカリノハジメ

ナルジン」トヨメリケルヲ人々カタブキテ豐明トハ五節也元日ノ宴ハ正月朔日ノ節會ナレバ僻言ナリト難ジ

ケルニ作者トヨノアカリトハ日本紀ニ宴ノ字ヨメリ是則節會也所謂正月一日ハ元日ノ節會同七日ハ白馬ノ

節會同十四日踏歌ノ節會九月九日ハ重陽之節會也此五ケ度ノセテエノ宣命ニミナトヨノアカリキヨシノス日

也トカケリ豊ハユタカナル心アカリハアキラケキヨシナリ或ハ豐樂トモカケルニツイテ元日ノ宴ヲ豐明ノハ

ジメニイハヒテツカウマツレル也トチンジ申サレケレバ難者英才當世ノ歌仙オノノ口ヲ閉ヂテ頭ヲ傾ケ、

ルトカヤ

御宇 天子ノ御治世ヲ云フ此ノ二字長恨歌ニ出デタリ御宇多年求不得云云御ハ統也治也四海ヲ統御スルノ義

ヲトルナリ宇ハ釋名ニ羽也ノ鳥ツバサノミヅカヲオホフガ如キ也又ハ天地四方ヲスベ御シ玉フノ義也

御韓 天子ノイミナハ何仁ト仁ノ字ヲ付キ玉フナリ讀ミヤウナラヒアリアラマシハ諱訓鈔ニ見ユ宮方モ同ジク

仁ノ字ヲツキ玉フナリ女宮ハ何子ト子ノ字ヲツキ玉フナリ仁ノ字ヲ連綿シタマフコトハ七十三代堀川院コノ

カタ也遠クハ清和ノ遺風ナルカ清和ノ御諱惟仁又女宮ノ子ノ字ヲツキ玉フハ五十四代仁明ノ皇女正子内親王

ニ始マルトカヤ

鳳輦 天子ノ御輿ナリ金ヲ以テ鳳凰ヲ作りテ輦ノ上ニオクナリ漢書ノ註假人以行云輦云々又中宮ニ鳳輦ニ乘

ジ玉フ也

悠輿 天子ノ御輿ナリ貞觀政要悠輿有前屬車在後云々

瑤輿 輦輅玉輅右ニ詞シ釋名云天子取乘云玉輅以玉飾車也輅亦車也謂之輅者言行於道也

龍駕 右ニ同ジ

龍蹄 天子ノ馬也寮御馬トモ云フ主馬寮ニアツカルナリ

後一條院 カヤウニ後字ヲツケ奉ルハ天子御カクレアリテヨビ奉ル時ナリ前々ノ天子ノ御行狀ニヨク似サセ玉

フヲトリテ後ノ字ヲ付ケテ申ス也タトヘバ一條ノ院ニ似サセ玉フ後一條院ト申ス也又臣下ノウヘニモアレ

ドモ是ハ各別ノ事也此ノ時ハ後トイフナリタトヘバ後成恩寺ナドヨブ也但シ後德太寺ナドヨビ來ルハ規模

ノ義ナリ多クハ故何トヨブ也故ハモト、ヨメリ元ノタレガシト云フ儀也

御惱 帝ノ御ワヅラヒヲ云フ

崩御 天子ノカクレサセ玉フヲ申ス山岳ノ崩ル、ニ比スルナリ禮記ニ云天子死曰崩諸侯曰薨大夫曰卒士曰

不祿庶人曰死云々

晏駕 右ニ同シ齊竟陵文宣王行狀曰武皇晏駕註ニ向云晏駕謂天子崩

諒闇 天子ノ御忌中ヲ云フ諒陰トモ云フ諒ハマコト闇ハクラシシモダストヨメリ帝崩シテ天下冥々タルノ義ナリ

御國忌 帝崩御ノ日ヲ云フ也

御陵 帝ノ御墓ヲ申シ奉ルナリ

荷前使 天子ノ御廟ヘ今上ヨリ勅使ヲタテ玉フヲ云フ式サマノアリ

讓位 脱履 イヅレモ天子位ヲユヅリ玉フヲ云フナリ

○王子

皇子 春宮 東宮(和訓東宮) 太子天子ノ御位ヲ嗣ギ玉フヲトウグウト申シ奉ル也令義解ニ曰東宮謂太子所

居ニ也未御幼君之間禁中御座之間也又左氏隱公三年正義云四時東爲春万物生長在東西爲秋万物成就在西是以君在西宮太子處東宮也

太子 春園 青宮 昭陽 小陽 養事 龍樓 鶴禁 前星 明雨 儲靈 儲園 儲君

イヅレモ別名也儲君徐晃云太子副君故曰儲也王文憲集序註曰儲謂太子也李善曰漢書疎廣曰太子國副君云々貞觀政要云儲音除副也太子君之副故謂之儲君云云(和訓マウケノキミトモ日續ノ宮トモ云フ)儲君ノ宣下アルヲ立太子ノ宣下ト云フ也立坊トモ申ス居シ玉フ所ヲ坊ト申ス也

受禪 禪ハユヅリ也御ユヅリヲウケ玉ヒ帝位ニノボリ玉フヲ云フ帝位○天皇位

即位(シヨクキ) 是天子ノ御位ニツキ玉フヨシヲ天神地祇ニ申サセ玉ヒ百官諸司ニシラシメ其ノ儀式ヲ成シ玉フ御節會也大嘗會ト云フ御節會アリ委シクハシルシガタシ即位七月ヨリ以後ナレバ明年大嘗會オコナハル

也又新嘗會ト云フ事アリ是ハ今年ノ初穂ヲ神ニ奉ラセ玉フ也御代ノ始メニハ大嘗會トイヒ年ノ始メノヲ新嘗會ト云フナリ新嘗會歌ニ「ニヒナメヤキノフノ初穂ヲサメオキテケフ御酒玉フ雲ノウヘ人」

御即位 ハ南殿ニシテ行ハル、也太子南殿ノ高御座ニ出御アリ百官龍顏ヲ拜シ奉ル也サマノ儀式アリ昔ハ朝賀トテ毎年正月元日此ノ儀アリシトカヤ

東宮傳 臣ノ官也異朝ニハ太子傳ト云フ東宮ニ何事ヲモ教ヘ奉ルナリ攝家ノ大臣ノ役ナリ攝政關白太政大臣左右大臣内府等はヲ兼官ノ例アリ漢家本朝トモニ規模ノ官也又春宮坊コレハ坊中ノ一切ノ事ヲ司ル官ナリ執柄ノ子大臣ノ子孫大中納ノ人兼任セラル、也

行啓 東宮ノ御アリキヲ云フ中宮后宮モ同シ

繼體君 ユヅリヲ受ケ玉フ君王也文選四十七註ニ繼體謂後主也云云

親王 天子ノ御子也字ノ心親ハ愛也近也帝ニシタシクワタラセ玉フヲ以テナリ(和訓親王)又王是ハ天子ノ御孫親王ノ御子ヲ云フ也親王宣下トテ御ユルシノ儀式アリ是ナキヲバ諸王トイヒ宮ト申ス也宮ハ通號也天子ノ御伯父(但御父方)庶子ノ皇子モ宣下アレバ親王ト申ス也親王ノ號ハ四十代天武帝ノ御宇ニ始マレリ唐土ニハ隋ノ代ニ始メテ此ノ號アリ

唐名ノ事 蘭坂 蓮池 梁園 潘王 潘邸 邸茅 免園 龍岫 大王 江都 磐石 宗枝 天孫 瓊琴 採夢 樂善 延贊 天枝 帝業 竹園(和訓竹園生)竹園ト云フ事漢朝ノ例也漢ノ文帝ノ太子孝王大ナルソノヲキヅキ其ノ中ニ樹木ハモトヨリ竹ヲオホクウエテ愛シ玉ヘリ時人名付ケテ孝王ノ竹苑ト云ヒシヨリ始マル

親王ニ輕重マシマス也當世ニマシマス后腹ノ親王又ハ今上ノ皇子御連子等ヲ重シトスル也御父崩シ玉フ先帝ノ皇子ハ威ヲトリ玉フ也御母下位ナル皇子又ハ親王ノ御子等ヲ輕シトスル也是ヲ殊禮ト云フ○親王御位ノ事皇子ハ生レナガラニシテ五位也是ヲ無品ノ親王ト申ス叙位有リテ四品三品二品一品トナリ玉フ是ヲ有品ノ親王ト申ス勿論無品ヨリ宣下アルナリ花園院文保三年ニ無品親王ノ宣下ノ事アリ元服ノトキ品ニ叙セラル、ニハ先四品或ハ三品ニ叙セラル、也一二ハ御器量ニヨル也后腹ノ親王ハ品ニ叙スルニ三品ヨリ叙シ玉フナリ一品ハ親王ノ極官也大臣ニ至リ玉フ例モ稀有ナル義也推古帝ノ時聖德太子親王トシテ大臣也○官ノ事彈正尹中務卿式部卿等ニ任ジ玉フナリ是八省ノ卿ノウチニテハ賞翫ナリ八省ノ事末ノ卷ニアリ此ノ二ツノ卿ハ親王ノ外ハ任ゼザル義ナリ但シ後醍醐帝ノ時ニハ大臣モ兼任ナリ是ハタマサカノ事也

卿ノ字ナキハ親王ノ官ニハアラザル也中務卿ハナカノマツリゴトスルツカサト和訓シテ禁中ノ事ヲ司ル也御門近習ノ官也后ヲハジメ宮女ノ事勅定宣命等ノ義ヲツカサトルクハシクハ下ノ卷ニミユ卿ハ章也章明也ヨク理ヲアキラムルノ義也文書ノツカサドリナレバ才智ナクテハ叶ハザル事也醍醐帝ノ御子兼明親王村上ノ具平親王是ニ任ジ玉フ兩親王ハ文才カクレナキ也又卿ノ字頭ト云フ心ナレバ公卿ノ卿ノ字ニハカハリタル也八省ノ中ニテモ治部刑部宮内等ハ四位ノ殿上人任ジ又ハ地下ニモ任ズル也殘リノ五省ハ公卿ノ外ハ任ゼザルナリ○親王ニ一世親王二世親王ト申ス事有リ一世親王トハ其ノ身一代バカリナリ三世ハ二代ツ、キ玉フ也皆宣下アリ親王ト成リ玉ハズ未ダ何トモ姓ヲカウブリナキハ諸王ト號ス定親王トハ伏見殿ノ如キ永代不易ノ親王也是ハ帝ニ御子ナキ時ハ位ニソナヘ玉ハンノ義也○親王宣下ヲ蒙リ玉ハヌハ臣下ノ官位ニ進ミ玉フ也皇子御連枝ノ外ハ孫王ヨリミナ諸王ト云ヒテ臣下ノ官位ヲ授ケ玉フ又諸王ノ中御養子ノ儀ヲ以テ別ニ宣下ヲカウブリ

玉フヲバ諸親王ト云フ諸王ノ親王ト稱シ品ニ叙スルニハ今マデ四位ノ人ナル時ハ四ヲアラタメズシテ則四品親王トスルナリ○皇子人臣ニ下リ諸王諸臣ノ列ニナリ玉ヘバ公事ニ從ヒ玉フ故有職ヲハゲミ玉フ也臣ニ下リ玉フトキハ姓ヲ賜フ也今ノ源氏ノ元祖オホカタ皇子也王孫四代ニ及ビヌレバ是ヲ四世無位トテ無位ナリ御ユルシヲ得テ叙位ノ時或ハ村上ノ御後天曆ノ御ノチナド、御子孫ノ爵ヲ申サル、也是ヲ王子ノ爵ト云フ某ノ王ト稱シテ或ハ正躬王ナド、申ス也

渡御 親王ノ御アリキヲ云フ中宮モ同ジ

令旨 親王ノ御意ヲ書キタルヲ云フ也○宮、后、是ニ同ジ文選三十八註曰秦法皇后太子命稱令云云通鑑綱目三十八太子命謂之令云云

御息所 親王、宮ノ御妻ヲ云フナリ多クハ東御方南御方ナド云フナリ太平記ニ一ノ宮ノ御息所トイヘリ

法親王 御出家ノ親王ヲ云フナリ餘事ハ末ニ見エタリ

薨御 親王ノ死ヲ云フ也○女院中宮等同ジ

女宮 御門御女ナリ女一宮女二宮女三宮

内親王 親王宣下アル也(和訓内親王)皇女別名 公主 帝女 林黃之花 沁水之浪 花陽公主 館陽

湖陽○御裝束ノサマノノ子細アリ和訓ニ御衣トヨムナリ

長公主 帝ノ御姉ヲ云フ也玄大長公主トモ云フ

長主 同御妹ヲ申スナリ

先帝 御位ヲ當今ニユヅリ玉ヘル前ノ御門也院御隱居ノ義也

御別名

上皇 漢高祖六生父太公ヲ尊ヒテ稱ニ上皇ニ是ヨリ始マル

太上天皇 太上帝院 仙洞 仙院 上九尊 芝砌 姑射 姑射山 藐姑山 茨山 汾水

虛舟 汾陽 茅闕 紫府 丹臺(和訓ニハ藐姑射山、下居帝、綠洞、洞内)

上皇ノ御裝束 狩衣也布衣トモ云フ也北面ニ至ルマデ院中ハ同前ナリ諸卿院ヘマキルニハ烏帽子狩衣ナリ

法皇 法皇陛下 禪定仙院イヅレモ御法體ヲ申シ奉ル院號ハ五十九代宇多帝ヲ亭子院ト號シ奉リシヨリ始

マル今ニ至リテ連綿シ玉フハ六十三代冷泉院ヨリ院號ヲ申シ奉ル也院號ノ讀ミヤウ亭子院、冷泉院、花山院、

朱雀院、近衛院、深草院、光嚴院、陽成院、御所ヲキンノ御所ト云フイヅレモ院ヘ參上ヲ院參トイヘリ

御幸 院ノ御アリキヲ云フナリ

院宣 院ノ仰ヲ云フ御意ヲ承ケテ書キタルモ同事也

新院 院ノオハシマスニ當今又位ヲノガレ玉フヲ申シ奉ル前ノヲ本院ト申ス也

院使 院ノ御ツカヒ也新院本院同シ

院拜禮 元日ニ群臣參候シテ禮スルノ義ナリ禁中ノ小朝拜ニ同シ

北面 院ノ侍也上北面ハ四位五位下北面ハ六位也諸家ノ侍モ任ズル也上スミテヨム也上ハ院内ノ昇殿ヲユルサ

ル、也諸家ノ諸大夫攝家清花ノ家ヲヘモ任ズ四品ニハノボリテモ參内ヲセヌヲ地下ノ北面ト云フ後鳥羽院ノ

御宇ニハ西面ト十人アリ是ハ一世ニシテ其ノ例ナシ

國母 天子ノ御母也、唐名、在威、威里、渭陽、國母仙院、母儀仙院、堯母門、堯母、以握、長樂宮、帝親母、以上德ヲ妊

妣ニ比スルト云フ事アリ周ノ文王ノ母后ヲ大姪トイヒ武王ノ母ヲ大姪ト云フコ、ニ始ル又皇妣、皇太后、皇太

妣、皇太夫人トモ皇太后宮(和訓オホキサイノミヤ)此ノ尊號五十五代文德帝ノ時ニ始マル御母公ハ順子五條

ノ后ト號ス左大臣冬嗣ノムスメ也 太皇太后五十六代清和ノ御宇尊稱シテ太ノ字ヲ加ヘ玉ヘリ皇后宮ハ天子

ノ御妻ナリ以上三ツヲ三宮ト申スナリ

女院 院ニヲリキ玉フ儀也何門院ト門院ノ號アリミナ大内ノ門號也

太皇太后宮 天子ノ御祖母ヲ申ス(和訓オホキサイノミヤ)(皇祖妣)太皇太妣太皇夫人同シ太皇ノ二字ハ

秦始皇ノ母后ヲ柯太皇ト云フコ、ニ始マル○太后ノ號ハ秦昭王ノ母后ヲ宣太后ト云ヘリ是ニ始マル○后ノ字

ハ夏ノ代ニ是ヲ用ヒ君ト云フ義ナリ○宮ノ字ヲ用フルハ本朝十五代神功皇后ニ始マルナリ

皇后宮 キサイノミヤ御門ノ御妻也○后、后宮、后妃、中宮、往昔ハ三宮ヲ惣シテ中宮ト云ヒシナリ本朝ノ初ハ母

后ヲ中宮ト云ヘリ唐土ニハ后ヲ中宮ト云フナリ今ハ異朝ノ例也延喜帝ノ御宇中宮ノ稱始マル中宮ハ后ノ居シ

玉フ所ノ名ナルヲ皇后ノ名トセル也漢書呂太后傳師古ノ註ニ見エタリ本朝ニハ或說ニ紫宸清涼殿ノアヒダニ

常寧殿アリ皇后コ、ニ居シ玉フユエニ中宮ト云フ椒房、掖庭、椒庭、椒掖、椒風、昭陽殿、螽斯、陰教、內則、采茨、

關雎之德、櫻木之詠、鹿花之美、葛藟之詠ナド、云フナリ中宮ヲ始メ女中ノ局ヲ曹司又ハ對トモ云フ然ルニ別

ニ殿上ニ局ヲ玉ハルヲ上局ト云フ也中宮アガリ玉フ時ハ清涼殿ノ二間ヲウヘノ御局ニシツラフト也畫御座ノ

カタハラ二間ニアリ○后ニタ、セ玉フベキヲバ内々ニテハ后兼ナンドイフ也后禮記ニ天子妃曰、后其外ハ女

御、更衣、御休所○中宮始メテ禁裡ニ入り玉フヲ入内ト云フナリ

女御 漢朝ニハ八十一ノ女御アリ周禮後漢書等ニ見エタリ本朝ニハ雄略帝七年吉備上道ノ女ヲ女御トシ玉フ是

ニ始マル源氏物語目安ニ曰女御ハ二位三位ニ至ル后ノツギナリ常ノ上臈ノ御方ナド云フ位ナルベシ
 更衣 河海ニ云仁明帝承和三年正五位上紀乙魚女爲更衣是更衣ノ初也漢ニハ章帝ノ時始マルナリ便殿ニ侍シ
 テ御衣ナドヲ召シカヘサセ奉ル故ニ更衣ト云フ也云々目安云更衣ハ四位ノ給女ノ惣名也帝ノ御服ヲメシカフ
 ル時アツカヒ玉フ人ナルニヨリテ更衣ト云云一條禪閣ノ御説女御ハ后ヨリツギノ人也又更衣ハ女御ヨリ次ノ
 人也云々或説ニ天子中宮ノ局ニワタリ玉フ時其ノ道ニアル局ニ居スコ、ニテ御衣ヲメシカヘ玉フ也河海ニ便
 殿ニサブラフト云ヘル是也ト云々

御息所 御子ヲウミ奉リテハイヅレモ先此ノ號アリ天子ノ御休所ニ參ラル、ノ義又ハ天子此ノ人ノ局ニ御休息
 ノ儀トモ云フ所ニ依リテミヤスンドコロトモヨム也

凡ソ女御更衣ハカズサダマラヌ也

○臣家名目(混雜)

三公 太政大臣、左大臣、右大臣又ハ三台トモ云フ天ノ三台ニカタドル三台ハ虛精星、陸淳星、曲順星コノ三ツノ
 星也周ニハ太師太傅太保ヲ三公トス西漢ハ太司馬太司徒太司空東漢ハ太尉、司徒、司空ミナ三公ナリ

關白ノ宣 オホトノノセンジト和訓ス則チ關白ノ宣旨ヲ玉フ義ナリ

一人 攝政ナリ一ノ所トモ云フ内覽ノ宣旨ヲ得テ諸臣ノ上ニ座セラル、也下ノ卷ニクハシ

一ノ上 左大臣ヲ云フ也但シ右大臣ヲ一ノ上ト云フ事モアリ時ニヨル攝政ノ次ヲ一ノ上トイヘバ左府攝政タル

時ハ右大臣ヲ一ノ上ト云フ太政大臣攝政ナレバ左大臣勿論也一ノ大臣ハ左大臣ヲ云フ

致仕 臣ツカサトル官職ヲ君ニカヘヌヲ云フ辭シテ隱居スルノ義也致仕表ト云フハ其ノ辭スル義ヲ文章ニカキ

テサ、グルヲ云フ禮記云大夫七十而致事云々七十三至レバ必隱居セシムルノ義也致事日本ニハ事ヲ仕ニ書ケ
 リ其ノ時日ゴロ用ヒタル車ヲ先祖ノ廟ニカクル事アリ是以懸車齡トモ云フタシ官ヲ辭スルトイヘドモ猶マ
 ツリゴトヲバアヅカルヨシ也

復辭表 攝政ヲ辭セラル、事也

牛車轎車ノ宣 ノリナガラ宮中ヲ出入アルナリ牛車ハ中門ノキハマデ乗ル物也牛車ノ宣旨ヲ賜フ人ハ立石ヲコ

ニ兵杖ヲ帶ス本府ノ隨身ヲ召シ連レ參内アル也立石今ハウツモレテナシカ様ノ事ハ大内ノ義ニテ今ハ不詳

轎車ヲクルマトヨメリ輿ニ輪ヲカケタルモノ也トカヤ平ニテヒクナリ御門ノウチヲ乘リ玉フ也ト河海ニ見ユ

サルベキ宿老ノ大臣又女御更衣ナドノユルサレ玉フ也

任大臣節會 大臣ニ任ゼラル、人南殿ノ庭上ニテ天子ヲ拜セラル、儀式也大臣ノ大饗ト云フ事アリ右ノ節會ノ

時出デラルル公卿諸司アリ其ノ日ノ一ノ上首ヲ上卿ト云フ也今任ゼラレタル大臣カノ上首ヲ尊者トイヒテ我

ガ館ニ申シ入ル其ノ外ノツカサ外記ニ至ルマデフルマハル、ナリ是ヲ云フ也饗ハモテナスナリ大饗スギテ其

ノ來レル人々庭上ニシテ大臣ヲ拜スル事アリ其ノ時大臣諸卿ヲ拜ス是ヲ答拜ト云フ俗ニ馳走答拜ト云フハ是

ヲナゾラヘタル也

補佐臣 補ハオギナフ佐ハタスクルナリ君ヲ守ルノ義ニトル良臣ヲ云フ鹽梅臣トモ云フ

鼎臣 カナヘノ三足ヲ三公ニタトヘシ也魏吳蜀ノ三國鼎ノゴトシト云フニ同シ鼎和名ニ三足兩耳ト云ヘリ

再任 關白ナド辭シテ又任ゼラル、ヲ云フ

諡號 死ニタル時其ノ人ノ官位ヲマシクマハル也臣疾ニフス時此ノ度本復セジト思フニハコナタヨリ望ム事ナ

リ三公ノヲハラレタルトキハ其ノ官ヲ前ノ官ニナシテ前太政大臣前左大臣ナド、ナシ玉フ是規模ノ義也又存命ノ内ニ前左大臣等ニ成リタル人ハ其ノ義ナシ或ハ國ヲ勅許シ玉フ事アリ淡海公ハ近江國昭宣公ハ越前貞信公ハ信濃也如此國ニ封ゼラル、事ナリ又ハ出家國師等ニ諡號アマタルナリ贈官ハ帝ノ御外祖タル人ハ贈太政大臣其ノ例多キナリ

戚里ノ臣 帝ノ御母ノ父ヲ云フ

准三宮 攝政、關白、后宮、法師等ニ此ノ宣旨アリ

上卿 節會儀式等ニ奉行アリ是ヲ上卿ト云フコトニヨリテ大臣ノ奉行セラル、事アリソレヲバ其ノマ、大臣ト云フ也大納言中納言ノ奉行ヲ上卿ト云ヒ又ナベテ大臣ノヲモ上卿ト云フ是ハ儀ニアタラザル也

散位 散二位、散三位是ハ參議ヲ歷ズシテ三位ニ至ルヲ散三位ト云フ散一位ト云フ事ハナキ也從四位從三位從二位迄ハ參議ノ位ナリ然ルヲ參議ヲ歷ザル也

棒三位 同散三位ノ事ナリ

昇進 官ニノボルノ義ナリ又任トモ云フ位ヲバ叙スル又加級一級ナド云フ又位階モ昇進ト云ヒテ理ニタガハザル也位ニハ至レドモ官ニハノボリガタシ

加階 位ノ義也加階ヲスルトモ人ノ加階ヲコユルトモ云フナリ

越階 段々ス、ムベキ位ヲコエテ進ムヲ云フ

轉位 轉任位ヲテシ官ヲテシズル也

叙留 ハジメノ官ヲサリテ別ノ官ヲ任ズベキトキニ始メノ官ヲ其ノマ、帶スルヲ云フ也抑留ノ心也コナタヨリ

ノゾム事モアリタトヘバ五位ノ少將四位ニ叙スルトキ少將如元ナド口宣ニ有ル此ノ義也

款狀 位官ヲノゾミ又ハ訴訟ヲ申シ上クル狀也クハンノ音ナレドモクハトヨム也

勅賞 天子ノ御褒美ヲ云フ也

公卿 大臣ヨリ三位以上大中納言參議ヲ云フ公ハ大臣卿ハ大中參ナリ

公達 攝家清花ノ子息ナリ又ハ大臣大將ノ息中納言ニ至ルハミナ公達ト云フ也

花族 攝家清花ノ一族ヲ云フ家高クシテ花麗ノ義ナリ

上達部 大臣ノ子息ヲ云フナリ

殿上人 多クハ四位五位以上ノ中將少將侍從等也四位ノ未ダ殿上セザルヲバ地下四位ノ諸大夫ト云フ殿上ハ前

ニ云フ如ク清涼殿ノ西ニ並ビテアリコ、ニ上ルヲ昇殿ト云フ地下ハ殿ノ外ニテ仕フルモノナリ内ニ入ルヲ内

ノ昇殿ユルサルト云フ外ニイタルヲ外ノ昇殿ユルサルト云フ六位ノ地下モ藏人ニ補シヌレバ昇殿ヲ許サル

ル也禁中ニ限ラズ院ノ殿上人東宮ノ殿上人アリ其ノ處々ニ許サレテ昇殿スル也但シ院ニテ昇殿スレトモ禁中

ニテ昇殿セザレバ殿上ノ役ニ從フ事不叶殿上人和訓ウヘノヲノコ

卿相雲客 卿ハ三位已上大中納言月卿トモ云フ雲客ハクモノウヘビト則チ殿上人ナリ

殿上ノ御札 殿上人ノ名ヲシルシタル簡板ナリ殿上簡トモ云フ

參昇 參進、參内、禁中ニマキルヲ云フ參昇マウノボル

兵仗 隨身内舍人ノタグヒナリ武官也是ヲ御ユルシアルヲ兵仗ヲ賜ハルト云フ直人モ舍人ナド玉ハルキハ、ニ

シトミユトイヘル是也御隨身ハ禁中ノ隨身也

有職袖中鈔

三家 閑院、花山ノ院、中ノ院ヲ云フ英雄ノ三家トモ云フ閑院ハ九條右近相師輔公ノ子閑院太政大臣公季公ノ流也此ノ下ニ三家アリ三條西園寺徳大寺也花山ノ院ハ九條關白内大臣頼通公ノ子京極師實公ノ流ナリ此ノ下ニ二家アリ大炊御門洞院ナリ中ノ院ハ村上帝ノ皇子具平親王ノ流也此ノ下ニ四家アリ久我堀川土御門六條也是ヲ村上源氏ト云フ○又三家トハ凡家名家諸大夫家ヲ云フナリ

理髮 元服ヲ云フサマトノ事アレドモシルシガタシ

北政所 關白ノ妻ヲ云フタトヘバ普賢寺殿ノ北ノ政所ナド云フ也

小政所 攝政ノ室ナリ

大政所 同母儀ヲ云フ

御臺盤所 清花ノ妻ナリ

室 公卿ノ妻ナリ

禁色 紫紅ノ裝束ナリ御ユルシナクテハ不着也ウスムラサキハユルシ色トテ不苦又ハ綾織物ノ裝束也アヤノ小袖シヤウゾクハ裾下襲表袴指貫等ニオリ物ヲキル也是ヲ御免アル也藏人頭并ニ五位ノ藏人は是ヲユルサル、アリ藏人頭ハ辨官ヲ兼ヌル也天子近習ノ官ナル故也辨ハ天子ノ御拜膳ヲモスル也藏人ノ事下ニ見ユ凡ソ紋付ハ公卿ヨリ己下ハチヤクセザル也三位以上ノ服也サシヌキモ攝家清花公卿ノ着也東帶ノトキハ白袴ニ石タ、ミノ紋アル也藏人ハ常ニソクタイ也六位ノ職事モ禁色ヲユルサル、也

裝束ノ事クダシシクハシルシ難シ

唐名之事 五十七代陽成院元慶年中右大辨立花ノ朝臣廣相少外記島田ノ朝臣忠臣二人シテアツムル也○官當唐

名略抄(廣相作)百官唐名抄(忠臣作)(公卿ニハ卿ノ字ヲ付ケテヨビ殿上人ニハ朝臣ヲ付クルナリ)

百官 官百アル故ニハアラズ諸官ノ惣名ナリ内外ノ諸臣大臣己下書史以上ヲ官ト云ヒ禁中ヲ百敷トモ云フ百官ノ座ヲシク心也又京中ノ官ヲ京官トイヒ内官トモ云フナリ諸國ノ官ヲ外官ト云フ

柳箱 硯短冊鞆冠經卷等ヲスウル柳ヲ以テ造ルニツノ足アリ三角ノ木ヲナラベテ足ニアミ付クルナリ木敷ノ事説々有リ短冊ヲスエテ進上ノトキ冷泉家ニハ重ニコシラヘラル三條三光院ノ相傳也トテ重半ニヨリ吉凶義相傳也トカヤ吉事ニハ半ヲ用ヒ追善等ノ經卷ヲスウルニハ重ニスル也

○年中行事(ヨミヤウ拔書)

小朝拜	氷様	腹赤御覽	白馬御會	御修法	主水司	獻七種御粥	内宴	御巫供御贖
物	祈年祭	列見	季御讀經	省試	奏御燈御卜	鎮花祭	賑給	神今食
節折	道饗祭	乞巧奠	新嘗食	荷前	追儺	太祓	大神祭	忌火御飯

○諸家

攝家 攝政ニ任ゼラル、家ナル故ニ攝家ト云フ也又執柄家トモ云フ也五家アル故ニ五攝家ト云フ近衛、九條、二條、一條、藤原何レモ藤氏ニテ春日明神ヨリ相承シ玉ヒテ則チ家門ノ氏ノ神トシテ紋ニニツモデリ藤也近衛殿藤氏ノ嫡流ニテ九條殿ハ庶流也近衛殿分レテ藤氏家ヲ立テ九條分レテ一條二條アリ是ヲ攝家五流ト云フナリ元ハ近九ノ二流也右五家高下ナクシテ攝政關白ノ職ハ五家ヲメグリテ任ゼラル也○攝政ハ天下ノ政ヲトルノ儀也座フ天子ニヒトシクナラブル官也凡ソ群臣ノ長ニテ攝政ノ上スルコトハナキ也人臣ノ上ニ座セラルレバ一人ト云フ也又殿トモ殿下トモ云フナリ攝政ハ周ノ成王イトケナウシテ位ニツキ給ヒシニ叔父ニテオハス

周公且成王ニカハリテ政ヲ行ヒ玉ヒシヨリ始マリタル也日本ニハ五十六代清和帝ヲサナクテ位ニツキ玉ヒシ時忠仁公母方ノ御叔父ニテ天子ニ代リ政ヲ行ヒ玉ヒシヨリ始マリタル也是則チ周公且ノ例ニ准ゼラル也天子ヲサナキ御時又女帝ノ時ニノミ攝政ハアル也常ハ關白アル也試ノ攝政在位ノ攝政ト云フ事アリ試ノ攝政ト云フハ推古帝ノ御宇ニ聖德太子攝政シ玉フゴトキヲ云フ也則チ天皇ノ御女ヲ太子ニ嫁シ玉ヒテ攝政シ玉ヒテ後太子ヲ帝位ニツナヘ奉ラン爲ニ先攝政ヲナサシメ天下ノ政ノ善惡試ミ玉ハンノ儀也サレドモ太子ハ推古天皇ニ先ダチテ薨ジ玉ヒシ也唐ノ堯王ノ娥皇女英ヲ舜ニ嫁シ玉ヒテ攝政トナサシメ後ニ位ヲユヅリ玉フモ試ノ攝政也在位ノ攝政ハ周公ノ攝政也臣下ノ上ニシテツカサドルヲ在位ノ攝政ト云フナリ日本ニハ忠仁公ノ攝政是ナリ其ノ器量人ニコエ文才ナクシテハ不叶也此ノ故ニ且讀夕見ト云フ也アシタユフベニ聖賢ノ書ヲヨミ本朝ノ故實ヲカンガフルノ儀也藤氏ノ元祖ト仰クコトハ元祖鎌足和州ノ藤原ニ居シ玉フユエニ天智天皇ノ御宇藤原ノ姓ヲ賜ヒタル也藤氏ノ長者ト云フ事アリ下ノ卷ニ委シ關白ハ万機ノ政ヲ預リ司ルノ儀也委シクハ末ニ見ユ攝政關白ハ一時ニアル事ナシ攝政アレバ關白ナシ一職ヅ、アル事也攝政關白ノ上ニ内覽ノ宣旨ト云フ事アリ關白ハ唐土ニハ漢ノ宣帝位ニ即キ玉ヒシ時霍光ト云フ臣ニ政ヲアツケラレシ也是關白ノ初ナリ本朝ニハ陽成院ノ御時昭宣公ニ萬機ノ巨細百官ノ摠己ヲミナ關白スト詔ヲ下サレシ也是霍光ノ例也百寮訓要ニ曰關白ハ人臣ノ位ニテハ只政ヲ管領スル也(以下略ス)○内覽ノ宣旨ヲ蒙リ玉ヒテハ諸臣天子ヘ奏聞スル事亦ハ宣下ノ事ヲモ何事ニヨラズ先關白ニ申ス也關白ウケアリテ奏聞スベキヲ奏聞シ宣下スベキヲ宣下アル也此ノ事ヲイタセヨトノ御免アルヲ内覽ノ宣旨ト云フ也關白職ヲ辭シタレバ天下ノ政務ヲ預カラサトモ猶内覽ノ宣旨ヲバ殘サレシ人ヲ太閤ト稱スル也然ルニ近代關白ノ父タル人ヲ太閤ト號スル事ハ其ノ理當ラズトカヤ

官職ヲ辭シスレバ前ノ字ヲ加フル也前ノ關白ニシテ政務ニマジハルヲ太閤ト云フ也法躰ノ後ハ禪關ト云フ攝政關白ヲ攝政殿下ナド、云フ事ハ凡種ニ比類スマジキノ儀ニテ衆臣貴トシテ申ス也三光院ノ抄ニ云ク五攝家嫡庶ノ事ハ系圖ノウヘニテ兄弟ノ儀ニヨラズ家業ノ口傳并ニ先祖代々ノ文書ヲ傳領シ玉フヲ嫡家ト申ス也ト云云又曰神代ヨリ攝家代代只一人ニ授ケ相傳シ來リ侍ル大嘗會天神地祇ヲオロシ奉ル大事并ニ神膳ノ儀式即位灌頂ノ大事此ノ兩條ヲ代々執柄ノ人天子ニ授ケ奉リ玉フ也此ノ外節會奏叙位除目ヲ四箇ノ大事トシ貞信公ヨリ以來代々口訣相傳アル也是ヲ以テ攝家ノ家業トシ玉フ也云云抑當家ノ初春日神百王ノ御政ヲ輔佐シ玉ハンガ爲ニ天地開闢ノハジメ天照太神天兒屋根尊御兄弟君臣ノ御約束也トカヤ天津兒屋根尊ハ春日大明神也往古ノ御契クチズシラ一天ノ君万乘ノ御主ノ御師範トシテ攝政關白ノ職ヲ受ケツギ王フハヤンゴトナキ御事也サレバ禁裡ニシテハ院ノ御行狀ニナゾラヘ侍リ百氏千官ヲシタカヘラレタトヒ天子ノ御連枝タリトイヘドモ執柄ノ公達ニ對シテハ各御等輩ノ禮儀也

○五攝家畧傳(藤氏)

藤原氏ハ近衛殿元祖也攝家清花ヨリ諸家ニ至リ惣ジテ藤氏ハモト一家ノ御流也

○大織冠鎌足 内大臣 不比等 淡海公 右大臣

房 前 參 正三位 眞 正二位 後長岡 内麻呂 從一位 右大臣

眞 夏 日野流 參議從三位

教輔公 冬經公

鷹司殿 元祖兼平公猪隈太政大臣家實公ノ男也稱念院ト號ス 當輔房公

兼平公 基忠公 冬平公 冬教公 師平公 冬通公 冬家公

房平公 政平公 兼輔公 忠冬公 信房公 信尙公 教平公

輔房公 息兼照卿

右攝家御任官ノ次第ハ少將ヨリ中將中納言大納言(大將ヲカヌ)内大臣右大臣左大臣太政大臣如レ此

清花 七家アル故ニ七清花ト云フ但シ俗言也花族ノ公達トモ云フナリ

三條(轉法輪)西園寺 德大寺 花山院 今出川(菊亭) 大炊御門 久我

右六家ハ藤氏ニテ九條師輔公ノ胤孫也久我一家ハ源氏也凡ソ任官ノ事侍從ヨリ少將中將參議中納言大納言ニテ大將ヲ兼ネ内大臣右大臣左大臣太政大臣也此ノ外大臣ニイタルトモ大將ヲ兼ネサル家アリ大臣家ト云フ清花ハ太政大臣ヲ極トス器量ナクテハカナハズ天子ノ御師範トナリ國家ヲサメ玉フ善ヲス、ムル役也其ノ器ニアタル人ナキ時ハ此ノ官ヲヤメラル、故ニ則關ノ官ト云フ王佐ノ才ヲタクハヘ天子ヲイサムル器ナリ攝政關白ノ兼官也トイヘトモ攝關ノ職ハ猶カミニテ有ルユエ望ミ玉ハズ但シ主上御元服ノ御時ハ執柄ノ任官也攝政關白ニツギテハ此ノ上ナシ公事政務ヲ行フ事ハ稀ナリタ、オモキ人ニシテ天子ノ御師範ノミ也

○太政大臣ヲ置カル、始ハ三十九代天智帝ノ朝ニ大友皇子ヲメ始テ任ジ玉フ

一説ニ清花ノ事右ノ七家ニ限ルベカラズ大將ヲ兼テ大臣ニ至ル人ハミナ清花也又皇子王孫ニ姓ヲ賜ヒテ

大臣ノ大將ニイタリ攝政關白ノ子息先途ヲトケズシテ大臣大將ニ至ル清花ト云フナリ

攝家ニハ大將ヲ兼テ太政大臣ニ至リ攝政關白職ヲ兼任シ玉フ也清花ハ攝關ノ兩職ナシ○清花并ニ大臣家

ハオホカタ攝家ノ息攝關ニ至ラズシテハレル人々ノ子孫也○清花ニモ有職四箇ノ大事ヲ以テ家業トセラ

ル、也諸家々業ニ云夫レ四箇之傳授自昔諸家悉可ニ攝家授侍一事也小野宮九條兩流聊替事ナド侍レドモ皆自執柄家ニ出流ニテ侍ル也云云

三條 元祖公季公ハ(閑院太政大臣ト號ス)九條右府師輔公ノ男也當實道卿

公季公 實成卿 公成卿 實季卿 公實卿 實行公 公教公

實教公 公房公 實親公 公親公 實重公 公茂公 實忠公

公忠公 實冬公 公冬公 實量公 公敦公 實香公 公頼公

實教卿 公盛卿 實秀卿 公富卿 實通卿

西園寺 正統右ニ同シ閑院家也(又一條トモ)靈祖ヨリ九世太政大臣公經嘉祿年ニ西園寺ヲ艸

創セリ依リテ稱號タリト云云洛陽ノ西衣笠岡ノ良ニ在リシトカヤ今兼敦卿

公季公 實成卿 公成 實季 公實 通季 公通

實宗 公經公 實氏公 公相公 實兼公 公衡公 公宗

實俊 公永卿 實永公 公名公 實遠公 公藤公 實宣公

公明公 實益卿 實晴 公滿 實良公 兼敦卿

德大寺 同公季ノ後胤也元始實能公ハ權大納言公實卿ノ男也號德大寺實能公ノ艸創ノ地也

衣笠岡ノ坤ニアリト云云今實維公

實能 公能 實定 公繼 實基 公孝 實孝

公清 實時公 公俊公 實盛卿 公有公 實敦 公胤公

實通卿 公維公 實久 公信公 實房公 實維公

家忠 忠雅 兼雅 忠經 定雅 通雅 雅家 敦

家定 長定 兼定 通定卿 持忠公 定嗣卿 政長公

忠輔卿 兼雄 家輔公 家雅 定熙 定好 忠廣

定誠

大炊御門 同氏族也元祖經實公ハ花山院ノ祖家忠公ノ弟也第二經宗公ヲ大炊御門左大臣ト號ス當經光公

經實 經宗 師實 師經 家嗣 冬忠 信嗣

良宗 冬氏 冬信公 冬宗卿 宗氏公 信宗公 信量公

經名公 經賴 賴國 經敦 經孝公 經光公

今出川 西園寺ノ一統也元祖兼季公ハ西園寺太政大臣實兼ノ三男ナリ當代ニ至リテ十四代

兼季 實尹 公直公 實直公 公行公 實富卿 敦季公

公與公 季孝卿 公彦公 晴季公 秀持 經季 公規

息伊季

久我 村上源氏也氏ノ元祖村上帝ノ皇子具平親王也親王ノ男師房公當家ノ祖也當通規卿

師房 顯房 雅實 雅定 雅通 通親 通光

通忠 通基 通雄 長通 通相 具通公 通宣卿

清通公 通博公 豐通公 通言公 晴通卿 通興卿 敦通

通世卿 通前 廣通 通規

大臣家 西三條 中ノ院

中ノ院開院家ノ黨重代ノ才能ニ依リテ任ズト云云内大臣迄至ル家也タシ大將ノ兼任ハナシ右大臣職掌左大臣ニ同シ委シクハ下ノ卷ニ見ユ當家モ清花ニ同シク四箇ノ大事有職ノ故實ヲタシナルナリ

西三條(藤)此ノ稱號西三條ハ三條大臣良相公ノ名也三條ノ北朱雀ノ西ト云云此ノ家ニ百花亭ト號セル所アリ清和帝此所ニ行幸アリシ也伊勢物語ニ三條ノ大行幸セシトキトイヘル是也又東三條ト云フ處アリ四條院御誕生ノ所ト云云或ハ重明親王ノ家ト云云又九條師輔公ノ息兼家コ、ニ住ミ玉ヒシカバ東三條ノ入道ト云ヘリ其ノ始忠仁公貞信公ノ傳領也當家公時卿ヨリ實敦卿ニ至リテ十代

公時卿 實清卿 公保公 實隆公 公條公 實澄公 公光

實條 公勝 實敦

中ノ院(村上源氏也)元祖通方卿ハ土御門内府通親公ノ二男也當代通茂卿

通方——通成——通賴——通重——通顯——通冬——通氏卿

通守卿——通淳卿——通秀卿——通世卿——通胤卿——通爲卿——通勝卿

通村卿——通純——通茂

羽林家 當流ハ近衛司ヲ兼スル家也少將中將ト昇進シテ參議中納言大納言ヲ先途トスル也納言ニ至レル家ハ大臣ノ與奪ニ依リテ節會官奏叙位除目等ノ公事ニマシハル故大臣ノ職掌ニヒトシ故ニ有職故實ヲタシナム也近衛司ハ武官ニテ禁裏守護職也劍笏ヲ帶スルナリ羽林次將ト云フ是也委シクハ下ノ卷ニミユ凡ソ少將中將ヲ經ル事攝家清花ノ外當家也又大臣ノ子孫ニハアラチドモ是ヲ經歷スル家アレドモ是ハ各別也宰相ニト云フ也是コトナル規模ナリ辨官ヲ兼帶スルハ公達ノ中才智器量ノ人也羽林家ノ中將藏人頭ヲカヌル時ハ頭中將四ツ辻 中山 飛鳥井 冷泉 六條 阿野 清水谷 橋本 姑カ小路 綾ノ小路 庭田 松ノ木 持明院 滋野井 川端 水無瀬 園 難波 白川 四條 鷲ノ尾 山科 西ノ大路 油ノ小路

四辻(藤氏)元祖實藤卿ハ西園寺公經公ノ四男也
實藤——公重——實爲——公春——實鄉——季顯卿——實茂卿

季俊卿——實仲卿——公音卿——季遠卿——季滿卿——季繼卿——公理卿
季賢卿——公詔卿

中山(同)元祖忠親公ハ花山ノ院ノ祖家忠公ノ二男也

忠親公——兼宗卿——忠定——基雅——家親——親雅卿——滿親卿

定親卿——親通卿——宣親卿——康親卿——孝親公准大臣從一位——親綱卿

慶親卿——元親卿——英親卿——篤親卿

飛鳥井(同)元祖忠教卿ハ京極攝政師實公ノ五男也

忠教——賴輔——賴經——雅經——教定——雅有——雅孝卿

雅家卿——雅綠卿——雅世卿——雅親卿——雅俊卿——雅綱卿——雅教卿

雅敦卿——雅繼——雅賢——雅胤卿——雅章卿——雅豐

冷泉(同)元祖長家卿ハ御堂關白道長公ノ男大納言正二位也今爲綱朝臣

長家——忠家——俊忠——俊成——定家——爲家——冷泉爲相卿

爲秀卿——爲邦(朝臣)——爲尹卿——爲之(朝臣)——爲富卿——爲廣卿——爲和卿

爲益卿——爲滿卿——爲親——爲賴——爲治卿——爲綱

六條(源氏)元祖通有公ハ後ノ久我太政大臣通光公ノ男也

通有公——有房公——有忠卿——有光卿——有孝朝臣——有定卿——有繼卿

有親——有純——有和——息有綱

阿野(藤)元始公佐朝臣ハ權大納言實國卿ノ男ナリ

公佐——實直——公仲——實康——季繼——實爲——公爲卿

實治卿——公熙卿——季綱卿——季時——實政——公福——實顯

公業季信

清次谷(藤)元祖實有卿ハ一條太政大臣公經之男也

實有公藤實連公公有實村卿公勝卿公知朝臣

實久卿公松實任公種公榮息實業

橋本(藤)元始實俊卿ハ太政大臣公相公ノ四男也公相ヲ西園寺又冷泉トモ號ス

實俊季經卿實澄卿公音卿實鄉卿公夏卿實勝朝臣

實村季村實松

姉カ小路(藤)元祖濟時卿ハ左大臣師尹公ノ男ナリ

濟時通全師成師季尹時師綱濟綱

家經時綱有時尹綱親經家經家時

師王賴基卿高基卿家綱卿昌家卿基綱卿清繼卿

濟俊公景公量

綾小路(源氏)始祖信有卿ハ中納言有資卿ノ四男也有資卿鄴曲和琴ノ名人ニテ時人鈴虫ノ中納言ト云ヒシ也

信有卿有賴卿敦有信俊卿有俊卿俊量卿資範朝臣

高有俊良卿俊景卿

庭田(源)宇多帝ノ御子敦實親王ニ始マル

敦實親王雅信時中濟政資道政長有賢

資賢時賢有賢經資茂賢重賢經有朝臣

重有卿重賢卿雅行卿重經卿重親卿重保卿重通卿

重定卿重秀重條

松ノ木(藤)元始賴宗公ハ御堂關白道長公ノ男也

賴宗俊家宗俊宗忠宗能宗家宗經

宗平宗雅宗冬宗定宗重卿宗泰卿宗數卿

宗繼卿宗綱宗藤卿宗房卿宗道宗澄宗信

宗保宗良宗條卿

持明院(藤)元祖基賴朝臣ハ右大臣俊家ノ男ナリ

基賴通基基家基宗家行家定基盛

基世基兼基清卿基親卿基繁卿基信卿基春卿

基規卿基孝卿基久基征基定基時

滋野井(藤)元始實國卿ハ後三條内府公教ノ男也

實國公時實宣公光實冬冬季卿實前卿

公尙朝臣實益卿教國卿季國卿公古卿季吉卿久晴卿

教廣卿實光

川端(藤)始祖公清卿ハ滋野井公時卿ノ男也

公清—實隆—公賴—實益—公村朝臣—季村朝臣—公邦朝臣
 實村朝臣—公益—實治卿—季富朝臣—公虎—基秀—基共
 實陳

水無瀬(同)元祖隆家卿ハ中關白道隆公ノ男ナリ

隆家—經輔—師信—經忠—信輔—親信—親兼

信氏—良親—具良—具兼卿—具隆卿—具景朝臣—重親

季兼卿—英兼卿—親氏卿—親具—氏成卿—兼俊卿—氏信卿

園(同)元祖通基卿ハ前能登守基賴ノ男也

通基—基家—基氏—基顯—基藤—基成—基隆

基光卿—基秀卿—基有卿—基富卿—基國卿—基繼卿—基任

基音卿—基福

難波(同)元始忠教卿ハ京極攝政師實公ノ男也飛鳥井家ニ同シ第三代賴經朝臣ヲ難波ト號ス

忠教—賴輔—賴經—宗良—宗教—教繼—宗夏

宗國—宗世—宗衡—宗富—宗種—宗豐—宗量

白川(源)先祖清仁親王ハ花山ノ院ノ御子也第二延信朝臣ヨリ神祇伯代々神道ヲ家業トセラル、也

清仁親王—延信—康資王—顯康—顯廣王—仲資王—業資王

資光王—資邦王—業顯王—資清王—資英王—顯邦王—資忠王

雅兼卿—資益王—資氏王—忠富王—雅業王—雅英王—顯成

邦富—雅陳王—雅喬王

四條(藤)元祖魚名公ハ河邊左大臣ト號ス房前ノ次男也

魚名—未茂—總繼—直道—連茂—佐忠—時朝

賴任—隆經—顯季—家保—家成—隆季—隆房

隆衡—隆親—房名—隆名—隆宗—隆卿—隆直卿

隆盛卿—隆量卿—隆永卿—隆重卿—隆益卿—隆昌卿—隆志

隆術—隆音—隆盈

鷲尾(藤)本系右ニ同シ始祖隆良卿ハ四條隆親ノ二男

隆良—隆嗣—隆職卿—隆右卿—隆敦卿—隆豐朝臣—隆遠卿

隆賴卿—隆康卿—隆尙—隆量—隆光—隆尹

山科(同)元始實教卿ハ中ノ御門家成卿ノ男也家成ノ宿所東洞院中ノ御門ナルニ此ノ號アリ

實教—教成—教房—資成—資行—教行—教言卿

教興卿—家量卿—顯言卿—言國卿—言綱卿—言繼卿—言經卿

教遠—教利—言緒—言總—言行—持言

西大路(同)始祖隆綱卿ハ權大納言隆衡卿ノ男也

隆綱—隆行卿—隆政卿—隆有卿—隆持卿—隆仲卿—隆躬朝臣

隆富朝臣 隆範 隆平

油小路(同)元始隆蔭卿ハ從二位隆政卿ノ男ナリ

隆蔭卿 隆家卿 隆信卿 隆夏卿 隆繼卿 隆經卿 隆良卿

隆房卿 隆貞 息隆真朝臣

名家

日野 廣橋 烏丸 柳原 甘露寺 葉室 萬里小路 勸修寺 中御門 清閑寺 小川

坊城 竹屋

此ノ家先祖ヨリ文筆ヲ面トシ儒道ヲ學ビ有職故實ヲ兼備スル家也名オヲ以テ家ヲ立ツル故ニ家ニ名記アリ
有職ノ口傳等ハ攝家ノ流ヲウクルト云云官ハ辨官ヲ經歷シ職事ヲ兼ヌル也官ノ事下卷ニ見ユ名家ノ中任棟
數代ノ家アリ又一代ノ家アリ或ハ准大臣ノ家モ有リナベテハ大納言以下ヲ先途トス中ニモ竹屋ハ參議以上
ノ例見エズ然レドモ名家ノ一列也云云

日野(藤氏)先祖參議眞夏卿ハ右府内麻呂公ノ男也

眞夏 濱雄 家宗 弘隆 繁時 輔道 有國

資業 實綱 有信 實光 資長 兼光 資實

家光 資宜 俊光 資名 時光 資康 重光卿

義資卿 勝光公唯稱院左大臣 政資卿 内光卿 晴光卿 輝資卿

資勝卿 光慶 弘資 息資茂

廣橋(同)元祖賴資卿ハ權中納言兼光卿ノ男ナリ

賴資 經光 兼仲 光業 兼綱 仲光 兼宣卿

兼卿卿 綱光卿 兼顯卿 守光卿 兼秀卿 國光卿 兼勝公内大臣

總光 兼賢 綏光 貞光

烏丸(同)始祖豐光卿ハ日野資康卿ノ男也

豐光卿 資任卿 冬光卿 光康卿 光宣卿 光廣卿 光賢

資慶卿 光雄

柳原(同)元始資明卿ハ日野俊光ノ男也

資明卿 忠光卿 資衡卿 行光卿 資綱卿 量光卿 資定卿

淳光 資淳 業光 資行 資廉以上四家氏族一統ナリ共ニ日野家ト云フ也

甘露寺(同)先祖良門朝臣ハ閑院左府冬嗣ノ七男也

良門 高藤 定方 朝輔 爲輔 宣孝 隆光

隆方 爲房 爲隆 光房 經房 定經 資經

爲經 經長 隆長卿 兼長卿 房長卿 親長卿 元長卿

伊長 經元 經遠 嗣長卿 方長

葉室(同)元祖顯隆卿甘露寺爲房卿ノ男也

顯隆 顯賴 光賴 宗賴 宗方 資賴 賴親

頼藤 長隆卿 長光卿 長宗卿 長忠卿 教忠卿 光忠卿
 頼繼卿 頼房卿 長教 頼宣卿 頼豐卿 頼隆卿 頼業
 頼孝

高里小路(同)元始資通卿ハ參議資經ノ男也

資通 資房 藤房 仲房 嗣房公内大臣 時房公内大臣 冬房

賢房 秀房 惟房公内大臣 輔房 充房 兼房 總房
 雅房 淳房

勸修寺(同)始祖經俊卿ハ萬里小路資經ノ兄ナリ

經俊 經定 經資 經顯 經重卿 經豐卿 經興

教秀卿 政顯卿 尹豐公内大臣 晴秀卿 晴豐 光豐 教豐

經廣 經慶

中ノ御門(同)元始勸修寺ニ同ジ經俊卿ヨリ今資熙ニ至リテ十六代第二經繼卿ヲ中ノ御門ト號ス

經俊 經繼 經宣 宣明 宣方卿 宣俊卿 宣輔卿

宣豐卿 宣胤卿 宣秀卿 宣忠 宣教朝臣 宣泰 宣隆

宣順 資熙 息宣基

以上甘露寺ヨリ當家ニ至リテ五家ヲ勸修寺家ト云フ也

清閑寺(同)元祖定房公ハ内府民部卿ナリ吉田權大納言經長卿ノ男也

定房公 資房卿 資定卿 家房卿 家俊卿 幸房卿 家幸朝臣

共房 共綱 保房 熙房 息熙定

小川坊城(同)元始俊實卿ハ權中納言定資卿ノ男也

俊實 俊冬卿 俊任卿 俊繼 俊國 俊秀卿 俊顯卿

俊名 俊房 俊直 俊完 俊廣

竹屋(同)元始兼俊朝臣ハ權大納言仲光ノ男也

兼俊朝臣 冬俊卿 治光朝臣 光繼卿 光長 光久

以上十二家畢

羽林名家之外

高倉 高辻 五條 坊城 唐橋 五辻 竹内
 富ノ小路 舟橋 土御門

右ノ中官位名家ニヒトシキ家モアリ又大納言ヲ先途トシ成ハ散二位散三位ヲ先途トスル家モアリ然レドモ
 中將少將辨官ヲ經歷セザル輩ハシバラク名家羽林ノ外ニシルシ侍ル也云云

高倉(同)元始長良卿ハ左大臣冬嗣公ノ男也當世秀任朝臣

長良 清經 元名 文範 清仲 範永 良綱

孝清 範孝 宗隆 實隆 範昌 永經 永賢

永忠 範賢 永秀卿 永行卿 永藤卿 永豐卿 永繼卿

永康卿 永家卿 永相卿 永孝卿 永慶 永將卿 永敦卿
季任

高辻(菅原氏)先祖宇庭朝臣天穗日命十四世ノ孫始メテ菅原ノ姓ヲ賜ヘリ

宇庭 古 人 清 公 是善北野ノ 高 視 雅 規 資 忠

孝標 定義 是 綱 宣 忠 長 守 爲 長 長 成

清長 長 宣 國 長 長 衡卿 長 鄉卿 繼 長卿 長 直卿

章長卿 長 雅卿 途 長卿 長 純 豐 長

五條(同氏)元祖高長卿ハ參議爲長ノ二男也

高 長 長 經 季 長 爲 視 爲 綱卿 爲 守朝臣 爲 清卿

爲賢卿 爲親朝臣 爲覺卿 爲良卿 爲適 爲庸卿 爲致

坊城(同)始祖茂長卿ハ參議長經卿ノ二男也

茂 長 長 綱卿 秀 長卿 長 遠卿 益 長卿 長 清卿 和 長卿

長淳卿 盛 長卿 長 維 知 長 顯 長 顯 長 長 胤卿

恒 長

唐橋(藤)元祖在兼卿ヨリ今ニ至テ七代

在 兼 在 綱 在 成 在 貞 在 宣 在 廣 在 庸

五辻(源)元祖時方朝臣ハ右大臣雅信ノ男也

時 方 仲 舒 仲 賴 仲 棟 仲 親 光 遠 仲 兼

遠 象 仲 定 時 基 仲 資 仲 朝 仲 朝臣 敦 仲

重 仲 政 仲朝臣 富 仲朝臣 諸 仲卿 元 仲 奉 仲 定 仲

英 仲

竹ノ内(同)元祖秀治朝臣正四位下

秀 治 季 治卿 長 治卿 孝 治 俊 治 惟 庸

宮小路(藤)傳未考當代永貞卿息貞俊

舟橋(清原)菅氏ハ天武帝ノ皇子舍人親王ノ子兩人元分流各清原ノ姓ヲ賜フト云云(已下ノ傳大系圖ニ見ユ)

良 業 賴 尙 良 季 良 枝 宗 尙 良 兼 宗 季

良 賢 賴 季 宗 業 良 宣 枝 賢 國 賢 季 賢

季 相 相 賢

土御門(安倍氏)傳未考當代泰福

以上十家畢

新家 右ニシルス本家ヨリ分レテ家ヲ立ツルヲ新家ト云フ也官ハ大中納言參議非參議等ニ至レル家アリ時

ニ從ヒ其人ニ依リテ昇進セラル、也傳ハ畧ス増續諸家傳ニシルシ侍ルモノ也

堀 川 藤 谷 藪 内 千 種 七 條 野 宮 樋 口

日 野 西 櫛 笥 東 園 花 園 裏 辻 裏 松 押 小 路

有職袖中鈔 四十五

勘解由ノ小路	桂	大宮	下冷泉	山本園池	伏原
岩倉	久世	東久世	愛宕	今城	武者小路
中園	芝山	風早	池尻	吉田	田向
町尻	滋岡	梅溪	龜谷	長谷	醍醐
外山	豊岡	植松	葛野	石井	竹淵
楊津	岡崎	高岡	葉川	堤	桑原
櫻井	佐々木	細野	清岡	猪隈	三室戸

以上新家次第不同畢

諸家家業之事

神祇伯 白川 代々此ノ官也神祇官ノ事ヲ主ルナリ神祇官ハ堀川ノ西大炊御門ノ北ニ有リ云云神祇式ニ曰祭神七百三十七座云云伯ハ此處ノ棟梁惣シテ天下ノ神事ヲツカサトルト云云○伯ノ字伯ト訓ズ職員令云神祇官伯一人掌テ神祇祭祠祝部神戶名籍ト云云上古ハ源平藤諸氏トモニ任ゼシヲ中古以來花山院ノ御子彈正ノ尹清仁親王ノ後胤相續シテ他人ハ不レ任也今ノ白川家は也○伯ニ任ズルトキハ源姓ヲステ、親王ノ王氏ニナル神祇伯ニナレバ何ノ王ト云フナリ父此ノ官ノトキハ其ノ子息源姓ヲ給ヒテ少將中將等ノ官ヲウク父伯ヲ退クトキハ子是ラツグ也○伯唐名大常伯三位二位ニ至リテ是ヲ帶スルナリ 大副 權ノ大副 少副 權ノ少副 祜史等ノ助官有職抄ニ委シ

和歌 二條 冷泉 飛鳥井 三條西

家業ニ云二條冷泉ハ五條ノ三位ワカレノ始ハ爲相爲氏飛鳥井ハ參議雅經三條ハ逍遙院ノ内府以來ノ事ト見エタリ當時ハ中ノ院大納言阿野大納言水無瀬中納言ナド多年歌家ヲハゲマシ侍ル也云云

文章博士 高辻 坊城 五條

同近代三家相ツマキテ任シ來ル也大内記ニ此ノ家譜代トナレリ以前ハ右ノ名家ノ中日野或ハ南家以下ノ諸氏ノ中ヨリ才智アル輩ヲ任ゼラル唐橋ナドモ近代儒業ヲ失ヒ侍リシ也文章博士ハ紀傳ノ儒トシテ史書ヲ學ビ諸ノ文章ノ事ヲ司ル又内記ハ詔勅宣命等ヲ書ク是ニ依リテ文筆相兼キタル人ヲ任ズル也是等近代管家ノ家業ト成リ侍ル也云云

明經 舟橋

同右代々明經博士ニ任ジテ本經ヲ家業トマナビ侍ル又中家モコレヲ家業トス然ルニ清原良枝七代ノ侍讀タリ七句ノ者老ト成リテ口ツカラ六經ノ說ヲ授ケ奉ル古今未曾有也云云(中家ハ中原也)

私曰侍讀トハ親王立太子ノ御時御モノヨミノ御事アリソレヲ授ケ奉ル役ヲ云フナリ明經道ノ家舟橋ツトムル時ハ孝經ヲ遊バサル、也初ノ一句ヅ、申シ上クルヲ親王アソバサル、也又正復ト云フ役モアリ委シクハ難レ記管家ヨリ侍讀ヲツトムルトキハ文選ヲアソバサル、トカヤ

能書 清水谷 持明院

同昔ヨリ能書ノトモガラアマタアレドモ權大納言行成以來譜代シテ家業トナリ侍レバ世尊寺ノ流也又近代清水谷モ相傳ス彼等斷絶ノ後持明院ハ權中納言基規以來口訣ヲ傳ヘオキ侍ルトミエタリ

神樂 綾小路 持明院 四辻 庭田 五辻 鷺尾 藪ノ内 滋野井

右綾小路ハ刑部卿政長堀川院ノ鄧曲御笛ノ師ニ參リテ代々御師ト成リテ鄧曲和琴等笛筆樂等ヲ相傳シ來リ侍ル三代ノ天子ノ師範ニテ鈴虫ノ中納言ト世ニ稱シ侍ルモ此ノ先祖也庭田モ此ノ餘胤ナリ猿ノ尾モ當時沙汰セズ藪ノ内滋野井譜代ノ儀ニアラズサレドモ當時稽古ヲハゲマシ參勤シ侍ル也云云

和琴 四辻 大炊御門

琵琶 伏見 西園寺 菊亭 園 綾小路

箏 四辻 綾小路 正親町 藪ノ内

笛 大炊御門 綾小路 德大寺 久我 三條轉法輪 甘露寺 橋本

笙 花山院 清水谷 松木 四條 山科

筆樂 綾小路

右代々ハケマシモテアソビ侍ルト見エタリ加様ノ儀定メテハシルシガタキ事ニ侍レド御神樂御遊等ノ記ニ代々見エ侍ルユエニホヽ記シ侍ル也西園寺今出川等ハ古來御師範ニ參ルヨシ見エタリ近代伏見マキラル、カ園モ又昔ヨリ譜代ノ家業ニテ侍ル大炊御門ハ兩道ノ御師範ニ參ルト見エタリ四辻ハ權大納言季經土御門ノ院ノ御師範ニ參リテヨリ殊更當道ヲ以テ家業ノヤウニナリ侍ル以上書キアラハシ侍ル中ニモ當時ハ稽古ノ沙汰シ侍ラザル輩モ侍ルニヤ云云

蹴鞠 飛鳥井 難波 冷泉 綾小路

右飛鳥井參議雅經難波ハ舍兄刑部卿宗長以來譜代ノ家業トナレリ冷泉綾小路ハ近代其ノ道斷絶此ノ外加茂ノ社司代々蹴鞠ノ時メシクハ侍ルト見エ侍ル也云云

裝束 三條 大炊御門 高倉 山科

右裝束ハ有職故實ノ一也依リテ三條大炊御門等先祖ヨリコトサテ是ヲ沙汰スルト見エ侍ル但シ三條ハ代々裝束色目等ノコトヲ沙汰シ大炊御門ハ代々御裝束著御ノ事ヲ相續スト見エタリ然ルニ兩家共ニ其ノ事斷絶シ侍ルヤ近代ハ高倉山科是ヲサタス高倉ハモト著御ノ事ヲ沙汰ス然ルニ關進ノ義モ相兼スト見エタリ山科ハ内藏頭ノ職ニツイテ關進ノ事ヲモトスト見エタリ云云

親王家

伏見殿 八條殿 有栖川殿

伏見殿 當代貞致親王

榮仁親王 九十八代崇光院ノ皇子

貞成親王

貞常親王 伏見殿

邦高親王

貞致親王

邦輔親王

邦房親王

貞清親王

貞致親王

八條殿 代員宮(御年十二)元祖後陽成院第四ノ御弟一品式部卿智仁親王(八條ノ宮ト號ス)豊臣關白秀吉公御養子トシテ家ヲタテ玉ハリ

智仁親王 智忠親王

長仁親王 新院ノ宮員ノ宮同宮

有栖川殿 當代幸仁親王(新院ノ宮御母新大納言清閑寺ノ女)往昔榮仁親王ヲ有栖川ト號ス其ノ後此ノ稱號中

絶ス好仁親王ヲ高松殿ト號ス

好仁親王 幸仁親王

位階唐名

- 正一位 文散位
- 從一位 開府
- 正二位 特進
- 從二位 光祿大夫
- 正三位 金紫光祿大夫
- 從三位 銀青光祿大夫
- 正四位上 正議大夫
- 正四位下 通議大夫
- 從四位上 太中大夫
- 從四位下 中大夫
- 正五位上 中散大夫
- 正五位下 朝議大夫
- 從五位上 朝請大夫
- 從五位下 朝散大夫
- 正六位上 朝議郎
- 正六位下 承議郎
- 從六位上 奉議郎

從六位下

通直郎

以下之唐名客之

諸官

正 ニゴリヲヨム也 正一位 今ハ神位ニ有リ人臣ニナシ神位ノトキハスンデヨム也

攝政 攝ハ説文曰摠也錄也廣韻曰兼也政ハ正也ト云ヘリ此ノ職天下ノ政道ヲ正シカテ摠ノ義也

關白 關ハ字ノ如ク關ノ儀也白ハモウス也天子ト諸臣ノアヒダニ關所ヲスエ置クノ義也諸臣天子ニ訴ヘアルトキハ關白是ヲウケアヅカリテ上ニ白スノ儀也關白トヨメリ關白ハ職ト云フモノ也官ニハアラズ太政大臣關白左大臣關白アル也然ルニ左大臣關白ナルトキハ官職共ニ高キ也其ノトキハ今マデツカサドラレシ左大臣ノ職ヲ右大臣司ラル、也此ノ時ハ右大臣モイツカトキハ有ル也左大臣ノ職ヲ右大臣必ツカサドルノ儀ニハアラザレドモ關白ハ政事シゲキ故ニ右大臣ヘユヅラル、ノ儀也後宇多院御宇左大臣一條家經攝政トシテ左大臣ヲ辭ス其ノ時二條師忠左大臣ニ轉セラレタリ如此ノ例也關白ハ五十七代陽成院元慶年中基經公ヲ任ジ玉フ是始也

太政大臣 三公ノウチニシテ上也左大臣關白ノ時ハ太政大臣關白ノ座ノ下ニツキ玉フ也然レドモ攝政關白ハ多クハ兼官ナリ三十九代天智帝ノ御宇始メテ此ノ官ヲ置カル、也大友皇子任ジ玉フ也一人ト云フ心ハ一人ニシテ二人ナキノ儀也(相當正從一位)唐名 太師相國

左大臣 衆務ヲスベヲサムルツカサ諸事ヲ判斷シ宮中ノ事ニオイテハ悉ク左大臣ツカサトラル、故ニ一ノ上ト云フ也宮中トハ太政官ヲ云フ政ヲナス所也今ノ會所ノ如シ大炊御門壬生宮城内都芳門大路ノ北美福門ノ西ニ

アリシヨシ拾芥抄ニ見エタリ大臣公卿以下政務ヲ成敗スルノ人ハミナ太政官ノ被官ナリ是ノ故ニ會シテ朝家ノ政ヲ行フ所也左右ノ大臣ハ三十七代孝德天皇大化元年六月十四日天皇即位其ノ時阿部倉橋ヲ左大臣トナシ蘇我山田石川麻呂ヲ右大臣トナシ玉ヘリ是ニ始マル(相當正從二位)唐名 大傅 左丞相 左僕射 右大臣 ッカサトル所左府ニ同ジ相當モ同ジ唐名 大保右丞相右僕射

内大臣 唐名 内府 内相府 孝德帝ノ時鎌足ヨリ始マレリ始ハ内臣ト云ヒシヲ天智帝ノ時大ノ字ヲ加ヘテ藤原ノ朝臣ノ姓ヲ玉フ是藤氏ノ元祖ナリモトハ中臣ノ姓也天兒屋根命ノ裔也入鹿ノ臣ヲウタレシ功莫大ナル故ニ内大臣トシテ左右ノ大臣百官ノ上座ニ居シテ政ヲ主サトラレシ也職掌ハ大略左右ノ大臣ニ同ジキナリ天智帝ヨリ光仁帝ノ御時ニ至リテ十代ノ間内大臣ナキ也太政大臣アル故也太政大臣有ルトキハ此ノ官ナキ也又是ヲ令外ノ官ト云フ也イフ心ハ官位令職員令ニ此ノ官ナキ故也源氏物語ニ員ノ外ノ大臣ト云ヘルハ是ノ心ナリ官位令職員令トハ百官諸職ノ法禮ヲ記シタル書也文武帝ノ大寶元年ニ勅有リテ刑部親王正三位藤原不比等從四位下野古麻呂從五位下伊吉連博德伊余部連馬養コノ五人ノ撰 律六卷令十一卷合二十八篇令第一ニ官位令ヲノセ第二ニ職員令ヲノスル也其ノ後又元正帝ノ養老二年ニ不比等律十二篇令三十篇ヲ撰セラル、也其ノ時始メテ内臣ヲ定メラルイマダ内大臣ハナカリシ也

内辨 是ハ大臣節會行ハル、役名也往昔大極殿ノ南門ヲ閣門ト云ヒシトカヤ其ノ内ニテ行ハル、ヲ内辨ト云フ也今ハ此ノ殿ナキニ依リテ月花門ノ内紫宸殿ノ前ニテ行ハル又門外ニモ行フアリコレヲ外辨ト云フ也 准大臣 太政大臣ニ上ル可キ人暫クサ、ヘ有ルヲ是ニ任ゼラル、也後ニ太政大臣ニ任ズベキ人ナル故ニ其ノ官ノオソキヲ宥メナグサメテ先大臣ニ准ヘオキ政務ヲ預ケラル、ノ由也正官ニハアラズ員數モ不定官位令ニ

モノセズ昔ハナシ刑部親王ニ始マル親王ハ文武帝ノ皇子或説ニ叔父也云云亦一條院ヨリ後宇多マデ廿四代此ノ官絶エト云云

非參議 大臣己下參議己上ノ其ノ官ヲ辭シタルヲ云フ又説ニ參議己上ノ前官ナルヲ云フト

大納言 言ヲ納ルノ心也下ノ言ヲ上ニ入レ上ノ言ヲ下ニ宜ル也天子ヘ奏聞申スノ義也右大臣以上ト諸事ノ政ヲマシハリハカリ宜旨ヲ敷奏スルコトヲツカサトル口舌ノ官ト云フ也納言ハ官名也ノウゴントモ云フ職員令ニハ四人也後醍醐帝ノ御宇ヨリ六人ニ定メラル其ノ中權大納言二人アリ此ノ官ハ人臣ノ重職ト云フ也大臣ニ上ルベキノ人ハ是ニ任ズル也但シ大納言極官ノ家ナレバス、ム事ナシ

唐名 亞相 亞槐 相當正從三位

中納言 職ツカサトル所大略大納言ニ同ジ中古ハ員四五人ナレドモ今ハ十人ナリ是ヲ令外官ト云フ官位令ニノセズ元正帝ノ養老年中又官位ヲ定ムル時ハ此ノ官ヲノセテリ權官ハ古來ヨリ有リ權中納言ノトキハ中ノ字ヲニゴリテ讀ム也四十一代持統帝ノ御宇此ノ官始マル凡ソ中納言己上ハ職高クシテ諸官ノ上ニアレバ人ヲエラブベキ官ナリ 唐名 納言 龍作 黃門 相當從三位

參議 員八人古來ヨリ不易也參議ト云フハ大臣ノ列座ニ參ジテ政ヲトリ行フ心也 參議ノ義也文武帝大寶二年五月九日ニ始マル四位己上ノ才智有ル人ヲ任セラル陣ノ座ニ於テ書物ヲヨミ又ハ右筆也故ニ文才ナクテハ不レ叶八人列座スル故ニ八座ノ臣トモ云フ也左大辨右大辨中將頭中將是ニ任ズル也天下ノ政ヲ計リ三公ヲタスケテ凡ソ禁中ノ義ニ於テハ參リナス故ニ規模ノ官也職原抄ニ正官ニアラズト云フハ自ラトリ可ル職ナクシテ參リテナス故ニカク云フ也 唐名 諫議大夫 相公 相當正四位下

准三宮 大臣官位至極シテ是ヲ賜フ也准宮大臣 准后大臣ト云フ也入道ノ後ニモコレヲ賜フ也三宮トハ太皇太后宮 皇太后宮 皇后宮此ノ三宮也是ヘ參ラセラル、年給ニタガハズ賜フノ儀也准ハナゾラヘル也
 少納言 三人詔勅宣下ノ事ヲ主ル天子ノ仰セテ下ヘウツタヘ通ズル也多クハ名家儒家ノ人任ズル也花族モ任ズル也玉躰ニ近侍スル也是ニハ權官ハナシ三人ノ外アルトキハ新少納言ト云フマタ兼國ノ任アレバ紀伊ノ權守ヲカスル也 唐名 給事中 相當從五位下
 弘仁天皇ノ時藏人所ヲ置キ玉ヒテ此ノ職藏人ニウツサレシヨリ少納言ハ天子ノ御印判ヲアヅカル也近衛中將ヲカスル也

外記 諸事ヲ記ス事ヲ主リ恒例ノ公事臨時ノ叙位除目等ノ事ヲ奉行ス又宣旨ヲ書ク役也先例ヲ考フル役ナレバ昔ヨリ定マリタル其ノ家ニアラズシテ是ニ任ズル事ナシ古今ノ文書ヲヲサメ天下ノ明鏡タル職也位階ハ五位ニ叙スル也大外記 少外記アリ大三人或ハ四人少三人ナリ 唐名 外史 門下錄事

辨 七人アリ 左中辨 右中辨 左大辨 右大辨 左少辨 右少辨 六人外ニ中少二權官アリ七人ハ天ノ七星ニカタトル也重キ職也文才ナクテハ不レ叶中ニモ大辨ハ太政官中ノ儀ヲ奉行シ事アルヲ皆辨ガ奏スル也玉躰ニ近習スル官也唯舌ノ官ト云フ也名家ノトモガラモ器量ヲエラバレテ任ゼラル、也當官ヨリ宰相參議トナル也又花族ノ中ニ才名有ル人參議ノトキニ是ヲカスレバ大ニ規模也左右大辨二人アリ位ハ從四位上唐名尙書此ノ名太政官ノ名也辨ハ太政官ノ奉行ナル故ニ此ノ名ヲ用フ 左中辨右中辨二人アリ位從正五位上唐名尙書左少辨右少辨二人位正五位下唐名同ジ是ハ名家ノ人先五位ノ藏人ニ補シテ後是ニ任ズル也其ノマ、藏人ヲ帶シテ任ズルハエラマレテ任ズル故ニ規模也五位ノ藏人ハ玉躰近習ノ役也此ノ故ニ先藏人ニ任ジテ辨官ニウツ

リ太政官ニツク也藏人ニ補ストイヘドモ文才ナキハ辨ニ任ゼザル也又近衛司ノ中將少將ノ中ニ文才アル人大辨ニ任ジ又ハ是ヲカスルモ摸規也ソノ故ハ文官ニシテ武官ヲ兼スル故也中多クハ四位也少多クハ五位也

史 八人アリ太政官ノ執筆職也左大史二人右大史二人是相當正六位上名唐尙書又左右大都事四十代天武帝ノ御時小槻高基同弘房等是ニ任ジテヨリ小槻氏ノ任也尤器量ヲエラフ也其ノ中ヲ撰ビ一史トシテ太政官ニシテソノコトヲ行ハシムル也一史ハ史ノ頭也官務トモ云フ也相當正六位上ナレトモ多クハ五位也左少史二人右少史二人共ニ八人也八史ト云フ也唐名尙主事相當七位上近代ハ六位也其ハ小槻氏ノ弟子一族ノ中ヲエラビテ任ズル也

史生 二十人左史十人右史十人也右官中ノ末々ノ事マデヲ書キ記ス役也又文使ノ役ヲ兼スル也唐名行署此ノ職ハ大臣以下納言參議已上判斷シテ司ラシム是ヲ判授ノ職ト云フ惣シテ位官職ヲ任ズルニ直授奏授位判位判授ノ五ツアルナリ此ノ職ヨリ多ク少史ニ轉ズル例也但小槻氏ハ不レ任弟子等ノ任也小槻ハ左右ノ大史ヲ極官トスル故也

官掌 四人辻固太政官ノ警固役也相當九位唐名掌國是モ判授ノ官也史生官掌ハ八省ノ 屬ニハタガヒ職高ケレハ他ニ異ナル也

八省 省ハ曰ニ其官舎也省トヨメバ非義ヲ正スノ儀也八省ハ中務省式部省民部省治部省兵部省刑部省大藏省宮内省也八省院トモ云フ此處卿ヲ初メ下官○補○丞○錄等參會シテ公事ヲ行フ處也

中務省 大内ノ時春日坊城ニアリ○此ノ省八省ノ一也省ハ官司ノ心也政務ヲ司トレバ詔勅宣命位記等ノヲサマル所也三宮命婦官ノ事ニ至ル迄皆司トル也中務一人アリ親王任ジ玉フ也五十六代清和帝ノ貞觀年中

ヨリコノカタノ例也唐名中書省又鳳閣○卿ノ唐名中書令中務ノ太輔一人權大夫一人唐名中書大卿又中書監是ハ名家ノ殿上人任ズ名家并殿上人ノ事ハ前ニミユ 少輔一人權少輔一人唐名中書少卿又中書侍郎是ハ名家ニハアナカチノゾマザル也其ノ故ハ名家殿上人ハ辨官ニ任ズル也此ノ輔ハ辨官ノ下官ナル故也惣ジテ八省ニハ卿大夫權少輔權大少丞大少錄アリ是ハ下官也又諸寮ノ下ニ頭助允屬アリ

諸職ノ下ニ大夫權亮進大小屬諸衛ノ下ニ首佑令史諸國ノ下ニ守介掾目アリソレノ文字ノカハリアリ是ヲ四分トモ云フ也皆其ノ官ノ下ツカサ也司トル役儀多キハ下ツカサノ人數モ多キ也役メスクナキハ三分アリカミハ長官トテ其ノ官ノカシラ也スケハ次官トテカミノ役ニカハル者也ゼウハ判官トテカミスケヨリ下知ヲ得テ勤ムル役也又主典ト云フハ其ノ官ノ筆トリナリ無官ニシテ百官ヲツクトキハ監物或ハ圖書ナド、云ヒテ頭トモ亮トモカ、サル也

侍從 八人アリ天子ノ御前ニ侍ヘリ從フノ義也職員令云掌常侍規諫拾遺補闕焉云々八人ノ内三人ハ少納言ノ兼任ナリ又大中納言參議已上モ任ズル也其餘ハ公達コレニ任ズル也中務ニツグトイヘトモ獨立ノ官也唐名拾遺補闕相當從五位下也

内舍人 從六位ノ上也太刀ヲ帶スル官也禁中ヲ守護シ御幸ノ時前後ニ供奉スル也然ルベキ侍是ニ任ズル也サレドモ多クハ殿上ノ童ノ官ナリ昔ハ武勇ヲナラハセラレシナリ凡元服セズシテ殿上ノ札ニツクモノ皆内舍人也公卿ノ息奉公ノ初是ニ任ズ其ノ器量ニ從ヒテ至ニ納言也唐名通事舍人大寶元年六月一日始メテ内舍人九十人太政官ノ列見ニオギナウヨシ見ニ國史一

内記 左兵衛ノ陣ノ南ニアリ是此ノ官ノ集會スル處也外記ハ天下ノ事ヲシルシツケ内記ハ禁中ノ諸事天子ノ御上マデヲシルス也漢朝ノ法トシテ天子ノ動靜ヲシルス言左史書之動右史書之此儀也唐名内史局

大内記一人五位唐名柱下起居郎詔勅宣命ヲ書ク也故ニ儒家ノ中文筆ニ達シタル人はニ任ズル也昔菅家モ是ニ任シ玉ヒテ是ヨリ位階ヲス、ミ玉フ儒トハ菅家江家清原中原等ナリ上殿上人ヨリ下地下ニ至ルマデ諸人ノ位階ニ從ヒテソレノ座ヲ配分スル事有リ是レ内記ノ奉行スル所ナリ中務ニ附屬ノ官ナレドモ職大ナル故ニ別ニ内記局ト云フ也其規模ノ義ナリ○少内記一人六位唐名著作郎○是ニ儒家ノ後胤同門徒ノ中ヨリ任ズル也或說ニ近代ハ大略地下六位ノ任也

監物 或說ニ當官ハ給印使符飛驒ノ文筆ヲ司ル也官給ハ太政官八省ノ所々ノカギヲアツカリ出シ入レヲスル也給ハ自天子ニ諸國へ勅使アルトキサキフリ行ク給也印ハ判也符ハ諸物ニツクル符也飛驒ハ旅屋也勅使ノ泊リ處也文筆ハ執筆也○大監物二人中監物四人少監物四人アリ相當大ハ從六位下少ハ正七位下也近代ハ地下ノ五位以上ノ人任ズル也官位分ニ大監物ハ從五位下中ハ從六位上少ハ正六位下也○主典下司ナリ 賄日記目錄ヲツクル役ナリ相當從七位上也典給 同右凡諸司藏庫ノ給ノ主也毎日監物トモニ朝夕ノ出シ入レヲナス也相當從八位上唐名門僕

四宮職 ○太皇太后宮職(天子ノ御祖母ノ事ヲツカサトルナリ)○皇太后宮職(天子ノ御母ノ事ヲツカサトル)○皇后宮職(天子ノ御妻ノ事ヲ司ル)○中宮職(同中宮ノ事ヲツカサトル)此ノ職光仁帝ノ御宇ニ始マレリ中ニモ中宮職ハ人ヲエラミテ任ゼラル大夫一人相當從四位下唐名長秋監清花ノ人納言ノ兼官也多クハ權中納言也其ノ后宮ニ親シキ人任ズル也○權大夫一人上ノ如ク納言參議及三位以上ノ兼官也唐名ナシ官位令ニナキナリ大夫ノ役義多キ故ニ後世ニ權官ヲマシタルトカヤ○亮四位殿上人或ハ公達モ又時ニ依リテ任ズル也相當從五位

下唐名内常侍○權亮是モ官位令ニハナシ花族ノ四位五位ノ中少將等ノ兼官也○大進一人相當從六位下唐名内給事名家ノ五位ノ任也○少進近代ハ地下ノ五位等任ズル也權ハ官位令ニナシ相當從七位下唐名同諸大夫ノ五位六位ノ任也ヤシハシ屬中宮職ノ下官右筆也相當大ハ正八位下少ハ從八位上唐名内侍主事

大舍人寮 左右ノ大舍人寮アリ禁中宿直ノ事同警固ノ官節會ノ時諸官ヲ召シ呼ブ事ヲ司ル唐名宮闈局○頭一人凡大舍人昔ハ八百人有リトカヤ頭助允屬共ニ八百人ノ諸事ヲ司リ組頭ノゴトキ者也權官ナシ相當從五位上唐名宮闈令○諸大夫ノ五位任ズル也助允屬ハ次第ニ位ヒクシ是ヲ略ス○是ヨリ下諸官助允屬ノ事イヅレモ略ス委シクハ見ニ職原鈔

圖書寮 御經佛像萬ノ圖○紙○筆○墨等ヲ司ル也其ノ故ニ宿紙モ此ノ寮ヨリ出ダス也宿紙ハ俗ニ云フウズズミノ繪紙ト云フソノ紙也唐名秘書省頭一人書物筆墨紙等ノ奉行也唐名秘書監相當從五位上諸大夫ノ五位及諸道ノトモガラ任ズ諸道トハ醫陰陽兩道ノ儒其ノ外諸藝ヲ以テ昇進スルモノヲ云フ日野家南家式家菅家江家等ハ儒門也清原中原ハ明經道也坂上ハ明法也三善ハ算道也和氣丹家ハ醫道也加茂安倍ハ陰陽道也是ヲ諸道ト云フ也助允屬アリ略之

内藏寮 帝ノ御藏也堀川ノ西近衛ノ南修理職ノ東ニ在リト云々金銀珠玉錦繡綾羅ヲ司リ納ムル也御服等モ此ヨリ他寮ニ渡シ染ムベキハソメ縫フベキハヌハシムル也唐名倉部頭一人相當從五位上唐名倉部郎四位五位殿上人其ノ人ヲエラビテ任ゼラル是ヨリハ二位ニ昇進スル也金銀珠玉ヲ主ル故ニ重キ職也權頭一人諸寮權頭アル中ニコレハ規模ナリ平生ノ權ハ入テイラヌコトアルニ是ハ大分ノ御倉ノ事ヲ主ル故也又左權頭モヨシ禁中造作ノ事ヲ主ルナリ代々人ヲ選ブナリ又左馬權頭モヨシ武官ノ故ニ其ノ人ヲエラブナリ多田滿仲源義朝モコレ

ニ任ゼラレシナリ右三寮ノ權ノ頭規模也○助權ノ助アリ相當正六位下唐名倉部員外郎頭權頭ノ外ナルユエニ員外郎ト云フ醫師陰陽家ノ者任ズル也賀茂ノ祭ノ時内藏使ト云フ事有リ是ヲツトムル也此ノ外近衛使山城使ト云ヒテ賀茂ヘタツ事アリ己上ヲ三使ト云フ近衛使ハ勅使也御ヤシロヘ行キテ宣命ヲヨム也山城使ハ山城ノ國司ノ使ト云フコ、ロ也賀茂ハ當國ノ地主ナルニ依リテ國司參向スル代也内藏使ハ幣帛ヲサ、グル役也此ノ外ニモ東宮使中宮使ト云フ事アリ何事ニモ御祈ニハ東宮中宮ヨリモ使ヒ立ツ事アリ祭四月酉ノ日ナリ三十代欽明天皇ノ時ニ始マレリ

縫殿寮 衣服ヲタチヌフ事ヲ主ル唐名尙衣局頭一人禁中女官女房等ノ名帳ヲ考ヘ衣服ヲタチヌフツカサ也唐名尙衣奉御相當從五位上諸大夫ノ五位ノ任也權官ナシ助允屬大少有リ略ス

陰陽寮 唐名司天臺天文ヲ知リテ諸事ヲ考ヘ曆ヲ作り風雲ノ氣ヲ窺ヒテ天地ノ變異ヲ奏聞スル事ヲ司ル是ヲ密奏ト云フ唐ノ大史ノ職也大史密奏ノ事史記楚ノ世家ニ出ダタリ唐土ニハ家根ノナキ高樓ヲ造リテ司天ノトモガラヲ上セテ天ノ氣ヲ窺ハシムル也本朝ノ陰陽寮ニモ天文ヲ考フル故ニ此ノ唐名ヲツケタル也天文ハ星風雨雲ノ氣ヲウカヒ善惡ヲ知ル也曆ヲツクルハ時ヲ知ラシムルナリ曆數ト云フ也然レバ天文曆ハ二道ニワタレリ昔ハ賀茂ノ一家シテ此ノ兩道ヲ兼ケケルヲ賀茂ノ保憲曆數ヲ光榮ニ傳ヘ天文ヲ晴明ニ傳ヘシヨリ安倍ノ家分レテ兩家トナル頭一人唐名司天監又大史監相當從五位下天文曆數風雲ヲカンガヘ變異有ル時ハ奏聞スル事ヲ主ル也又日蝕月蝕ノトキハ八日前ニ中務マデウツタフルナリ權ナシ助權允屬略ス

陰陽博士 陰陽頭ノ下司也此ノ道ノ諸生ニ其ノ法ヲ教フルモノ也相當正七位下然レトモ同道ノウチ五位以上ノモノ是ニ任ズ唐名大卜正陰陽師職員令ニ陰陽博士六人ト有リ占ヒ考フル事ヲ司トル相當從七位上唐名大卜

師天子ノトヲ掌ルヲ云フ世上ノ陰陽師ハコノ唐名ナシ

曆博士 曆ヲツクル也又造曆ノ者トモニ其ノ法ヲ教フル事ヲツカサトル曆道ノ者是ニ任ズ曆道ハ賀茂家也其ノ中器量ヲエラフ也曆ハ推古帝十二年甲子正月戊午ニ始マル唐名司曆五位以上ノ任也權相當從七位上

天文博士唐名司天文ノ氣色ヲウカハヒ異アルトキハヒソカニ是ヲ奏スル也司天第一ノ人はニ任ズ密奏宣旨ト云フ事ヲ考フル也又天文道ノトモガラニモ其ノ法ヲ教フル也五位以上ノ任也相當正七位下

漏刻博士是ハトキヲ知ル事也壺ニ水ヲ入レ中ニ箭ヲ入ル、ナリツボノカタハラニチヒサキ穴有リソレヨリ水ノモリユクニ從ヒテ彼ノ矢ニ百ノキダ有リテ其ノ段ノアラハル、ニテ晝夜百刻ノウツルヲ知ル也是ヲ漏刻ト云フ是ヲ司トル也唐名司辰又掣壺郎又司辰司刻權相當從七位下也五位六位共ニ任ズル也

内匠寮 作事ヲ主トルサレドモ近代ハ空修理ガ主トル也サレバ此ノ内匠ハ有リテナキガ如キ官也又ハ天子御即位或ハ元日ニ紫宸殿ニ高御座ヲカザル役也トカヤ令外ノ官也唐名少府 頭一人權ナシ唐名少府監近世ハ作事ノ奉行セザル故地下ノ諸大夫諸道ノ五位ノ任也助權允屬畧之

己上中務省ノ被官也中務ノ内ニツキタル官也此ノ官人等公事ヲナス事アレバ中務省ニウツタフルナリソレヲ中務ヨリ太政官ヘウツタヘテ夫ヨリ帝ヘ奏スルナリ

式部省 此ノ省朱雀門ノ掖ニ有リ式ハ法也式法ノ心也文官ノ司也内典外典ノ文官ノ徒ミナ此ノ省ニシテ試ミラル諸史百家ノ書諸經等ニ至ルマデ主トル也式ハ法ナレバ諸事ノ法度ヲ主トル也 卿一人司名吏部尙書内外ノ文官ノ名帳選叙禮義公卿諸官ノ位記等ヲ掌トル親王ノ中ニモ文才ノ御方又ハ宿老ノ人はニ任ゼラル諸國ニオカル、史生等ヲモ此ノ卿エラビスエ院東宮大臣以下參議己上ノ年給ニ至ル迄取り行フチアルニ依リテ是ヨリ

下ノ六省ノ卿ニハ勝レテイミジキ也昔ハ一品ノ親王任ゼラレシ也中古ヨリ四品以上ノ親王ノ任トナレリ○大輔唐名吏部大卿帝御物讀ノ御師範トナル也儒家ノ中ニ多才ノ人任ズル也儒家ノ二位三位ノ人はヲ帶ス權一人相當正五位下○少輔一人權一人相當從五位下唐名吏部郎中儒家ノ重職ナリ他人ハ任ゼズ○丞大少各二人ヅ

、アリ大ハ正六位下也七省ノ丞皆同シ唐名吏部郎中少丞ハ從六位上也此ノ省ノ丞ト民部省ノ丞ハ中ニモ規模也多年奉公ノ功有リテ昇進スベキハ此ノ二省ノ丞ニ任ズ大丞二人ノウチ一人闕クルトキハ少丞是ニ任ズル事此ノ例也モシ久シク大丞闕ナク少丞ノツトメ久シキトキハ大丞ノ宿老ヲトリテ式部ノ權少輔ニ轉ジテ少丞ヲ大丞ニナス也丞ハマツリゴトビト、ヨミテ其ノ下官ニテハイヅレノモ規模アリ此ノ式部省ハ文學ノツカサ

民部省ハ諸國ノツカサナル故ニツカサトリ多ケレバ餘ニスグレタル也錄大少アリ略之

大學寮 二條ノ南朱雀ノ大路ノ東神泉苑ノ西ニ有リシト也此處儒道名譽ノ人任ズル也、ニ先聖ノ影ヲ安置ス此ノ故ニ廟堂ト云フ也諸國ノ學生爰ニ來リテ晝夜學問ス食物油薪等ニ至ルマデ天子ヨリ賜ヒケル也博學多才ノ人此ノ寮ヨリ出デケルトカヤ唐名國子監頭一人無權官相當從五位上唐名國子祭主先聖ヲ祭ルトカヤ茅ヲ

敷キテ酒ヲツ、グ事アリ是頭ノ祭所ナレバ此ノ唐名アリ助(權)允(大少)屬(大少)アリ略之

文章博士二人博士ハヒロキモノシリト云フ心也史記漢書以下歷代ノ書詩文ヲ讀ミヨロツ文章ノコトヲ掌ル紀傳道ノ儒者ヲエラビテ任ゼラル、也紀傳道ハ日野南家菅江家等ヲ云フ細註ハ追而可レ記唐名翰林主人翰林學士

參議中納言皆是ヲ兼任スルナリ

博士二人 明經博士也只博士トバカリ書クハ子細有ル事也職明經道ヲ教ヘ并ニ學ノ器量ヲ試ミルノ司也或

說ニ此ノ博士天子ノ侍讀ニ參ル也故ニ二人ガ中一人ヲ大學博士ト云フ也十三經ヲヨム職也清原中原其ノ家也

有職袖中鈔

六十一

相當正六位下近代五位也唐名大學博士○明經道ハ五經ヲ天子ノ御前ニシテ講誦スル家也右ノ兩家中古ヨリツ
 トムル也相當正六位ナレドモ五位ニ叙スル事ハ天子ニ近侍スル故也故ニ世人貴ミ稱シテ大博士ト云フ兩家ノ
 極官也助教二人明經博士ノ助ノ役也ガカハリテ諸生ニ物ヲヲシフル也モトヨリ文才ヲエラミテ任ズル也明
 經道ノトモガラ六位已上也唐名國子助教○直講二人是又博士助教ノスケヲシテ書籍ヲ講讀スル役也唐名直學
 士相當正七位下音博士二人吳音漢音ヲ正シ諸書ノ音訓ヲ教フル人也明經道ノ末流ノ儒者任ズル也五位以上ノ
 官也又近代地下ノ六位外記等モ任ズル也唐名音儒○是ニ任ゼラル、トキハ大學寮ニテ試ミラル、也令ニ曰大
 學生十六已下欲就明學先讀毛詩音欲就史學者先令讀爾雅文選音ニ云云○書博士二人能書任ズルナ
 リ手跡ヲ教フル官也相當從七位上書儒ト云フ是也唐名ニハアラズ近代清原中原外記等任ズル也○明法博士二
 人律令格式ヲ讀ミ教フルノ職也又萬ノ法禮ヲナスニモ罪科ヲ行フニモ律令等ヲ考ヘテ其ノサシヅヲスルコトヲ
 掌トル律令格式ハ日本ノ法式ヲ書キタル書ナリ明法道家ノ極官也相當正七位下唐名律博士○算博士二人天文
 曆數ヲ初メ平生ノ算勘トモニ算ト云フ也此ノ職曆ヲ作り又ハ諸國ヨリ天子ヘ捧クル御調モノ、勘定等ヲスル
 事ヲ司ル大衍曆宣明曆等ノ曆書ヲ知ル事也相當從七位上唐名算學博士
 已上式部省ノ被官也

治部省 此ノ省ハ宮城ノ内神祇官ノ南ニ有リシトカヤ大少輔ニ至ルマデ文才ナクテ不レ叶異國人來タルトキハ
 馳走スルコトヲ司トル官位令ヲ考フルニ喪事又ハ香典ヲ下サル、事代々天子ノ御忌日ヲ知ル事諸家ノ系圖ヲ知
 ル事不思議ナル鳥獸星ナド出ヅル時吉凶ヲ考フル事ヲ司トル凡ソ朝家ノ御大事ヲ奉行スル所也職原鈔ニ曰嘗
 時此ノ省ノ掌ル所雅樂ノ事僧尼度祿廟陵等ノ事也ト云云雅ト云フハ神樂ノ事樂ト云フハ音樂ノ事ナリ度祿ト

ハ手判符ノ心也或説ニ古ヘハ出家ハ必ズ治部省ノ藤印ヲ取リテ髮ヲ剃ル也新發意ノ始メテ髮ヲソルヲ得度ト
 云フ是也度ヲ治部省ヨリ得タルノ儀也僧尼ノ數何ホド、イフ事ヲ知ランタメ也廟陵ハ古ヘヨリノ天子ノ陵
 并ニ親王皇后ノ墓等也是ヲ知ル也毎年十二月諸ノ陵墓ヘ勅使事有ル是治部省ノツカサトリ也

卿一人掌トル處前ノ如シ諸家ノ系圖縁邊ノ事諸蕃朝禮ノ事迄此ノ卿ノツカサトリ也唐名禮部尙書殿上ノ四位
 以上多クハ公卿ノ兼官也昔ハコトニ然ルベキ公卿ノ納言ノ後ニ任ズル也規模也名家ハ任ゼス大臣治部卿ヲ兼
 官アルヲ建武元年十二月應司右大臣冬教公也同二年二月ニ左大臣ニ轉ズトイヘドモ治部卿ハ如元是大臣兼
 官ノ一證也大輔一人相當正五位下唐名禮部侍郎權一人右ニ同シ職員令ニ權ナシ○少輔一人相當從五位下唐名
 同シ權一人例右ノ如シ名家ノ五位是ニ任ズル也亦清花中ノ院閑院等ノ子任ズル也○丞大少錄大少有畧之

雅樂寮 歌舞ヲツカサトル男女ノ樂人ノ音聲ヲエラミ此ノ寮ニテ稽古スル也日本樂人ノ始ハ三十代欽明帝ノ御
 時百濟國ヨリ樂人來タル也日本ノ人習フ事ハ三十四代推古帝ノ御時百濟人味麻之ト云フモノ吳國ノ樂ヲ學ビ
 來リテ少年ニ伎樂ヲ教ヘシ也是始也唐名大學

頭一人男女樂人ノ舞ノ善惡ヲ正シ音聲ヲ撰ビテ名帳ヲツクル事有ル是ヲ司トル此ノ故ニ其ノ道ヲ知リ音律ノ
 功者ヲ撰ミテ是ニ任ズル也五位諸大夫ノ任也唐名大學令 助一人權同相當正六位下唐名大學郎權同允大少屬
 大少畧之

玄蕃寮 此ノ寮ハ異國ヨリ來タル客ヲモテナス處也法師客人ノ司ト和訓シタルニ様々ノ儀有リ玄ハ僧ト云
 フ儀僧ハ黑衣ヲキル故ニクロシトヨミテ玄ノ字ヲ書ク也又ハ玄ハ達スルノ心也人來リテ案内ヲ云ヒ入ル、其
 處ヲ玄關トイフモ達スルノ心有ル故也又玄ハトホシト云フ心モアリ蕃ハ胡ト云フ義也胡國ノ心唐土ノ義也所

證僧尼ニハカギラズ異朝ノ客ヲモテナス所也唐名鴻臚寺此ノ唐名ニモ説々アリ先寺ト云フ心ハ寺ハ局也官人等ノ集會スル所ノ義也一説ニ鴻ハ大キナル心臚ハ陣ト云フ心也異朝ノ人ニ對スル故様々大ナル作法ト云フ心也陣ハヤトリノ義也大禮ヲ以テ賓客ヲヤトシオクノ心也又説ニ鴻ハ鳥臚ト云フハ鴻ノ鳴クトキノ聲ノイヅル處ガ腹ノ上ニフクレアガリテ有ル是ヲ臚ト云フ也唐名トスル事ハ他國ノ通事ヲナス故也互ノ聲ヲ傳フル事ハ鴻ノ臚ヨリ聲ノ通ジ出ヅルガ如シトタトヘテツケタル名也サテ此ノ鴻臚寺ハ唐土ノ寺ノ始也後漢ノ明帝ノ時天竺ヨリ麻騰竺法蘭ト云二人ノ僧白馬ニ經佛像等ヲオホセテ震旦ニ來リシヲ此ノ鴻臚寺ニオキ玉ヒシガ其ノ後此處ヲ僧ニ下サレケレバ改メテ白馬寺ト名付ケシ也日本ノ鴻臚館ハ桓武帝ノ御時都ヲ山城ニ遷シ玉ヒシトキ大宮通ノ東西ニ鴻臚寺ヲ置キ玉ヒシ也其ノ後嵯峨天皇弘仁年中ニ東鴻臚ヲバ東寺ト名付ツテ弘法ニ賜ヒ西ヲバ修敏ニ下サレテ西寺トナセリ今ハ東寺ノミアリ又其ノ七條朱雀ニ鴻臚館ヲ置キ玉ヒテ異國人ヲモテナシ玉ヘリ

頭一人佛寺僧尼ノ名帳異國人モテナシオクリムカヘノ等掌トル也權官ナシ相當從五位上唐名鴻臚卿多クハ地下諸大夫醫陰ノ兩道曆范ノトモガラ是ニ任ズル也○助權一人允大少屬大少アリ略之

諸陵寮 天子ノ御喪葬禮ノ事代々天子ノ御墓ヲ奉行スル事ヲ主トル始ハ諸陵司ト云ヒシヲ四十五代聖武帝ノ御時アラタメテ諸陵寮トシ玉ヘリ○頭一人權官ナシ相當從五位上唐名廟陵令始ハ公卿是ニ任ジケルガ中古ヨリ賀茂氏陰陽師五位以上ノ者任ズル也寮頭ノ外アナガチ任ズル事ナキ也○助一人允大少屬大少アリ畧之

已上治部省被官畢

民部省 此ノ省太政官ノ南美福大路ノ南西ニアリ諸國ノ事年貢等此ノ省ニシテ沙汰スル也村里土地ノ圖人民ノ

數等ヲモ帳ニシルス事萬民ノ訴ヲ聞キ憂苦ヲヤスムル事ヲ掌トル也○卿一人掌リ前ニ同ジ(相當)正四位下(唐名)戶部尙書四位相當ナリトイヘドモ古來ヨリ公卿ノ兼官ニシテ四位拜任ノ例ナシ多クハ納言以上ノ兼官也○式部卿ノ外ニハ此ノ卿重職也○大輔一人相當從五位下殿上ノ四位五位名家或ハ儒家ノ人等任スル也(唐名)戶部權大輔(一人)相當(唐名)右同少輔一人殿上或ハ地下ノ五位等任ズル也權一人同丞(大二人小二人)錄アリ略之

主計寮 諸國ノ年貢并ニ雜物等ハカリヲサムルツカサ也(唐名)金部○頭一人權官ナシ相當從五位上(唐名)金部郎中職原ニ諸道ノ中五位タル者任之云云四道并ニ醫陰兩道ヲ諸道ト云フ也然レドモ清原中原ノ二家ハ大外記ヲ兼スル故ニ是ニ任ゼザル也○助(一人)權助(一人)相當正六位下近代五位ノ任也允(大少)屬(大少)等アリ又此ノ下算師アリ主計ノ算勘者也相當從八位下也

主稅寮 諸國ノ年貢ノ事ヲ掌ル也其ノ年貢ミナ大炊寮ニ治マル也此ノ寮ヨリ計ラヒ治ムルツカサ也(唐名)倉部才智ナクシテハカナハザレバ諸道ノ中ヨリ撰ミテ是ニ任ズル也

兵部省 朱雀門ノ西掖ニ有リト云云武官ノ頭也軍陣人馬ノ事城ヲカマヘ堀ヲホリ要害ヲナス等ノ事ヲモ掌ルナリ○卿一人相當正四位下(唐名)兵部尙書 公卿已上ノ兼官也文武相カネタル器量ヲ撰デ任ゼラル、重キ官也中務卿式部卿ハ親王ノ任也此ノ卿ニモ其ノ器量ニアタル時ハ親王任ゼラル、也建武年中ニ大塔ノ宮ニ品親王兵部卿ニ任ジ玉フ文武ノ御器量アル故也サナキ時ハ公卿以上ノ兼官也中式ノ外六省ノ内民部兵部ヲ重シトスル也民部ハ天下ノ民數ヲ掌リ兵部ハ軍旅ノ事ヲ掌ル故也治部刑部其ノ次大藏宮内又其ノ次ナリ○大輔(一人)權(一人)相當正五位下(唐名)兵部侍郎○少輔(一人)權(一人)相當從五位下(唐名)右ニ同ジ 名家ノ五位

ノ任ナリ公達モ任ズル也八省ノ輔ノ中民部兵部ノ輔ハ名家ノ人我ガ家ノ任ト執セル官也又地下諸大夫等モ任ズル也サレドモ細々ノ義ニハアラズ丞(大少)録(大少)有リ略之

禁中外門ノ警固ヲ掌ル也大嘗會元日ノ節會ニハ銅狗犬ノカタハラニイデ 狗犬ノナクマテヲナスト也

アカマネニテイタル狗犬也コレ日本ノ古例也トカヤ狗犬スル事日本紀卷ノ二ニ見ユ又天子出御ノトキハ前ヲカタムル役也歩立ノヤクニシテ走リマハリ身カロキ事準ノ如キ故ニ準人ト云フ也昔ハ大勢アリ大隅薩摩ノ國ヨリ參ル也當司ハ準人ノ奉行也(唐名)布護署 準人司ヨリ以下諸司ト云フ也惣シテ大輔助ナク多クハ三分也

○正(一人)相當正六位下(唐名)布護將軍○諸大夫諸道及ヒ 侍等多ク任ズル也五位六位トモニ任ズル也當司ノ正ハ武官ニシテ先驅ノ役ナル故侍ハ是ニ任ズルヲ以テ規模トスル也此ノ故ニ四位ニ叙スレドモノゾミテ是ニ任ズル也○佑○令史有略

刑部省 此ノ省皇嘉門ノ西掖ニ有リト云云萬ノ訴訟ヲコトワリ罪ニ沈ムベキ罪人アレバソレトニ行フ事ヲ司レリ然レドモ檢非違使ヲ置カレテヨリ此ノ職檢非違使ヘウツリヌレバ今ハ刑部省ノ職ハ名有リテ實ナキガ如キ也(唐名)刑部○卿一人前ニ同シ罪科ノ是非ヲ正スヲ掌ル也(唐名)刑部尙書四位已上ノ任也公卿モ任ズルナリ名家儒家ノ宿老任ズル也平忠盛同嫡男清盛二代是ニ任ゼラル、也是名家ヲ任ズル一證也

大輔(一人)權一人相當正五位下(唐名)刑部侍郎○少輔一人權一人相當從五位下(唐名同)名家五位又ハ諸大夫ノ五位ノ任也奉公ノ功ニ依リテハ侍ノ五位是ニ任ズル也規模ノ義也丞(大少)録(大少アリ)略

大判事 一人罪ノ輕重善惡ヲ記シ諸ノアラソヒ訴ノ事等ヲ判斷スル也此ノ名ハ大ニ罪科等ヲ判斷スルノ儀也明法道ノ人は是ニ任ジテ他家ヲ任ゼザル也(相當)正四位下(唐名)司直○昔ハ中判事一人アリ中比ヨリナシ少判事(二人)相當從六位下(唐名)大理丞 屬アリ略之

囚獄司 今ノ世籠奉行也此ノ司今ハ檢非違使ニツキタリ(唐名)獄司○正一人罪人ヲ禁囚スル事ヲツカサトレリ相當正六位上(唐名)斷獄令○此ノ司ノ名ヨロシカラザル故中比ヨリ是ニ任ズルコトナキ也

大藏省 宮城ノ内達得門ノ西ニ有リト云云諸國ノ調金銀糸綿織物雜物等ヲ納ムル藏也諸國ニアル藏ハ其ノ國司ノツカサトリ也ハ國司ヨリ奉ルヲ總シテ此ノ藏ニ納ムル也又諸ノ公事節會等ノ時入用フル金銀絹布等此ノ藏ニ無キ時ハ諸國ノ守ヘクダシ文ヲツカハシ都ニ上セシムル事年貢等ノ切手ヲ出ダス也(唐名)太府寺○卿一人相當正四位下(唐名)太府卿殿上ノ四位是ニ任ズル也又ハ公卿モ任ズル也○大輔(一人)權(一人)相當正五位下(唐名)太府侍郎○少輔右ニ同(相當)從五位下(唐名)太府少卿○往古ハ名家ノ殿上人及ビ地下ノ諸大夫共ニ任ゼン也後世取リ下シテ諸道及ビ侍ノ五位等又是ニ任ズル也此ノ故ニ殿上人ハサシテ望マザル也丞 錄アリ略之

織部司 諸ノ織物ヲ云ヒワケ又ハ染ムルツカサ也(唐名)織染署○正一人ツカサ也延喜式曰當官七月七日織女祭年料冠羅綾綿一切織物染物事奉ニ行之也云云五位ノ諸大夫又諸道ノトモガラ共ニ任ズル也昔ハ此ノ正ヲ久シクツトメヌレバ國ノ守ニ任ゼシト也近代其ノ儀ナシト也相當正六位下(唐名)織染令○佐令史アリ略之

宮内省 宮城ノ内太政官ノ東大炊寮ノ西ニ有リト云云宮中百工ノ司也百工トハ百ノ工ト云フ事也昔請細工ノ事工ノ掌トリナリ又内親王家ノ諸事又諸國ヨリマキル女中等ノ事ヲ司ルナリ(唐名)工部又司農

卿一人(相當)正四位下四位已上ノ任也公卿モ任ズル事アリ建武年中ニ大納言實忠宮内卿ヲ兼任ス公卿ヲ任ズルノ證也(唐名)工部尙書○大輔(一人)權(一人)相當從五位下(唐名)工部侍郎○少輔(一人)權(一人)相當從五位

有職職中鈔

六十七

位下大輔ヨリ以下名家ノ殿上人又諸大夫五位任ズル也(丞(大少)録(大少)畧之)

大膳職 宮城ノ内待賢門ノ南掖ニ有リ諸國ヨリ奉ル雜物御膳諸ノ食物等ヲ掌ル也節會儀式等ニ公卿等ニ饗膳ヲ賜フトキモ此ノ職ヨリ沙汰シ出ダス也(唐名)大官署 大夫(一人)長官也(唐名)太官令(相當)從四位下殿上ノ四位五位地下ノ諸大夫トモニ任ズル也但シ清花ノ殿上人ハ是ニ任ズル事ヲ好マズ○亮權共ニ相當從五位下(唐名)光祿侍郎諸大夫ノ侍地下共ニ任ズル也○諸寮ノ助多クハ六位ノ相當ナルニ當職ノ亮ハ相當五位古來ノ例也諸寮ハ大舍人 圖書 內藏 縫殿等已上十八寮也○進(大少)屬アリ畧之

木工寮 二條ノ南大宮ノ東ニ有リ番匠ノ司也内裡御造營并ニ御修理ノ事等ミナ沙汰スル處也(唐名)將作監頭一人權(一人)相當從五位上(唐名)木作尹名家ノ五位殿上人多ク任ス造營ノ奉行ナレバ人ヲ撰ブ事也權頭ハ諸大夫ノ五位ノ任也助權允屬アリ此ノ下ニ算師アリ竹木等ノ算者也

大炊寮 宮城ノ内宮内省ノ東ニ在リ諸國ヨリ奉ル雜穀ノタクヒ此ノ寮ニテ領シテ諸司ヘワタスナリ(唐名)大倉署 頭(一人)權ナシ(相當)從五位下(唐名)大倉令五位諸大夫ノ任也○助○權アリ六位諸大夫ノ任也允(大少)屬(大少)有リ略之

主殿寮 宮城内上東門ノ北ニアリ殿上庭上ノ掃除松明燎等ノ司也(唐名)尙舍局頭(二人)供御 輿 蓋 蓋笠(車ノ具也) 繖扇 帷帳 燈燭 松柴 炭 煤 湯沐等ノ司也(唐名)尙舍奉御○權官ナシ五位諸大夫ノ任也○助權六位ノ諸大夫ノ任也允(大少)并承屬アリ略之

典藥寮 宮城ノ内談天門ノ北左馬寮ノ東ニアリ云云藥ノヲサマル處也コトニ藥苑アリ御井アリクスリヲ洗フ所也(唐名)大醫署○頭(二人)諸ノ藥物病ヲリヤウシ又藥園ノ事ヲ掌ル也(唐名)太醫令(相當)從五位下近代ハ四品已上ノ任也醫道ノ極官也他人ハ不任和氣丹家兩流ノ中ニテ器量ヲ撰ヒテ任ズ權ナシ助權允(大少)屬(大少)有リ略ス

醫博士醫書ヲ講談スルモノ也(唐名)太醫博士(權有)トモニ相當正七位下ニシテ五位ノ任也尤醫道ノトモガラ也 女醫博士女中ノ療治ヲ奉行スル也權有リ(相當)并(唐名)前ニ同ジ針博士職員令針師五人ナリ針ノ療治ヲ掌ル也針師ドモニ其ノ道ヲ教フル官也針師二十人有權共ニ(相當)從七位下ナレドモ中古ヨリ多クハ五位也(唐名)主針儒

侍醫 天子ノ御脉ヲ試ミタテマツル也御惱ノ時御脈ヲ伺ヒテ典藥ノ頭ニシラシムル也ソレヲ置キテ頭藥ヲ調合スル也常ニ大内ニシコウスル故ニ侍醫ト云フ也醫家ニ於テ重職也(唐名)侍御醫○相當正六位下ナレドモ殿上ヲユルサレ龍顏ヲ見タテマツル故ニ中古ヨリ四位五位ノ任也侍醫ノ昇殿ヲ半昇殿ト云フ也小板敷ニ倚子ヲタテ天子是ニ御シ玉ヒテ侍醫ニアヒ玉フ也殿上ノ南面ニ階アリ階ノ上ニ縁アリ縁ノ内ニ板ノ間アリ是ヲ小板敷ト云フ也權官有リ醫家ノ五位六位ノ任也○醫師官位令二十人ト云云相當從七位下(唐名)司醫

掃部寮 牀簀苦筵圓座等諸節會祭等ニ天子ノ御座及ビ人臣以下ノ座ヲカマヘ其ノ外一切座敷ノ事ヲ司ルナリ元ハ掃部司ナリシヲ弘仁十年ニ改メテカモン寮ニナセリ大藏省ノ屬官也此ノ内ニ佐(一人)令史(一人)掃部十人使部(六人)直丁(二人)驅使丁(二十人)アリ(唐名)洒掃署

頭(二人)御殿并御裝束已下ノ奉行也權ナシ(唐名)洒掃尹(相當)從五位下五位諸大夫其ノ外諸道ノ五位ノ任也

助權(相當)從六位上六位諸大夫ノ任也○允屬有リ略ス

正親司 親王ノ位階御母方ノ氏等名籍ヲシルス司也帳此處ニアリ(唐名)宗正寺○正(二人)親王皇子ノ名籍ノ事ヲ掌ル也相當正六位上中古ヨリ王氏ノ五位任ジテ他人ハ任ゼザル也王氏ハ親王ヨリ五世已下ノ氏族ヲ云フ也○佑(二人)大令史一人少令史一人使部十人直丁十人アリ○佑令史(相當)已下略ス

内膳司 天子ノ供御ヲ奉行シ御膳ノ具ヲ此處ニ納ムル也中古ヨリ東宮坊ノ御膳ヲモ兼ネテ掌ル也(唐名)尙食局

正(二人)相當正六位上(唐名)尙食奉御○奉膳職員令ニ奉膳(二人)トアリ正ナシ御膳ノ事ヲ知り食ヲ進ムル時ハ先試ミル役也相當(唐名)上ニ同ジ四十代元正帝ノ御宇ヨリ則奉膳ヲ正トセリ高橋氏連綿シテ今ニ其ノ職也典膳(相當)從七位下近代ハ地下ノ六位ノ任也(唐名)尙食直長○令史アリ略スイツレモ高橋氏也

造酒司 酒ヲツクリ酒壺等ヲ奉行スル也(唐名)良温署

正一人相當正六位上(唐名)良温令中古ヨリ諸道ノ五位等ノ任也○佑令史アリ略ス

采女司 采女ノ奉行也采女ハ諸國ヨリ形ヨキ女アレバ奉ル也コレヲ云フ也日本紀ニ采女ノ事アリ昔葛城ノ采女ハ大和國ヨリ奉ル采女也五十一代平城天皇御寵愛也(唐名)采女署正一人(唐名)采女令相當正六位下是モ諸道ノ中六位トイヘドモ任ズル也○佑令史アリ略ス

主水司 宮城ノ内侍賢門ノ南ニ在リ泉水井水ノ司也亦六月朔日ニ奉ル氷室ノ事ヲモ掌ルナリ氷室ハ十七代仁德帝ノ御宇ニ始マレリ額田中彥皇子始メテ水ヲ獻ジ玉フ(唐名)上林署但シ此ノ唐名タシカナラズトカヤ異朝ノ上林署ハ苑池ノ事ヲツカサトリ果蔬ヲウエ冬水ヲ納ムルヲ掌ルナリ○正一人(相當)從六位上(唐名)上林

殿水任ズル者上ニ同ジ○佑令史アリ

已上八省畢ス

彈正臺 此ノ官武官ノ頭也貴賤ノ非禮非儀ヲ彈スノ官也中古ヨリ檢非違使是ヲ掌ル故ニ此ノ官名有リテ實ナシト云云唐名霜臺

尹(二人)貴賤ノ風俗ヲ正シ内外ノ非違ヲ彈奏スル事ヲ掌レリ多クハ親王ノ任或ハ大納言已上是ヲ兼任セル也○勅任ノ官ニシテ重職也○勅任トハ大納言已上左右ノ大辨八省ノ卿六衛府ノ督彈正ノ尹太宰ノ帥等也宣旨ヲ以テ是ヲ任ゼラル、也○除官ハ奏シテ任ジ或ハ奉行判斷シテ任ズル也(當)從三位(唐名)御史大夫

大弼一人弼ハ輔也タスクル也尹官ヲ輔ケ其ノ役目ノスケヲスル心也(相當)從四位下(唐名)御史中丞○少弼一人(相當)正五位下(唐名)同大少共ニ殿上四位五位ノ任也中古ヨリ地下ニモワタル也是無念ナルヨシ職原抄ニ筆セリ○忠(大少)大(相當)正六位上少正六位下(唐名)侍御史六位諸大夫同侍等任ズル也疏(大少)有リ略ス

左京職 京中ノ屋敷田島年貢已下諸事京ノコヲ掌ル也東ノ京ハ左京西ノ京ハ右京ノ掌リ也(唐名)京兆大(夫二人)ツカサトリ前ニ同ジ(唐名)京兆尹(相當)從四位下是嵯峨帝ノ弘仁十二年ニ改メ玉フ也其ノ後ヨリ四位已上二位三位ノ任トナレリ○權(二人)四位殿上人諸大夫共ニ任ズル也○亮太皇太后宮職皇太后宮職中宮職左右京職修理職右ノ亮ヲ重ンズル也此ノ外受領ノ助諸司ノ助術府ノ佐イツレモ亮トハイハズ是ハ規模ナラザルユエ也(相當)從五位下(唐名)京兆尹諸司ノ助ハ六位ナルヲ當亮ハ五位也重職ノ故也 權ノ亮相當(唐名)共ニ同前○進(大少)屬(大少)アリ略之

東市司 禁裏ヨリ東ノ方ノ市ノ事ヲ主ル 財寶雜具等賣買ニツキテ其ノ品ノ實偽ヲ正ス役○左京職ノ下司也
(唐名)市署○正(二人)諸道ノ五位六位又ハ院ノ主典代藏人所ノ出納等ノ任也主典代ハ院ノ御所ノ右筆出納ハ
藏人所ノ下司也○佑令史アリ略之

右京職 上ニ同ジ

東市司 西市司アリ禁中ヨリ東西ノ市ノ管領也或說中央ハ堀川ヲ限リ東西也

東宮 傅 一人攝家ノ大臣是ニ任ゼラル東宮ヲモリ奉ル職也攝政關白太政大臣左右大臣モ兼官也規模ノ官勅
任ノ官也又大納言兼任モ先例アレドモ中古已來タマカノ事也(相當)正四位上(唐名)太子大傅

學士(二人)東宮ノ御師範也擧アル儒者是ニ任ズ重代ノ才智ヲエラフ也相當從五位下(唐名)太子賓客

春宮大夫 春宮坊中ノ管領職也規模ノ官也(唐名)太子詹事攝家ノ息大臣ノ子孫大納言中納言ノ兼任也權ノ大

夫(一人)職掌大路大夫ニ同ジ中納言以上ノ兼官也

亮一人(相當)從五位下ナレドモ名家ノ四位器量ノ人任ズルナリ坊中一切ノ奉行職也(唐名)太子少詹事○權亮

(二人)職掌唐名相當亮ニ同ジ花族ノ中將少將ノ兼任也

大進(一人)權(二人)唐名詹事○丞名家ノ五位ノ任也モ器量ヲエラマル坊中ノ諸公事ヲ掌ル○少進(一人)權

(二人)名家六位ノ兼任也又五位モ帶スル事アリ屬(大少)有リ略之

主膳監 春宮ノ御膳ノ事ヲ掌ル也(唐名)典膳局

正一人食ヲ奉ルニ先試ミテ奉ル役也此ノ下ニ膳部六十人使部六人直丁一人驅使丁二十人アリ(相當)正六位上

(唐名)典膳郎○佑令史有リ略之

主殿署 東宮坊ノ掃除造作等ノ事ヲ掌ル也唐名典殿局○首一人是ハ諸役人湯沐燈燭掃除等ノツカサトリ也(相

當)從六位下(唐名)典設郎○佑令史有リ略之

主馬署 東宮ノ御馬ノ事ヲ奉行スル也(唐名)既牧署 首(一人)乘馬并ニ馬具ノ類ヲ司ル也此ノ下ニ馬部十人使

部十人直丁一人有リ(相當)從六位下(唐名)既牧令○佑令史有リ略之此ノ外内膳司藏人非藏人帶刀等有リ皆

禁中ツカサトリノ如クアル也○此ノ間ニ伊勢齋宮寮 加茂齋院司 職原鈔ニ載セタリ今略之

修理職 内裏御修理造作ノ奉行也諸工ミナ此ノ官ニ從フ也(唐名)匠作○大夫一人相當從四位下(唐名)匠作大

尹四職ノウチノ大夫ノ一也或說ニ武家ノ人此ノ大夫ニ任ズル規模也云云四位已上ノ任或ハ公卿モ任ズル也

權一人四位五位ノ殿上人ノ任也諸大夫ヲ任ゼラル、規模也○亮進(大少)算師有リ略之

勘解由使 諸國諸寺等ノ未進解由ナルヲ勘檢スル職也タトヘバ諸國ヨリ奉ル年貢ヲ帳ニ書シテ此ノ勘解由

使ニオクル也其ノ時勘解由ノ判官主典ヲ勘定シテ目錄ヲ作りテ同長官次官ヘ送ル也サテ長官次官直ニ奏聞ス

ル也

令外ノ官也○長官(相當)從四位下四位已上ノ任也參議二位三位共任ズル也參議ハ相當四位也二三位ハ公卿也

サレバ公卿當官ニ任ズルヲ以テ長官ノ規模トスル也○同次官殿上ノ四位五位任ズル也(相當)從五位下(職原

ニ)名家任之頗爲顯官云云ゲンクハントハオン出テアラソヒナキ任也ト云フ儀ナリ又曰一向地下諸大夫

等不任之云云親房ノ時代迄ハ左ノ如シ近代ハ地下四五位モ任ズ○同判官當使ノ勘定職也相當從六位下六

位ノ侍ノ任也能筆ノ者ハ望ミテ任ズル也○主典是モ勘定職也相當從七位下イヅレモ唐名ナシ

鑄錢司 錢ヲ鑄ル司也四十代天武帝ノ御宇詔シテ銅錢ヲ用ヒテ銀錢ヲ不用四十三代元明即位ノ初メ銅錢ヲイ

ル故ニ改元シテ和銅トナシ玉ヘリ職原ニ近代常不任之云云四分已下アリトイヘドモ官位相當ツマビラカナ
ラズ長官次官判官主典有リ唐名ナシ

修理宮城使 令外ノ官也禁中内外ノ修理ノ事ヲ掌ル也或説ニ洛中洛外神社佛閣等ノ修理造營ヲモ奉行シ破損ノ
所ヲ葺キ治ムル職也左右ノ修理宮城使アリ使ハ左中辨右中辨兼官也○判官太政官八史ノ中是ヲ兼ヌルナリ主
典當官宮城使ハ昔ヨリ決定シテ置カサル故ニ官位相當詳ラカナテズ唐名ナシ

造寺使 令外ノ官也寺造營奉行ノ號也但東大寺興福寺ノ外此ノ號ナキナリ餘寺御建立ノトキ奉行有リト雖モ造
寺使トハイハザル也兩寺奈良ニ有リ東大寺ハ四十五代聖武帝ノ御建立也興福寺ハ和銅三年ニ不比等ノ建立也

○長官大辨ノ兼任也○次官判官主典アリ唐名ナシ東大寺ノ造寺使ノ判官ヲハ左大史必ズ兼任スル也(史ノ
前ニミエタリ)

防鴨河使 洪水ノトキ鴨川ノ堤ヲ破リテ京ニ水入ル故ニ是ヲ治ムル事ヲ主ル使檢非違使ノ佐兼ネ行フ也○判
官檢非違使ノ尉志兼行也○主典下司也唐名ナシ(職原抄ニ已上除目任之云云是ヨリ以上八省ニ至リ皆除
目ニ是ヲ任ゼラル除目ノ事一ノ卷ニミエタリ)

施藥院使 令外ノ官也藥ヲ施シ病人ヲ養ハセ玉フ處也四十六代孝謙帝勅シ玉ヒテ病者ヲスクヒ貧乏ノ輩ヲ養
ヒ玉フ也又説ニ四十五代聖武帝ノ后光明皇后ハジメ玉フト云云拾芥抄ニ唐橋ノ南室町ノ西ト云云○使判官
主典アリ辨及ビ外記ヲ以テ別當トスト云云

使 醫師規模ノ官也丹家ニ相傳スル職也和氣氏ハ其ノ例多クハ不吉ナリトテ不任ト也醫道ノトモガラ四位以
下ノ任重職也○判官 主典アリ唐名ナシ 此ノ職往古ハ藤氏ノ長者ノ沙汰ニテ任ゼラレシ也中古ヨリ勅補ト

ナレリ

宣下ノ官

檢非違使 職原鈔ニ宣下ノ官ト書セリ是ヨリ下非職人ニ至ルマデ除目ニ非ズシテ補之也是ヲ宣下ノ官ト云フ也
檢非違トハ非違ヲ檢ト云フ意ヲ以テ是ヲ司トスル也萬ノ公事沙汰ヲコトワリ刑罰ヲ行フ職也天下ニ威勢アル
官也武官ナル故ニ是ヲ帶スルトキハ衛府督ヲ兼ヌル也

又使廳ト云フナリ廳ハ屋ナリ此ノ使ノ居ル處ヲ云フ也然ルヲ今檢非違使ノ別名ト心得ルハ非也○下司ニ看督
長ト云フ者六十人アリ六十六ヶ國ニツカハシ其ノツカサトル處ヲシメスナリ五十三代淳和ノ御時始メテ置カ
ル、此ノ職出來テヨリ衛府ノ追補スル事彈正ノ糾斷スル事刑部ノ判斷京職ノ訴訟ミナ檢非違使ニ移リテ司ル
所也此ノ故ニ重職ノ極マリ也衛府トハ衛門兵衛ノ武官ヲ云フ也非儀ノ者ヲ逐ヒハラヒ亦トラフル役也此ノ故
ニ追補ト云フ也○彈正ハ其ノ答ノ札明スル役也○刑部ハ是ヲ判斷スル役也○京職ハ左京右京也萬ノ訴訟ノ聞
キ役也是ミナ檢非違使ノ司ル所トナレル也唐ノ大理ニアタルト云云 別當一人(唐名)大理大卿(刑部卿ノ唐名
ニ同ジ) 參議已上ノ任也尤容儀才智富有等エラフ也富有トハ貧者ハ賄ヒニ依リテ私曲ヲカマヘ非儀ヲナス故
也○參議別當タルトキハ中納言ノ闕アルトキハ其ノマ、中納言ニ轉ズル也上首ノ參議タトヒ英雄ノ器量タリ
トイヘトモ争ヒナク參議大理ヲ中納言ニナス事古例也重職ノ規模也又參議大理ト大辨ト位同ジキ也年勞同
ジキトキハ二人同時ニ中納言ニ轉ズル也又二人ノ中年勞ニ遠近アルトキハ勞久シキモノ越エテ中納言ニ轉ズ
ル例也○佐(左右)二人アリ(唐名)廷尉左衛門ノ權佐タル者此ノ佐ニ任ズル事例也同衛門正佐ニ任ズルハタマ
サカノ義也名家譜代ノ中其人ヲエラシメ任ズル也

尉 是ヲ判官ト稱スル也餘官ノハ或ハ勘解由使、判官宮城使、判官ナド、官ヲヨブナルヲ此ノ官ハ只判官ト云フ也○源、義經五位ニシテ當使ノ尉タリ故ニ判官ト稱スル也明法ノ儒必ズ是ニ任ズ多クハ地下人タリ然ルニ義經此ノ尉ニ任ジテ昇殿ヲユルサル、事ハ軍功ニ依リテ也左大尉(二人)右大尉(二人)左少尉右少尉アリ是員數定マラズ志檢非違使ノ右筆役也同シ(左大少右大少)府生アリ皆下司也委シクハ職原鈔ニ有リ略ス

藤氏ノ長者 藤氏ノ事前ニ見エタリ源平等ノ四姓ノ中藤氏大也長者トハ裸虫三百六十以テ人爲長ノイヒ也何レノ氏族ニカギラズ攝政關白タル人ヲ以テ其ノ氏ノ長者ト仰ク義ナリ別ニ宣下有リテ長者號有事ニハアラザリシヲ宇治左府賴長攝政ニアラズシテ長者ト稱セリ是ハ賴長ノ父關白忠實賴長ヲ愛シテ押シテ藤氏ノ長者ヲ申シ請ケ内覽ノ宣旨ヲ蒙ムラレシ也宣下ノ例此ノ時始マレリ賴長ハ本惡性ノ人也世ニ宇治、惡左府トイヘリ保元ノ亂ニ南都ニテ矢ニ中レリ

源氏長者 右ニ同シ源氏ハ清和嵯峨村上ノ流也皇子ニ源氏ヲタマハルハ嵯峨ノ皇子信弘等ニ始マレル也村上帝九代ノ孫源、光友始メテ源氏ノ長者タリ

獎學院、別當 源氏ノ學問所也三條北壬生ノ西勸學院ノ西ニアリト云云此ノ別當則チ源氏ノ長者也宣旨ヲ賜ハリテハ前大臣モ兼任セラル、也源氏ノ公卿第一ノ人はニ補セラル、也大納言中納言多ク獎學淳和ノ別當ヲ兼任スル也大臣ニ任ズル時ハツギノ人へ讓ル然レドモ獎學ノ別當ニ於テハ猶兼帶スル例也鳥羽ノ院ノ勅定ニテ兩院ノ別當中ノ院家ニワタル也然レトモ將軍鹿苑院義滿奏シテ兩院ノ別當ヲ申シウケテ是ニ補セラレテヨリ今ニ將軍ノ任也同シク公方ノ號モ此ノ時也公方タル御人必ズ征夷將軍ヲ兼ネ玉フ也
淳和院、別當 同源氏ノ學問處ト云云元ハ天長ノ上皇ノ離宮ナリシトカヤ

學館院別當 此所ハ橘氏ノ學問所也氏ノ中ヨリ別當ニ補シテ長者ト號スル也尤其人ヲエラフ事也五十四代仁

明帝嘉祥三年ニ嵯峨帝ノ后橘ノ嘉智子弟右大臣橘氏公ト議シテ學舎ヲヒラキ學館院ト名ヅケラル、也後世此ノ氏衰微スル故長者別當ノ宣旨九條殿ニウツル也是ニ依リテ橘氏ノトモガラ九條家ニ屬スト云云

内暨所、別當 内暨アル説ニ赤キ袴ヲ著スル也ツカサトリ内舍人ニオナジ御殿ノ南ニ校書殿アリ此ニ直シテ駈使ヲ勤ムト云云又直ノ時刻ヲ奏スル也但シ天子御喪中ニハ不奏ト云云是多クハ少年ノ役也別當ハ此ノ司リ也一人是ニ任ジ玉フ也關白兼官ナルユエ他人ハ望ム事アタハザル也

内教坊、別當 内教坊ハ女ノ舞樂人ノ居處也或説ニ内教坊ハ老女音樂ヲ雅樂寮ニナラヒテソレヲ諸ノ女房ニ教フル也妓女多クハ從五位下ニ叙スル也別當ハ此ノツカサ也内教坊ハ府土ニモアルナリ大納言中納言ノナカニ樂ニ堪能ナルヲ撰ビテ別當トセラル、ナリ

内膳、別當 内膳ハ御膳ヲト、ノフル所也内膳司アリ此ハ其ノ司ノ事ヲハジメ惣テヲ奉行スル也大中納言ノ補任也

御厨子所、別當 御膳御酒肴ノ類ヲ設クル處ナリ今ハ清所ト云フ也或樂器ヲ納ムル所也云云内藏寮、頭是ニ補スル也

大歌所別當 今様又ハ神樂催馬樂等ノ歌ヲナラフ處ナリ納言已上補之

記録所 諸ノ訴訟ヲ決斷スル所也七十一代後三條院延久年中ニ始メテ是ヲ置カレ諸國ノ衰事ヲ正サル、也後醍醐帝モ記録所ヲ置キテ民ノ患ヲ聞キ玉ヘリ

上卿辨開閣寄人イヅレモ官人也才智ナクシテハ不叶人ヲエラバル、也上卿ハ納言已上也辨ハ辨官ナリ是ヲ

職ト云フ也開闔ハ右筆ニ議シテ訴訟ニ依リテ双方對決スベキナンドヲバ諸國ニ至ルマデ文ヲツカハス奉行也
イヅレモ宣下ノ官也宣下ノ事委シク下ニ見エタリ

樂所ノ別當 諸樂所舞臺等ノ事ヲ司ル也此ノ道ヲ知ル三位已上ノ任也

大學ノ別當 大學寮也天下ノ文才學者ノ集マル處也凡ソ別當ハ其事ヲ見察スル役也内膳大學共ニ同ジ内膳ハ奉

膳頭助已下ノ任アリテ司寮ノ政ヲツカサトル也別當ハ其ノ政ヲツカサトラズ唯棟梁ト成リテ其ノ政ヲミル而

已也内膳ハ天子ノ御膳ニテ大事也大學ノ別當モ集者ノ秀才ヲカ、ミル職也親王ヨリ大納言ノ中器量ヲユラミ

テ任ズル也

藏人所 藏人ノ集會スル所也拾芥抄ニ校書殿ニアリト云云校書殿ハ月花門北七間面ト云云藏人ハ小性ノ如キモ

ノ也天子近習ノ職也嵯峨帝ノ弘仁元年始メテ藏人所ヲ置カル、也(唐名侍中

藏人ノ別當ハ左大臣ノ任也公卿ノ至極規模トスル官職也藏人ノ頭(二人)四位殿上人ノ中器量ヲ撰ビテ任ズル也

大辨ノ内(一人)中將ノ内(一人)此ノ頭ヲ兼任スル也常ニ武器ヲ帶シテ玉躰ヲマモル也正四位上ヨリ從四位下

マデノ任也諸官ニ頭アル中ニ此ノ頭ヲバ頭トヨム也故實也凡ソ殿上ノ事ハ此ノ頭以下ノ職事奉行スル也殿上

ニ昇ル四位五位六位等ノ中ニテハ此ノ頭ガ上座也餘ハ皆此ノ下ニツク也○頭(唐名)仙郎夕拜郎○職事五位ノ

中三人六位ノ中四人以上七人藏人所ヲ知リ奉行スル故ニ職事ト云フ也

五位藏人 三人名家重代ノ中器量エランデ任ズル也天下ノ知務ヲ奉行スル故也當職ニ補シヌレバ次第ノ昇進滯

リナキ也五位ノ藏人ヨリハ辨官ニウツリテ藏人ノ頭參議ニ至ル也其ノ器量ニヨツテハソレヨリ大臣ニモノボ

ル也サレバ此職ニアタル事出身ノ初也ト云云ソレ藏人ニ補シヌレバ廷尉佐勘解由ノ次官八省ノ大輔少輔等ヲ

兼帶スル也廷尉佐ヨリ藏人ニ補シテ辨官ヲカヌルモノハ至極規模也朝廷ノツトメ勞功ノ人ナラデハ成リガタ

シ次ニ藏人ノ頭ニ補スル時辨官ヲバ其ノマ、帶スル事成リガタシ帶スルハ大ナル規模也名家ニシテ藏人ニ可レ

任トモ器量アラザレバ辨官ヲ去リテ他官ニ任ズル事古例也又公達ノ中中將侍從等有職アルトキハ此ノ職ヲノ

ゾム也此ノ職ニ居ル事才智ナクシテハ不叶依リテ才名ヲ顯ハサン爲也○頭及五位ノ藏人ハ天子近習ノ官也

故ニ禁色ヲユルサル、也禁色ノ事前ニ見エタリ○弘仁元年藏人所ヲ置キテ頭(二人)六位八人有リ光孝帝仁和

四年ニ始メテ正五位下源湛藤原敏行二人ヲ以テ五位藏人トナセリ近衛院ノ御宇五位三人六位五人也近代ハ五

位三人六位四人

六位藏人 四人名家儒家諸大夫重代ノ人器量ヲ撰ミ任ズル也地下ノ諸大夫多ク是ヲ以テ極官トス四人ノ第一

ノ藏人ヲ極膳ト云フ此ノ極膳必ズ廻リ來リテ五位ニ叙スル也其ノ時他官ニ任ジ地下ニ下リテ元ノ如ク殿上ス

ル事能ハザル也地下ニ下リテハ昇進ナリ難キ也其ノ故ニ奉公ノ志アル者ハ極膳ヲ去リテ他官ニ不レ任新藏人

ト成リテ四人ガ中ノ末座ニ列スル也是ヲ還昇殿上人ト云フ也其ノ後奉公ノ勞ヲ積ム時ハ大中納言ニ昇進スル

例アル事也○極膳第二膳ヲ差次ト云フ第三膳ハ姓ヲ呼ヒテ藤原ノ藏人源藏人ナド、云フ也一説之ヲ職事ト云

フ也第四ヲ新藏人ト云フ也下膳トモ云フ也六位藏人ツカサドリハ禁中ノ小事或ハ御膳等ノ事ヲ奉行ス近習ノ

職也他官ニ遷ラズシテ是ヲ司ルヲ規模トスル也四人ガ中一日三人ヅ、奉公ヲ勤ムルユニニ日下膳トモ云フナ

リ五位ノ藏人ニ同ジク禁色ヲユルサル也其ノ中極膳ハ麴塵袍ヲ着ス是天子ノ御服也是ヲ拜領シテ著スル例

也晴ノトキハ下膳ニ至リテモ著スル事也

非藏人 員數ナシ藏人ニ同ジク昇殿スト云ヘドモ公事ヲ奉行セズ禁色ヲ不着コノ故ニ藏人ニシテ藏人ニアラ

ザル也或ハ曰ク重代ノ諸大夫家ノ中未ダ藏人ニ不任シテ先昇殿スル輩也六位ニ同ジク名家儒家ノ中ヨリモ任ズル也六位ノ藏人ノ闕アルトキハ其ノ器量ニ依リテ任ズル也殿上ノ掃除等ヲナシ或ハ殿上ニテ大臣ニツカハル、役也

出納^{シニフク} 官名ニハアラス是藏人所ノ出シ納レヲ主ル也代々傳ヘテ其ノ家アル也一二三四番アリ四番メヲ新出納又ハ雜出納ト云フ是雜具ヲ出入スル役也禁秘抄ニ出納三人是藏人方一切ノ奉行也

小舍人 昔ハ六人近代十二人出納ニ同ジ代々傳ヘテ其ノ家アリ又云ク親王大臣ノ家司等任ズト云云殿上ニシテ殿上人ニツカハル、役也常ニ校書殿ニツメル也公用アル時ハ殿上ニ召サル、也是ヲ召ストキハ藏人鈴ノ綱ヲヒク也是ニ依リテ參ルト云云二條ノ院ノ御宇殿上ノ横敷坤角ノ柱ニ綱ヲツケ鈴ヲ付ケラル、也初ハ馬寮ノ指繩ヲ用ヒタル故ニ鈴繩ト云フ也云云

雜色 藏人所ノ雜色也公卿ノ子孫或ハ可然諸大夫多任ズル也是ヨリ藏人ニ補スル也禁秘抄ニ本員八人ト云云所兼 禁秘抄ニ藏人所ノ所兼員二十人云云掌リ不詳六位ノ侍器量ヲアラソヒテ任ズト云云

瀧口 所ノ名也清涼殿ノ北黒戸ノ東ニ在リ出入ノ口也此處ヲマモル番ノ侍ヲ瀧口ノ侍ト云フ五十九代宇多帝ノ時始メテ此ノ勤番ヲ置カル數二十人武官ノ任トナル事ハ八十九代龜山院ノ文永年中ニ始マル源平重代ノ侍ヲ以テ任ズ頼朝卿ノトキ千葉小山秩父等ノ侍是ヲ勤ムルヨシ東鑑ニ見エタリ禁秘抄ニ瀧口ハ大略所兼ニ同ジキ也云云瀧口北面東宮帶刀等一列ノ官也

諸國 諸國ハ山城守大和守等ノ國守ヲ云フ是ヲ外官トモ外任トモ云フ八省ノ京官ヲ内官ト云フ按察使鎮守府太宰府等ハ外國ニ在リテ外官也サレドモ除目行フトキハ文官ノ列ニ入ル也是文武兩道陰陽ノ如クナル故也昔ハ

任國四ヶ年ニテ國守ガ其ノ國ヘ下リテ治ムル也分ケテ治ムル事善政ナレバ又四年ヲ重ネテ八ヶ年ノ任也是ヲ重任ト云フ毎年ノ除目ノ節勅解由主計主稅等ウチ寄リテ國々ノ正稅年貢御調等勘定ヲナシ國民ノ治メ様ヲ考ヘ判斷スル也善ナルトキハ忠賞ヲ賜フ惡ナルトキハ下國ニツカハシ又ハ罪ノ輕重ニ依リテ行ハル、也任久シキハ法ニ私アル故ニ四ヶ年ツツク也凡ソ國守タル人才智ナクテハ不叶民ヲヤシナヒ國土安危ノ根本ナレバ賢不肖ヲエラマル、事也國守ノ初メハ十三代成務帝四年ニ國ノ造ヲ定ムト云云國守ノ儀也又三十六代皇極帝ノ時ニ改メテ國司トシ玉ヘリ又四十二代文武ノ朝ニ國司ヲ改メテ國守トナセリ以上日本紀ニ見ユ國守又受領トモ云フ國守ニ大國上國中下國ノ高下アリ

守 權ノ守アリタトヘバ山城守 山城權守如此山城ハ上國中中也○守權ノ守相當從五位上大國也
介 權ノ介相當正六位下同○權ノ大又大小二權有リ○目(大少アリ)相當正七位下(同少權少)相當從七位上
目(大少)大相當從八位上少從八位○介ヨリ下皆守ノ助官下司ナリ

上國ノ守 權ノ守(相當)從五位下○上國ノ權ノ守ハ納言以上ノ勅勅ニ依リテ配流セラル、トキ此ノ權守ニナシテソントノ國ヘツカハサル、也但シ是ハ名ノミバカリニテ其ノ主リ役目ハナキ也流人罪ノ輕重ニ依リテ國ノ遠近アリ略ス
介 權ノ介相當從六位上○椽權相當從七位上
目 相當從八位下 以上上國
中國 守權ナシ相當正六位下

介 官位令ニ中國ニ無介或書ニ曰ク弘仁格ニ中國ニ有介五十六代清和帝貞觀七年ニ能登 丹後 石見 長

門 士佐 日向等ニ置介也云云

椽(相當)正八位下(權以下ナシ)○目相當大初位下(初位ハ九位也)以上中國

下國 守權ナシ相當從六位下○椽權并大少ナシ相當從八位下○目相當少初位下如此大上中下次第相當位官卑シ諸國ニ守介椽等アリ但シ志摩ノ國ハ高橋氏代々内膳、正トシテ志摩守ニ任ジテ他人不レ任也○諸國大上中下アリ大國ノ中太守ト云フハ親王ノ任ニシテ臣下任ズル事アタハズ○上總 常陸上野以上太守トイフ親王ノ任也親王ハ其ノ國ノ政ヲバナシ玉ハズ只主ノミニテマシク在京シ玉フ故ニ介ガ守ニカハリテ其ノ國ノ政事ヲナス也サレバ右三ヶ國ノ介ハ餘國ニカハリテイツカド威勢アル也同權守モ俸祿ヲバトレドモ在京スル也國ヲ隔テ居スル故ニ是ヲ遙授ノ官トモ云フナリ參議二位三位ノ中將少納言等ノ兼官也又殿上六位藏人ノ五位ニ進ムトキハ此ノ權ノ守ニ任ズル事例也

諸國ノ權ノ守ニ任ジテ其ノ國ニ至ル者ハ納言ヨリ上ノ人各有ルトキ是ニ任ジテ其ノ國ヘ流サル、也各有リテモ高位ノ人ナル故流罪ト稱シテ權ノ守ニ任ゼラル、也納言以下任ズルトキハ遙授ノ官也

參議ノ人權ノ守ヲ兼ネタルトキ納言ニ至リタレバ守ヲヤムル也介權介ハ辨官ノ人近衛中將少將等ノ兼任也兼國兼官位階トモニ其ノ名ニ書クヲ位署書ト云フ也タトヘバ中納言兼左近衛大將從三位行春宮大夫陸奥出羽按察使藤原朝臣冬嗣 又參議從三位行中宮大夫兼右衛門督伊豫權守藤原朝臣朝成 此ノ類也書キヤウ凡ソ官位相當スレバ官ヲ上ニ書キ相當セザレバ位ヲ上ニ書ク也位高官ヒキ、ニハ行ノ字ヲ書ク也官高ク位ヒキ、ニハ守ノ字ヲ書ク也守行兩字共ニ書ク事アリ官高クレバ上ニ守ヲ書キヒキケレバ上ニ行ノ字ヲ書ク也若シ又アマタノ兼官アレバ相當ノ官ヲ上ニ書ク也餘ノ官ハタトヒ高クトモミナ兼官トスル也又共ニ相當セサル

ヲバ官ノ次第ヲ書ク也相當ノ官ヒクク相當セザル官高キトキハ相當ノヒキキ官ヲ上ニ書ク也

守(唐名) 刺史 宰吏 牧宰 國宰 太守○介 長吏 別駕○椽 司馬○目 主簿

郡司郡中ノ司也昔ハ郡毎ニ大領少領主政主帳アリ是ヲ郡司ト云フ當世郡代職也

國司相當五位以下ナレドモ四位以上ノ人モ武道ニ堪ヘタル人ハ是ヲノゾミテ五位國司トナル也其ノ國亂ル、トキハ此ノ人ヲ武勇ニ依リテ國賊ヲ鎮メンガ爲也如此ナレバ其ノ武ヲエラフ故ニ撰ミニアヒテ勅許ヲ蒙ルヲ規模トスル也

陸奥出羽按察使府 府ハ其ノ國ノ將軍ノ居所也奥州ト出羽ハ大國ナルニ依リテ國守以下ノ官アリト云ヘドモ其ノ外ニ此ノ使ヲ置キテ法度ヲツカサトラシムル也元ハ陸奥一國ナリシヲ國ヒロキユエ元明天皇和銅五年ノ秋分チテ出羽トナシ玉フ由續日本紀ニ見ユ中ニモ陸奥ハ東ノ大國ニシテ日本要害ノ地ナレバ國ニ凶賊ナクテモ異國ノ防キヲナス爲ニ兵士ヲ置キテ守護セシムル也(唐名)都護相當從四位下中古ヨリ納言以上ノ兼官也

記事 當使ノ右筆職也(唐名)都護錄事

鎮守府 一國ノ將軍ノ居所ヲ云フ也鎮守ハシヅメ守ル也是將軍ノ心也府ハアツマルトヨム是其ノ官ノ集マリ居ルノ儀也又府トモ讀メリ聖武二年ニ陸奥國ノウチニ鎮守府ヲ置キテ國ノ政ヲナサシメ玉フ由職原抄ニ書ス○守介椽共ニ其ノ政事ヲナセリ鎮守ノ名コ、ニ始マル

將軍 餘官ニ比スレバ守ノ心也

副將軍 副ハソフ也ツキ添ノ心也將軍ニツキテ其ノツカサトリ政ヲナス也餘官ニシテハ助也

軍監 軍中ノ横目也餘官ニシテハ允也

軍曹 前ニ同シ餘官ニシテハ志也下司也以上鎮守府ノ守護役也

秋田城 陸奥國ヨリ賊徒オコリ國大ニシテ制シ難キ故秋田ニ城ヲカマヘテ防ク也

介 則チ秋田城介也出羽ノ介是ヲ兼スル也職原鈔ニ除目ニ不任之被宣下也云云是ハ時ニ當リタイツニテ

モ藏人ヲ以テ勅命アル也是ヲ宣下ノ官ト云フ檢非違使ヨリ非藏人ニ至リテ皆如此

太宰府筑紫 九ヶ國ノ宰府也幸ハツカサトルト讀メリ官領職也此ノ頭ヲ帥ト云フ也太宰ノ帥ト云フ也親王ノ

任ニテ臣下ハ稀也此ノ下司ニ監典等アリ府ハ帥以下ノ居ル所ヲ云フ也唐ノ大都督府ニアタル也筑前 筑後

帥以下ノ俸祿ニ玉ハル所也太宰府鎮西府二ツノ名有リ太宰府ヲ置ケル初イマダ詳カナラズ 鎮西府ハ聖武帝

ノ御宇ニ始メラル、也筑紫モ奥州ノ如ク大國ナル故ニ鎮守府ノ如ク是ヲ置カル、也九州ト壹岐對馬二島ヲ領

スル也

帥シ(唐名)都督 相當從三位親王ノ任ナキトキハ花族ノ任也花族ハ高家也然レバ此ノ官高クシテ此ノ仁ヲ重ンズ

ル職也餘國ノ守ハ任四ヶ年ナルヲ此ノ帥ハ五ヶ年也勅任ノ官ニテ有品ノ親王ノ任也親王任シ玉フトキハ權ノ

帥又ハ大貳ガ主リテ政事ヲナス也又權ノ帥流人ナルトキハ大貳ガ政務ヲ聞ク也

權ノ帥ハ親王正帥ノトキハ任ズル也政務ノ事親王知リ玉フ事ニアラザレバ此ノ爲權ヲ置ク也權有ルトキハ大

貳ナシ大貳アルトキハ權ナキ也納言以上又ハ前納言ノ任也大納言中納言權ノ帥ニ任ズレバ帥ノ大納言帥ノ中

納言トヨブ也前ノ中納言ノトキハ太宰ノ帥ト云フ也○大貳 帥ノ次官也相當從四位下(唐名)都督大卿○參議

散二位三位等是ニ任ズル也非參議四位モ又例アリ散位非參議ノ事前ニ見ユ非參議四位ハ前ノ參議也前ノ宰相

トモ云フ也四位ノ公卿ハ宰相ニ限ル也宰相ハ參議ノ唐名也

少貳權相當五位下(唐名)都督少卿諸大夫五位ノ任也監シ(大少)典シ(大少アリ)略ス

諸衛府 左近衛ノ府 右近衛ノ府左衛門ノ府 右衛門ノ府 左兵衛ノ府 右兵衛ノ府是ヲ六衛府ト云フ也衛ハ

守也禁中ヲ守護スルノ儀也 府陣トモ云フナリ

左右近衛ノ府 此ノ陣ハ東ハ青瑣門ノ内西ハ月花門ノ内也東ハ左近衛陣西ハ右近衛ノ陣也云云武勇ノ職也内裡

警固也故ニ内衛府トモ云フ也天子ヲ近ク衛リ奉ルユエニ近衛ノ名アリ(唐名)羽林又親衛元ハ近衛中衛ト云ヒ

シヲ平城帝ノ時大同二年ニ近衛ヲ左近衛中衛ヲ右近衛ト改メラル、也中衛ト云フモ禁中ヲ衛ルノ儀也武道ノ

司トトリニシテ禁軍ヲ統領スル故異朝トモニ重ンスル職也

大將(左右)本式ハ左近衛大將右近衛大將ト云フ也掌リ近衛ニ同ジク弓箭兵仗ヲ帶シ天子ヲ守リ奉ル也是武官ノ

極官也文官ノ太政大臣ニ准ズル也攝家清花ノ外任ズル事アタハズ多ハ大納言ノ時兼官也但シ大納言ノ功久シ

キ上臈ノ人任ズル也サレドモ攝家ノ子息ニ於テハ上臈ニ限ラズ次第ヲ守ラズシテ任ゼラル、也多クハ左大將

也大臣ニ至リテモ其ノ儘兼任セラル、ガ規模也又中納言ハ左右共ニ任ズル也又大臣ヨリ相當ハオトリヌレド

モ萬ノ作法大將大臣ニカハル事ナシ著座ノトキハ尤大臣ノ次ニ著ク也大臣ニハ任ズレドモ大將ヲ兼スル事ハ

成リ難キ也文武ノ兩道ヲ備ヘタル規模ノ官也六十六代一條院ノ時ニ藤ノ道隆内大臣兼左大將是ハ大臣ノ任也

中納言ハ五十三代淳和帝也御宇良岑安世中納言兼右大將也大納言ハシルスニ不レ及○大將ノ始ハ嵯峨帝ノ御

宇始メテ置カル、也相當從三位(唐名)羽林大將軍

將軍ハ天下ノ亂ヲ治ムル逆事ニヨル故ニ常ニハ大將ト云フ也軍事有ルトキハ大將スナハチ將軍也其ノ故ニ幕

中將(左右)有り是モ本式ハ近衛ノ中將ト云フ也大將ニ同ジク禁中ヲ守護スル武威高貴ノ官也右ニ同ジク弓箭兵仗ヲ帶スル也弓箭兵仗ヲ帶スルトハ弓矢ヲ持テテ胡録ヲ負ヒ太刀ヲ佩キ老懸ヲカケル也太刀ヲ佩ク時ハ平緒ヲツクル也倭ハ冠ノ左右耳ノ上ニ付ケタルモノ也袖ニ書ク業平ノ形是也業平陽成院ノ朝ニ左中將也武官守護ノ具也衛府ノ具足ト云フ也但シ大臣大將ノトキハ倭ヲカケラレザル也總シテ東帶衣冠ノ上ニハサマノノ名目等アリ白地ニハ記シガタシ 此ノ官ハ攝家ノ子息清花ノ四位任ズル也又皇子ニ源ノ姓ヲ賜ヒテ臣下ノ位ニ成リ玉フヲ一世ノ源氏ト云フ此ノ人ノ子ヲ二世ノ源氏ト云フ也然シテ一世二世ノ人中納言ノトキ是ヲ兼ヌル也中納言是ヲ兼任スルヲ規模トスル也近衛中將大同三年ニ是ヲ置ケリ權アリ相當從四位下(唐名)羽林中郎將親衛中郎將中將ニ任ズレドモ四位ナレバ殿上人ト云フ也三位中將ハ大臣ノ子息孫ナラデハ叙スル事能ハズ二位中將ハ攝家ノ子息ノ外稀ナル事也五位ノ中將ハ攝關ノ子息元服ノトキ五位ニシテ中將ニ任ゼラル、也中將ハ清花大臣ノ外ニモ任ジ代々拜任ノ家有ル也

少將(左右)有り是モ本式ハ近衛ノ少將也前ニ同ジク大同二年ニ是ヲ置カルツカサトリ中將ニ同ジ兵仗ヲ帶シ胡録ヲ負ヒ弓ヲ持テ宿衛シテ天子ヲ守ル也(權少將アリ)相當正五位下(唐名)羽林次將五位ノ殿上人ノ中重代ノ公達ヲ任ズル也其ノ人四位ニ叙スルトキハ此ノ官ヲ去ル也但シ其ノマ、ツカサトル事大ナル規模天子ノ御恩也ト云云其ノ故ハ天子ヲ近クマモリ奉ル職ナレバ也三位少將ハ攝家ノ子息常ニ任ゼラル、也○藏八頭少將ヲ兼ヌル事古例也ト云云○辨官ノトキ是ヲ兼ヌルハ公達ノ中器量才智ナクシテハ任ゼラレズ任ズルハ規模也將監 是モ本式ニハ左右近衛ノ將監ト云フ也兵仗ヲ帶シ弓箭ヲ持ツ也禁中庭上ニテ守護ノ官也大將中將少將ハ堂上ナル故ニ御殿ニテ天子ヲ守ル也將監ハ地下ナル故庭上ニ在ル也(相當從六位上(唐名)親衛校尉六位諸

大夫ノ任也五位ニ叙スレドモ其ノマ、將監ノ官ヲ望ム事也五位諸大夫ハ昇殿スルユエナリサレバ庭上ノ官ニテ昇殿スルガ規模也又舞人樂人六位ノ侍等モ任ズル也古來左近ノ尉右近尉ト云フハ此ノ將監ノ事也將曹 八省ニ比スレバ允屬ノ心也是ヨリ已下府生番長皆隨身ト云フ舞人樂人近衛舍人等任ズル也(唐名)親衛錄事

府生 檢非違使ノ府生トハ心カハレリ是ハ供奉ノ官也又ハ近衛府ノ一切ヲ書キシルス役人也(唐名)衛史 近衛大將ノ下知ニテ任ズル官也

番長 (唐名)ナシ左右近衛府ノ番ヲナシ或ハ大將行クトキ先驅スルナリ近衛舍人ノ中ヨリ用ヒ出ダサル、也上皇 攝政關白 兵仗ヲ賜ハル大臣左右ノ大將ハ必ズ此ノ番長ヲツカヒ玉フ也内大臣已上ノ大將ヲ兼ネラレタルハ召シツカフ也大納言ノ大將ハ召シツカハザル也

外衛 六衛府ノ中此ノ四衛府ハ禁中ノ門外ヲ警固スル故ニ外衛ト云フ也

左右衛門ノ府 禁中外門ノ奉行也東ハ建春門是左衛門ノ陣也西ハ宜秋門右衛門ノ陣也是モ弓箭ヲ持スル武官也左衛門ヲ初負ト云フ也初ハ矢ヲ入ルル矢籠也禁門ヲ守ルユエニ終夜寤ヲ焚カスル也是ヲ衛士ノ燒火ト云フ御垣守衛士ノ燒ク火ト詠メルハ是也元ハ衛士府ナリシヲ嵯峨帝ノ時弘仁二年十一月ニ衛門府ニ改メ玉フ也(唐名)金吾又監門

督(二人)衛門ノ督也(相當從四位下(唐名)金吾將軍四府ノ中左衛門ノ督ヲ重ンズ大納言ノ兼任也右衛門ノ督モ左ニ同ジト云ヘトモ任漸ヤク劣リタル也中納言三四位等任ズル也

佐(二人)相當從五位上(唐名)金吾次將四五位ノ殿上人ノ中ヨリエラバレテ任ズル也

權ノ佐(二人)名家重代ノ中器量ヲ撰ビテ任ズ五位職人辨官ヲ兼テ衛門佐ニ任ジ使ノ宣旨ヲ蒙ルヲ三事ト云フ使宣旨トハ檢非違使佐ニ補スル事也此ノ佐ニ任ジヌレバ必ズ使ノ宣旨ヲ蒙ルハ必ズ職人ニ可任ノユエ也

尉(大少アリ)大ハ相當六位上少ハ正七位上也(唐名)金吾校尉六位ノ諸大夫同侍ノ中器量ヲエラシテ任ズ然ルヲエラバズシテ任ズルハ無念ノ事也ト云云當官ヨリ必ズ檢非違使尉ニ遷ル故是ヲ兼官ト云フ宣下ヲ蒙リ是ヨリ檢非違使ノ左右大少尉ニ任ズル者ハ他ニ異ナル規模也此ノ尉ト檢非違使ノ尉ハ五位ニ叙シテ猶トツムル也是レ規模ナル故也○志 府生アリ略ス

左右兵衛ノ府 只兵衛トヨム也守禁中一行幸時正行列次第宮中ヲ巡檢スル職也 唐名武衛

督一人相當從四位下(唐名)武衛將軍○中納言參議散二位三位非參議四位等皆是ニ任ズ○散位非參議ノ事見前此ノ職大略衛門ニ同ジトイヘトモ少シノカハリアリ

佐一人相當從五位上頼朝任レ之兵衛佐也新田義興左兵衛佐也(唐名)武衛次將

權ノ佐一人五位殿上人ノ中可レ然器量ヲ撰ミテ任ズル也但シ中ノ院花山ノ院大炊御門等英雄ノ家ハ直ニ近衛左右少將ニ任ズル故ニ此ノ佐ヲバ望マザル也

尉此ノ尉ハ分ケテ陽明門ヲ守ル職也(大少アリ)大ハ相當從六位下少ハ正七位上六位ノ諸大夫并ニ侍ノ任也是ヨリ多ク衛門ニウツル也○志 府生アリ略ス

左右馬寮 天子之厩也(唐名)典厩

頭一人武官也將軍タル人任レ之也多田滿仲モ左馬頭タリ又源義朝保元ノ軍功ニ依リテ此頭ニ任ゼラレシ也

此ノ頭ハカウトヨムガナラヒ也(相當從五位上)唐名典厩令四位五位ノ中ヨリエラシテ任ズル也武官ニシテ重職也

權ノ頭(二人)五位殿上人任ジ又地下ノ諸大夫モ任ズ諸大夫ハコトニ規模也○助一人權一人相當正六位下唐名典厩少令 五位ノ諸大夫ノ任也此ノ助ハ他官ノ助ニカハリテ五位ノ侍任ズルハ規模ノ官也冷泉院ノ朝ニ多田滿仲左馬ノ助ニテ有リシ也○允(大少アリ)六位侍ノ任也瀧口ノ侍ハ無官也官ヲタマハルトキハ任ニ此允例也 屬(大少アリ)畧ス

兵庫寮 萬ノ武具ヲ納ムル天子ノ御藏也(唐名)武庫署頭一人諸ノ兵具ヲ出シ納レアシキヲバ直シ守ル司也平正盛モ此ノ頭也源ノ頼政モハジメ此ノ頭ニテ從五位下也 相當從五位上(唐名)武庫令 五位諸大夫ノ任也 助權相當正六位下六位ノ諸大夫任ズル也(唐名)武庫少令○允(大少)屬(大少)略ス

外武官 禁中ノ司リノ外ノ武官

鎮守府 事前ニシルス

將軍一人相當從五位(唐名)鎮東將軍○將軍ト稱スル人ハ則チ鎮守府ノ將ナル故鎮守府ノ將軍ト云フ 征夷將軍 東夷將軍ハ國ニ賊起ルトキ是ヲ任ジ攻メ平ゲテ後ハ是ヲヤムル也

將軍相當ハ五位也建武三年ニ三位已上ニ鎮守府ノ將軍ヲ勅シ玉フ也然ルニ三位以上ハ位高ク將軍ノ職ハヒキキユエ大ノ守ヲ加ヘテ大將軍トナシ玉フ是參議右近衛中將源顯家ニ始マル大將軍異朝ニ任リテハ凡ソ三公ニヒトシ○將帥 將軍ヲ云フ也○元帥ハ大將也

副將軍(二人)中古已來不任云々

軍監 前ニ見ユ相當正七位下唐名兵曹 參軍事

軍曹 同 相當從八位上唐名上鎮錄事

僚仗 二人重代ノ武士ヲ撰ブ也將軍判授ノ官也陸奥守ニハ二人按察使ニハ四人タマハル也將軍ノ事一切ノ小事ハ此ノ僚仗ツカサトル也令義解ニ曰ク三軍官者大將軍一人將軍三人副將軍四人軍監(四人)軍曹(十人)錄事(八人)云云

征夷使 四夷ヲ鎮ムルノ使也武將ノ重職也大將軍一人前ニシルヌ四府將軍ハソレトノ國ノ將軍也征夷大將軍ハ一天四海ノ大將軍也○征夷日本武尊東夷ヲ征シ玉ヒシヨリ此ノ號有リ未ダ征夷將軍トハイハズ其ノ後五十一年平城帝ノ時ニ文屋綿丸ヲ征夷將軍トス是ニ始マル其ノ後同御宇坂上田村九勢州鈴鹿ノ凶賊ヲ追討スルトキ征夷將軍トナス又六十一代朱雀院ノ時藤原忠文朝臣將門ヲ征スルトキ征夷將軍ニ任ズ其ノ後此ノ號中絶シテ安德帝ノトキ壽永二年源義仲シバラク任之其ノ後權大納言右近衛大將源賴朝卿大納言右大將二ツノ職ヲ辭シテ鎌倉ニカヘラル後勅有リテ征夷大將軍ニ任ジ玉フ也是ヨリ連綿シテ絶エズ歷代將軍家ト稱シ玉フ也賴朝ハ平家追討ノ軍功ニ依リテ也

已上諸官諸位畢

僧官位 僧位ト云フハ傳燈法師傳大法師法橋法眼法印是也○官ト云フハ律師僧都僧正也○是ヲ俗官ニ比スレバ法橋法眼律師ハ五位ノ殿上人ニ准ズル也法印僧都ハ四位ノ殿上人ニ准ズル也
權僧正ハ參議ニ准ジ正僧正ハ中納言ニ准ジ大僧正ハ准ニ大納言也諸寺ノ三綱社官ノ僧ハ准ニ地下四位諸大夫ニ是建武年中ノ定式也

弘仁格ニ有ニ定數ニソレニ從儀師八人威儀師四人權八人律師四人○僧正初權ヨリ正ニウツル是ヲ轉正ト云フ正ノトキハ只僧正トヨブ也

三綱ハ寺主 上座 都維那是也 寺主ハ住寺也上座ハ法事已下等寺役ノ掌リ也衆ノ上ニ座スル也都維那ハ寺内万事ノマカナヒ金銀米穀以下ノツカサドリ也

上古ハ傳燈法師位ヨリ上リシヲ中古ヨリ法橋ヲ初トシテ法眼法印トノボル也位官相當律師官ニ任ズルハ相當法橋也僧都ハ法眼僧正ハ法印ノ位ニシテ官ニ任ゼラル、ハ僧正ノ外ナキ也

右官ノ外ニ職ト云フモノアリ已譯内供檢校別當阿闍梨阿口長者等也處ニヨリテ替リ有リ高野山ニテハ山ノ頭ヲ檢校ト云ヒ又阿古トモ云ヒ頭ヲ別當ト云フ處モアル也又座主 檢校 別當是ヲ長吏ト云フ長吏ハ棟梁ト同シ心也○行事 勾當 公文是ヲ云ニ所司也○座主多クハ天台ノ主ヲ云フ長者藤氏源氏ノ長者ノ心ニ同シ是眞言ニテノツカサトリ也僧正ノ職ナリ則チ此ノ長者ニナル人紫雲殿ノ御修法ヲ行ハル、也是眞言ノ重職ニテ双ブ者ナキナリ阿闍梨官ニハアラズ法師ノ通號也梵語也灌頂ノ大阿闍梨トテ灌頂ヲウツベキ人天子ヘ奏シ申シテ此ノ宣下ヲ申シ受ケラル、事アレドモ官ニハアラズ此ノ宣下ハ寺ニヨリ人ニヨル事ナレバ灌頂ヲウツ人必ズ宣下ヲウクルニハ非サル也(天台眞言ニアリ)沙門大德ハ有官無官共ニ通號也長者 上人 和尚 是モ官ニハアラズ通號也其ノ人ヲ賞シタル詞也然レドモ近代和尚 上人號別シテ禁中ヨリ申シウクルハ各別ノ義也但シ禪家ニ比スレバ和尚ハ法印ニ准ズ淨土家其ノ外ニテハ上人ハ准ニ法橋一歟 大德長老上人諸宗ニワタル也其ノ内日蓮宗ニハ上人ト云ヒテ長老ノ詞ナシ和尚ハ天台三論法相禪淨土ニ用フル也淨土又上人トモ云フ天台淨土ニハ和尚也禪家ニハ和尚ト云フ也 ○禪師ト云フハ其ノ宗ニテ尊ビテ言フ詞也別シテ勅許ヲ申シウクル

事モアリ此ノ時ハ多クハ詮號也存命ノ時ハ特賜號也特賜ハコトニタマハルトヨメリ○大師 詮號 傳教 慈
覺 弘法 智證イヅレモ詮號也○國師右ニ同シ天子法ヲ問ヒ玉フ御師範ノ僧ニ有ニ此號

法親王ノ位ハ四品ヨリ三二品ニ至リ玉ヒテ御門跡ト申ス也門跡ハ仁和寺ニ始マル又攝家清花ノ子息住持アル
寺并ニ一向宗東西ノ本願寺イヅレモ門跡ノ號アリ皆天子ノ勅許ノ號也本願寺ハ大僧正ニ至リ寺家ニハ法印アル
也同院一家庶縁ナド、云フ事アリ是ハ家ニテ立テラル、流儀也

禪家 五山勅許ノ和尚ハ紫衣也其ノ末寺ハ本山ニシテ出世スレ也總シテ出世ノ儀式サマノ有リテ俗ニ長老成
ト云フ也立成居成ナド、テ高下アリ五山ハ天龍寺南禪寺相國寺建仁寺東福寺萬壽寺也

此ノ外大德寺妙心寺ハ勅願所ナル故同ジク紫衣也右イヅレモ濟家也此ノ階級ノ事藏主主座單寮西堂トノボル是
則チ和尚也同ジク洞家ノ本寺ハ越前ノ永平寺能登ノ總持寺也元祖道眼和尚ノ遺戒ニテ王城ニ住シ天子大臣ニ近
ヅクベカラズト制シテ宇治ノ興聖寺ヨリ越前へ蟄居アル也此ノ寺黃衣也イヅレモ出世ハ參内セラル、也末寺ノ
僧ノ出世右ニケ寺ノ本寺ノ内一ヶ寺ノ住持職ニ補セラル、ヲ以テ出世トシ東堂ト稱スル也此ノ時ハ則チ宗旨ノ
傳奏勸修寺へ申シ入レテソレヨリ次第ニ奏聞ヲトゲラル、也

天台眞言ノ末寺出世ハ座主宮法務宮ノ御免ヲ得ル也又高野山ニテ法印マデ至ル事アレドモ仁和寺法務宮ノ令旨
ヲ申シ請クルトハ各別也

淨土宗 本寺鎮西西山ノ二流共ニ紫衣也鎮西ハ知恩院淨花院光明寺(黒谷) 智恩寺已上四ヶ寺也西山ハ光時寺
(西山)禪林寺(東山)已上二ヶ寺也此ノ外末寺ニテモ勸願寺ナドアリテ紫衣ノ寺有ル也此ノ宗ハ出世ヲ上人トモ
長老トモ和尚トモ云フ也出世ノトキハ本寺へ云ヒイレ夫ヨリ傳奏へ申シ達スレバソレヨリ長橋局内奏有リテ職

事ヨリ御免ヲイタ、ク也多クハ參内ハセザル也中ニモ先例ノ寺ハ參内アル也長橋ノ局ハ勾當内侍是也女官ノ上
膺也

法華宗 本寺洛陽大光山本國寺甲斐國身延山久遠寺也此ノ外洛陽廿一ヶノ本寺有ル也但シ此ノ内一致ハ久遠
寺ニ從ヒ勝劣ハ富士ノ本門寺大石寺ヲ本寺トス多クハ私官也中ニモ僧正ニイタル寺モアリ是ハ尤參内スル也其
ノ外出世ノトキハ廿一ヶ寺ヲメクリテ入院ノヨシヲ告クル計也是ヲ上人ト號シ色表紫袈裟ヲ著スル也洛陽法華
寺ノ初メハ妙顯寺也此ノ寺ニ元祖日蓮菩薩詮號ノ繪旨等アル也末寺ニモ上人寺ト號スルハ代々上人也此ノ出世
ハ其ノ本寺ニ禮ヲスル計也寺家僧ハ何坊ト號シソレヨリ院號ヲツクル也

時宗 本寺ハ相模ノ藤澤清淨光寺也此ノ寺代々陀阿上人ト號シ出世ニハ參内セラル、也末寺京都ニ有リ此ノ中
ニモ先例アルハ出世ニハ末寺トイヘドモ勸許ヲ蒙リ參内スル也元祖一逼上人ハ四國上野ノ一族也大隱逸ノ人ニ
テ一所不住ノ僧也故ニ遊行ノ號アリ此ノ人和歌ヲ詠ジテ心目ヲスマサレシヨリ代々風雅ノ道ヲタシナマル、也
末寺寺號ハアレドモ何ノ道場トモ云フ也道場ハ法會ノ所ヲ云也名ハ何阿彌ト云ヒ寺家ヲ何庵ト云フ也

ソレ官ヲ持スルハソレノ職アル事也是官ニツキタル役儀也僧官ニモ其ノ役アル也本式ハ天台眞言華嚴三
論法相ナラデハ官ナシ此ノ寺々都南都北嶺ニ在リテソレノ職掌ツタハリ又ハ天子ノ繪命ニ依リテツト
ムル法會アル也此ノ外ハ位ニ叙スレドモ官ナシ惣ジテ禪淨土一向日蓮宗ナド古ハ沙汰ナシ出世ナド云フ事ハ
近代也○此ノ外律家ニハ以ニ戒儀ニ專ニ道德ニ故無ニ出世儀ニ五戒八戒ノ者ヲ沙彌ト稱シ二百五十戒ヲ持スルヲ
曰ニ比丘也然ルニ今無戒ノ僧ヲ比丘ト云フ名字ノ比丘ニシテ實儀ニハアラズ又今世住持ト云フモ寺持チノ通
稱也是モ戒德如法ノ人ナラデハイハザル也首楞嚴疏ニ曰安住覺性三德秘藏任持萬善功德不レ失謂ニ住持

事モアリ此ノ時ハ多クハ諡號也存命ノ時ハ特賜號也特賜ハコトニタマハルトヨメリ○大師 諡號 傳教 慈覺 弘法 智證イヅレモ諡號也○國師右ニ同ジ天子法ヲ問ヒ玉フ御師範ノ僧ニ有ニ此號

法親王ノ位ハ四品ヨリ三二一品ニ至リ玉ヒテ御門跡ト申ス也門跡ハ仁和寺ニ始マル又攝家清花ノ子息任持アル寺并ニ一向宗東西ノ本願寺イヅレモ門跡ノ號アリ皆天子ノ勅許ノ號也本願寺ハ大僧正ニ至リ寺家ニハ法印アル也同院一家庇縁ナド、云フ事アリ是ハ家ニテ立テラル、流儀也

禪家 五山勅許ノ和尚ハ紫衣也其ノ末寺ハ本山ニシテ出世スル也總シテ出世ノ儀式サマシク有リテ俗ニ長老成ト云フ也立成居成ナド、テ高下アリ五山ハ天龍寺南禪寺相國寺建仁寺東福寺萬壽寺也

此ノ外大德寺妙心寺ハ勅願所ナル故同ジク紫衣也右イヅレモ濟家也此ノ階級ノ事藏主主座單寮西堂トノボル是則チ和尚也同ジク洞家ノ本寺ハ越前ノ永平寺能登ノ總持寺也元祖道眼和尚ノ遺戒ニテ王城ニ住シ天子大臣ニ近ヅクベカラズト制シテ宇治ノ興聖寺ヨリ越前へ塾居アル也此ノ寺黃衣也イヅレモ出世ハ參内セラル、也末寺ノ僧ノ出世右ニケ寺ノ本寺ノ内一ケ寺ノ住持職ニ補セラル、ヲ以テ出世トシ東堂ト稱スル也此ノ時ハ則チ宗旨ノ傳奏勸修寺へ申シ入レラソレヨリ次第ニ奏聞ヲトゲラル、也

天台眞言ノ末寺出世ハ座主宮法務宮ノ御免ヲ得ル也又高野山ニテ法印マデ至ル事アレドモ仁和寺法務宮ノ令旨ヲ申シ請クルトハ各別也

淨土宗 本寺鎮西西山ノ二流共ニ紫衣也鎮西ハ知恩院淨花院光明寺(黒谷) 智恩寺已上四ヶ寺也西山ハ光時寺(西山)禪林寺(東山)已上二ヶ寺也此ノ外末寺ニテモ勸願寺ナドアリテ紫衣ノ寺有ル也此ノ宗ハ出世ヲ上人トモ長老トモ和尚トモ云フ也出世ノトキハ本寺へ云ヒイレ夫ヨリ傳奏へ申シ達スレバソレヨリ長橋局内奏有リテ職

事ヨリ御免ヲイタ、ク也多クハ參内ハセザル也中ニモ先例ノ寺ハ參内アル也長橋ノ局ハ勾當内侍是也女官ノ上臈也

法華宗 本寺洛陽大光山本國寺甲斐國身延山久遠寺也此ノ外洛陽廿一ヶノ本寺有ル也但シ此ノ内一致ハ久遠寺ニ從ヒ勝劣ハ富士ノ本門寺大石寺ヲ本寺トス多クハ私官也中ニモ僧正ニイタル寺モアリハ尤參内スル也其ノ外出世ノトキハ廿一ヶ寺ヲメクリテ入院ノヨシヲ告クル計也是ヲ上人ト號シ色表紫袈裟ヲ著スル也洛陽法華寺ノ初メハ妙顯寺也此ノ寺ニ元祖日蓮菩薩諡號ノ繪旨等アル也末寺ニモ上人寺ト號スルハ代々上人也此ノ出世ハ其ノ本寺ニ禮ヲスル計也寺家僧ハ何坊ト號シソレヨリ院號ヲツクル也

時宗 本寺ハ相模ノ藤澤清淨光寺也此ノ寺代々陀阿上人ト號シ出世ニハ參内セラル、也末寺京都ニ有リ此ノ中ニモ先例アルハ出世ニハ末寺トイヘドモ勸許ヲ蒙リ參内スル也元祖一遍上人ハ四國上野ノ一族也大隱逸ノ人ニテ一所不住ノ僧也故ニ遊行ノ號アリ此ノ人和歌ヲ詠ジテ心目ヲスマサレシヨリ代々風雅ノ道ヲタシナマル、也末寺寺號ハアレドモ何ノ道場トモ云フ也道場ハ法會ノ所ヲ云也名ハ何阿彌ト云ヒ寺家ヲ何庵ト云フ也

ソレ官ヲ持スルハソレノ職アル事也官ニツキタル役儀也僧官ニモ其ノ役アル也本式ハ天台眞言華嚴三論法相ナラデハ官ナシ此ノ寺々都南都北嶺ニ在リテソレノ職掌ツタハリ又ハ天子ノ繪命ニ依リテツトムル法會アル也此ノ外ハ位ニ叙スレドモ官ナシ惣シテ禪淨土一向日蓮宗ナド古ハ沙汰ナシ出世ナド云フ事ハ近代也(此ノ外律家ニハ以テ戒儀專ニ道德ニ故無ニ出世儀ニ五戒八戒ノ者ヲ沙彌ト稱シ二百五十戒ヲ持スルヲ曰ニ比丘也然ルニ今無戒ノ僧ヲ比丘ト云フ名字ノ比丘ニシテ實儀ニハアラズ又今世住持ト云フモ寺持チノ通稱也是モ戒德如法人ナラデハイハザル也首楞嚴疏ニ曰安住覺性三德秘藏任持萬善功德不レ失謂ニ住持

云云

阿闍梨 名義集 闍梨或阿祇梨或阿遮梨耶唐言ニ軌範ニ隋言ニ正行ニ能糾ニ正弟子行ニ云云
法橋 法眼 法印ノ位剃髮スレバ諸ノ工人佛師繪師等又ハ醫師モ任ズル也醫師ノ法印ハ八省ノ卿ヲ兼ヌル也
工人位ニ至ルハ後一條ノ院ノ御宇ニ佛師定朝任ニ法橋ニ此ニ始マル也

有職袖中鈔 終

明治三十三年六月十一日印刷
明治三十三年六月十九日發行

故實叢書

編輯者 今泉定介

發行者 吉川半

東京京橋區南傳馬町一丁目十二番地

印刷者 野村宗十郎

東京京橋區築地三丁目十五番地

印刷所

株式會社 東京築地活版製造所

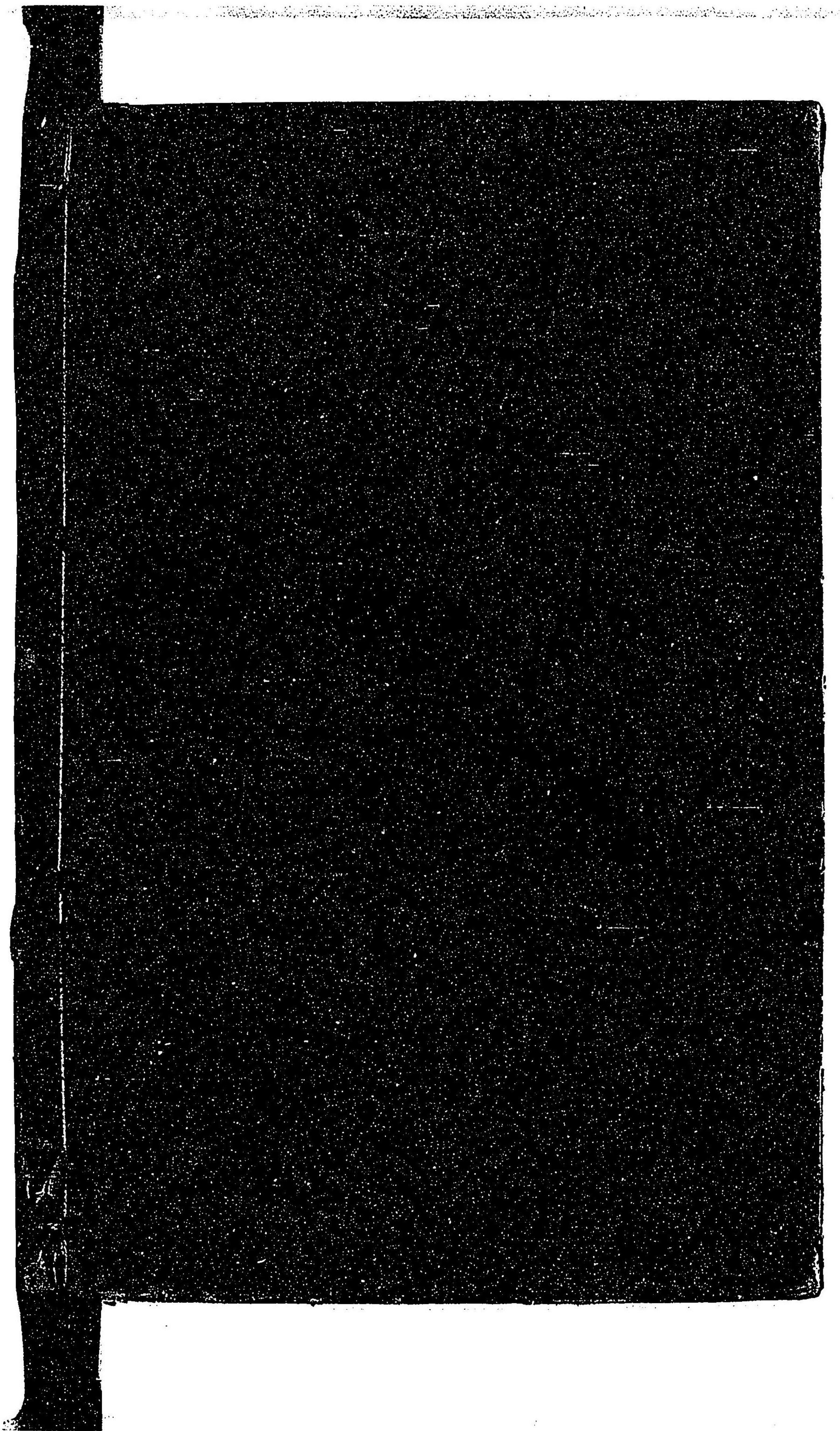
東京京橋區築地二丁目十七番地

192

55

192
55





001470-024-9

192-55

故実叢書

今泉 定介/編

M32

ACB-3825

